



FS 2025 学内報告会

# 岩手県大槌町

「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて

# チーム紹介



**グウエントウジャン**  
**教育学部4年**



**安田百合香**  
**医学部3年**



**中村光哉**  
**工学部2年**



**坂尾蒔日花**  
**教養学部2年**

# 大槌について

- 盛岡市から車で約 2 時間
- 人口約 1 万人
- 海、山、川など豊かな自然に恵まれた町



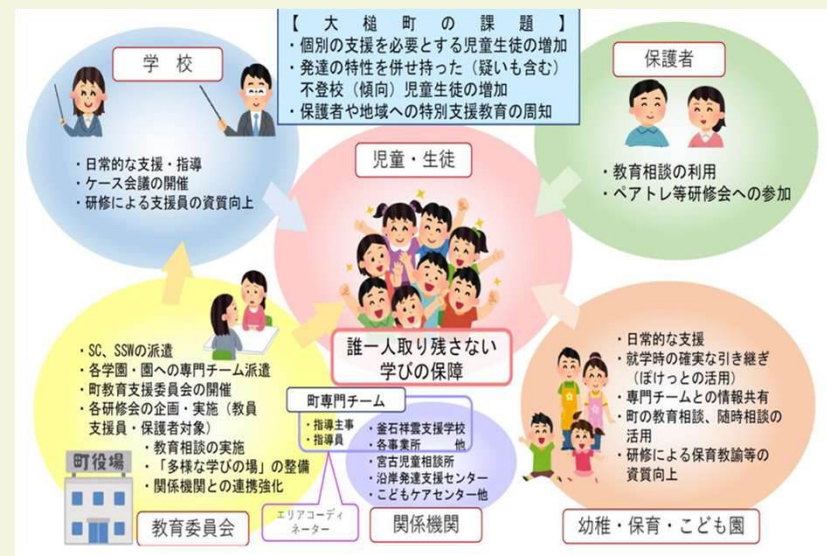
# 大槌の教育

## けやき共育

大槌町の0歳から18歳までのすべての子どもたちに向けて

**誰一人取り残さない  
学びの保障の実現**

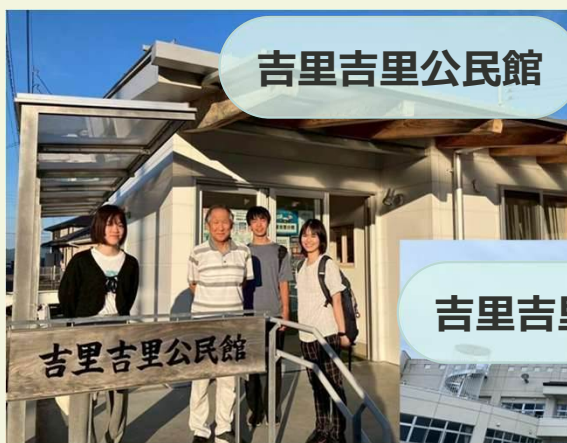
を目指す。



# 現地訪問

## 取り組んだこと

複数の教育機関や関係者への訪問と  
ヒアリング



## 気づいたこと

コミュニティの小ささ

- 親子の関係性の複雑さ
- 不登校支援に必要な時間の長さ
- 大学への馴染みのなさ
- 「精神的に幼い」児童の増加

など...

# 大槌の課題

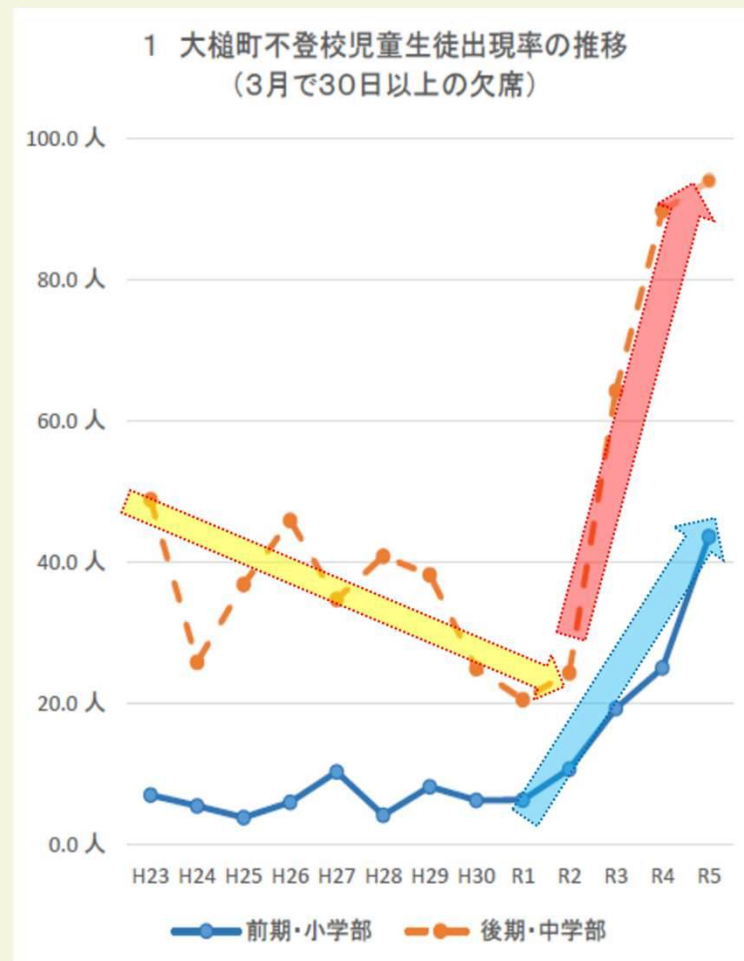
## ① 不登校児童生徒の急激な増加

コロナ禍以降、不登校児童生徒出現率が急増。  
全国的にも高い数値。

→ 背景は様々だが、子どもたちの**心の成長や  
特性**への理解不足が共通に関連している

## ② 大学へのアクセスが限られている

地域での大学進学率が低く、児童生徒保護者  
とも身近でない。



# 私たちの提案

## ① 自分の気持ちを言葉にする・友達について知る取り組み

感情表現の困難の蓄積による対人関係の問題や心の悩みを防ぐ

## ② 大学への進学を身近に感じてもらう取り組み

大学進学は子どもだけでなく保護者にとってもまだ身近ではなく、このままでは将来の可能性を狭めてしまう可能性がある。

**これらの取り組みの第一歩となるような企画を実施**

# 企画① 大学生と話そう

## ②大学への進学を身近に感じてもらう取り組み

大槌学園 7～8年生（中学 1～2年相当）と大槌高校生の希望者 15名程度に向けて座談会を行った。

参加者の学習や進路の悩みについて話し合うことができ、**大学についてイメージを膨らませることができた。**



## 企画② 大学について知ろう

### ②大学への進学を身近に感じてもらう取り組み

小学校低学年とその保護者に向けて、大学生活の紹介や授業の説明など、大学生を体験できるような企画を行った。

児童には**大学に親しみをもってもらう**ことができた。また、保護者からは**東京の大学に通う人からしか聞けない意見を聞けた**と評価していただいた。



# 企画③ 気持ちについて考えよう

## ①自分の気持ちを言葉にする・友達について知る 取り組み

吉里吉里小学校4年生に向けて、昨日一日の気持ちをグラフ形式で表し、見比べることで共通点・違いを考えてもらった。釜石市の校長4名にも見学に来ていただいた。

**同じ経験をしていても人によって感じ方が違うこと**を感じてもらえた。また、見学に来た方からは**高評価と今後に向けたフィードバック**をいただいた。

後日、自主的に取り組んでくれた！



# 今後の活動提案

不登校支援に対して直接的な政策提案をすることはできなかった。

原因として考えられるのは以下のもの。

1. けやき共育はすでに複雑な体制となっており介入する点を見つけづらい  
→ システムをより単純に捉え直し、その中で子どもと大人をつなぐ大学生という立場を活かした介入法を考える。
2. 不登校支援は一朝一夕で終わるものではなく、年単位のスパンで継続して行うべき  
→ 今回行ったような企画や、けやき共育全体として一人ひとりへの支援が引き継がれていく環境の整備をする。

A photograph of four people standing behind a black metal railing, looking towards the camera. They are outdoors, with a clear blue sky and a large body of blue water in the background. In the distance, there are green mountains and a small island. The scene is bright and sunny. A semi-transparent teal oval is overlaid on the image, containing the Japanese text.

ご清聴ありがとうございました

# 人口が減少しても 成立する村づくり

---

2025年度東大FS 岩手県田野畑村チーム  
林恭弘・蛭間英恵・竹中吉平



# 目次

---

01

岩手県田野畑村の概要

02

現地活動

03

「人口が減少しても成立する村づくり」への提案

04

村の将来像と集落のターミナルケア

05

活動を通じて学んだこと

# 目次

---

01

岩手県田野畑村の概要

02

現地活動

03

「人口が減少しても成立する村づくり」への提案

04




村の将来像と集落のターミナルケア

05

活動を通じて学んだこと

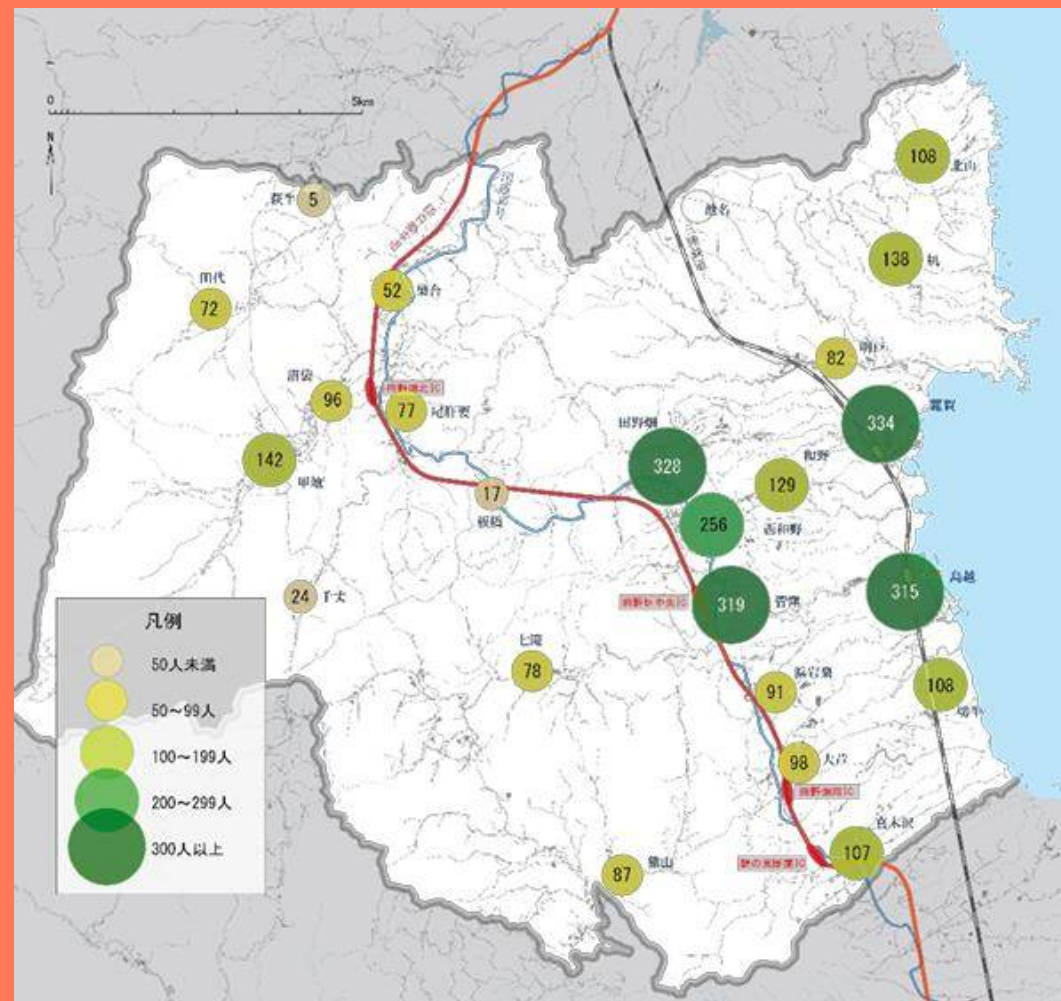
# 田野畑村の概略

田野畑村は、北山崎に代表される絶景と、豊かな海の幸・山の幸に恵まれた村

-  人口：2,800人強（ピーク時には6,000人超）
-  教育：小中それぞれ1校
-  特産：ウニ・ワカメ・マツタケ・乳製品など

## 【課題】

右図の通り、  
広大な土地（23区の約1/4）に住民が分散。



# 目次

---

01

岩手県田野畑村の概要

02

現地活動

03

「人口が減少しても成立する村づくり」への提案

04

村の将来像と集落のターミナルケア

05

活動を通じて学んだこと

# 第1回現地活動：沼袋地区を中心とした世帯訪問

※一部抜粋



現状、特別不満に思う不便はあまりない。



将来的に人が減っていくと、寂しい。また、自治会の負担増加は不安。



できることなら、神輿を残したい。お祭りがなくなってしまったのは寂しい。



## 第2回現地活動：若者や一次産業従事者へ

※一部抜粋



漁法にもよるが、一部を除き基本的に水産業は芳しくない。漁協の旧弊もある。



必ずしも土地に執着があるわけではなく、自分の子供にUターンを望みはしない。



経済的な豊かさより、そういう生き方を望んで田野畑で働いている。



# 目次

---

01

岩手県田野畑村の概要

02

現地活動

03

「人口が減少しても成立する村づくり」への提案

04

村の将来像と集落のターミナルケア

05

活動を通じて学んだこと

# 村づくりで重視すべきこと

---

01

住民間の繋がりと  
互助インフラ

02

産業の安定

03

住処・故郷としての  
誇り

# 「人口が減少しても成立する村づくり」への道

---

## ■ 「集落おさめ」

村の中に点在する集落で物理的な「孤立」が生じる前に自分たちの手で、誇りを持って、集落を「仕舞う」こと。



住民が村の中心部へ集まれば、様々な問題に活路が生じる。

- 孤立の解消と互助インフラの維持
- 「道の駅」などのさらなる活用による産業振興
- 祭りなどの文化の存続

# 目次

---

01

岩手県田野畑村の概要

02

現地活動

03

「人口が減少しても成立する村づくり」への提案

04

村の将来像と集落のターミナルケア

05

活動を通じて学んだこと

# 「集落おさめ」の乗り越えるべきハードル

---

01

- 住んできた集落への思い出
- 土地の権利関係の整理
- 土地に残る空き家問題



移住元

02

- 心理的負担



移住先

03

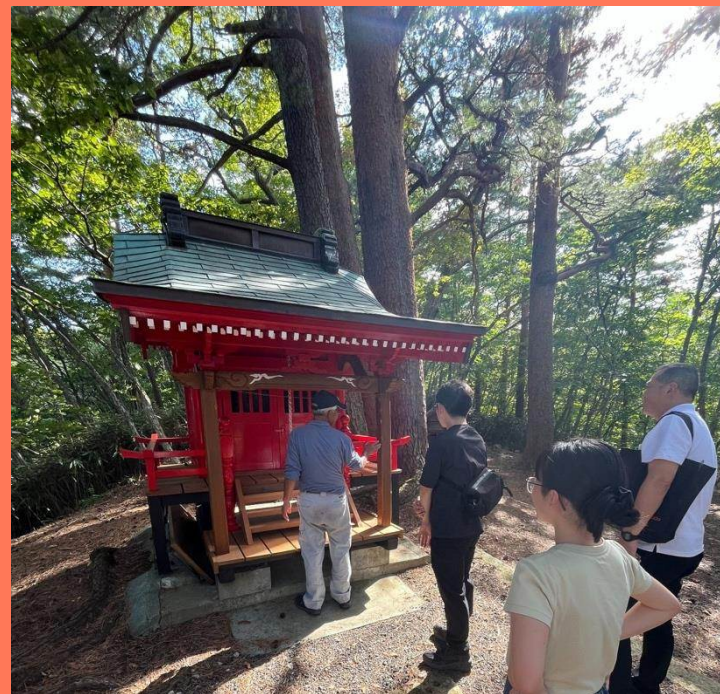
- 受け入れる住居の存在
- 「おか」と「はま」の摩擦

# 「思い入れ」に対するケア：ターミナルケア

---

物理的な集落がなくなっても、その土地の「魂」は残るので、その土地に対する思いをどのように慰撫していくのかを考える必要がある。

- 土地の将来のあり方に関する住民協議
- 集落の映像・写真によるデジタル保存
- 集落の文化・お祭りのデジタル保存
- 集落の歴史の整理



沼袋地区のお社

# 他のハードルについては、ポスターに！

## 人口減少の中でも成立する村づくり

FS岩手県田野畑村チーム  
林緑弘・笠原英恵・竹中吉平

### 01 田野畑村の概略

実積：東京23区のおよそ1/4  
人口：1,831人強（ピーク時は2,110人）  
世帯：1,317世帯強  
教育：小中1校ずつ



### 02 現地活動

【第1回現地活動】旧郡地区を中心とした啓蒙活動  
【第2回現地活動】前半部・一次産業従事者にヒアリング  
住民の皆さんへ

- 現状、特別不遇に思う不便はあまりない。
- 将来的に人が減ると寂しい。また自治会の負担増加が懸念。
- 沖寒・お祭りなど集落の文化はできれば残したい。
- 途中、水産業の発展に期待が寄せられる。漁獲の増減も、土産への依存は比較的薄く、子供には自由にしてほしい。
- 経済的な豊かであり、ここで住むことを選んでいる。

### 03 「集落おさめ」

「集落おさめ」：村の中に点在する各集落で、無理なく「自立」が生じる前に、自分たちの手で旗を立てて集落を「仕舞う」こと。



### 04 「集落おさめ」のハードルの克服

- 移住元の集落への「思い入れ」に対するケア：「集落のタネミツクワ」
  - 土地の所有権のあり方に関する。住民主体の協議
  - 集落に関する映像・ドキュメントのデジタル保存
  - 集落の文化・お祭りのデジタル保存
  - 集落の歴史の整理
- 土地の権利関係の整理
  - 所有権を保持したままに、管理・処分権を村や社に移転する「例借スキーム」の確立と周知。
  - 「土木バンク」の取組など、そこへの集約のインセンティブ設計
- 土地に暮らす空き家問題
  - 賃貸・リースの質を高め、研究の拠点を拠点として。
  - 解体・集落集約の一歩実用によるコストダウンを実現しながら、自治体は建築物維持のための機軸を確保する。
- 心情的負担：移住のインセンティブ設計
  - 正のインセンティブ「アメ」：移住先地域の交通網の拡充
  - 負のインセンティブ「ムネ」：移住元地域の交通網の削減
- 受け入れる住居の存在
  - 現状で暮らしている村居住宅の利用条件の緩和
  - 中心部に見られる空き家のリノベーション
- 「おむ」と「はま」の集落
  - 前期は自己目的の「中心部おむ」生活プロジェクトというような、小規模な計画から始め、徐々に相互理解を深める。

### 05 村の将来像

- 自立を促すために中心部へ集住
  - 特に、道の駅などの集落
  - 道の駅を軸には集落集約と移住の2軸を進めることになる。
- 中心部の制度性強化
  - 設備面などが充実する
  - コンビニ店舗に集まる可能性もある
- 交流の場の拡充
  - 図書館やお寺を中心としたコミュニティカフェ
  - 学業の場を世代間交流の場にする
- 移住者自らのための最小限のインフラ確保
  - 農業や漁業従事者を中心とした、居住区域を移していく1次産業従事者
- 1. 山形部
  - 集落集約後の土地を農的、新規移入者が活用しやすい環境を確保。
- 2. 沿岸部
  - 可能な限り、「外洋漁業」から「内海漁業」へ。
  - 「あちのく電通スタイル」を活用、老い手業のスキー場を移住インセンティブを、夏のトレイル客へと誘導。
- 移住元の集落の文化保存の観点
  - 集落の集約的土木を移住するなど

# 目次

---

01

岩手県田野畑村の概要

02

現地活動

03

「人口が減少しても成立する村づくり」への提案

04

村の将来像と集落のターミナルケア

05

活動を通じて学んだこと

# 学んだこと

---

01

人と人の繋がりが重要だが、その程度は多様。

- 物々交換のような強い関係も当然重要
- 「話さずとも見知っている」という弱い関係も重要

02

当然のことながら住民の皆さんは経済的効率性ではない価値を重視している。政策について語る時には、決してそうした視点を度外視してはならない。

ご清聴ありがとうございました!!!



# 山形県高畠町 最終報告

2026/3/16(月)

於本郷キャンパス伊藤謝恩ホール

# 高畠町の取り組みとミッション

# 高畠町の取り組み

## 日本一 人を育てるまち

人口減少が進み、消滅可能性自治体に追加された高畠町は官民協働による持続可能なまちづくりを目指す

### 人財育成を軸とした官民協働のまちづくりについて

高畠町では、町民・行政・企業などが協働し、「日本一人を育てるまち」をスローガンに掲げ、官民協働のまちづくりを推進しています。

「官民協働によるまちづくりプラットフォーム」の組織化を見据え、地域課題解決のための起業・創業支援、県外生との交流による小中高連携による町教育の魅力化、子育て支援の3つのプロジェクトを優先的に立ち上げ、そこに二地域居住推進も加え、持続可能なまちづくりを目指します。



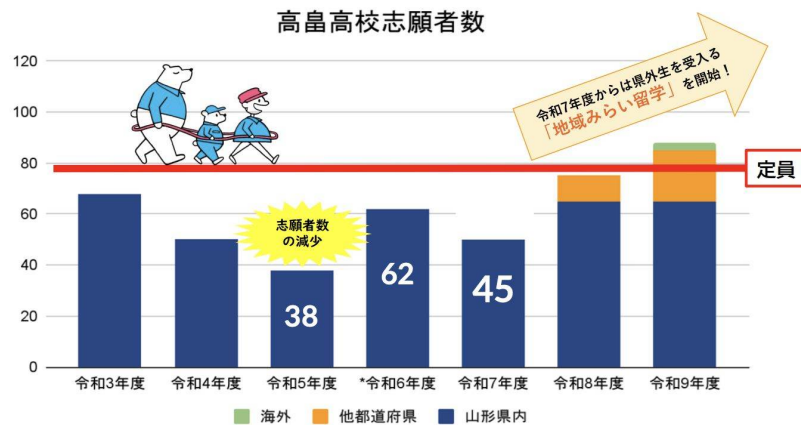
※本事業は、新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）を活用して実施しております。

# 高畠町の取り組み

## 高畠高校「高畠ゼミ」

志願者数減少の原因分析・対策を考える、  
3年生有志による活動

県外生を受け入れる「**地域みらい留学**」  
の開始に伴い、県外への情報発信を強化



## 高畠高校の志願者数増加

「高畠ゼミ」生の活動を伴走支援を通じて、  
県内外生に「高畠ならではの」学びの魅力を伝える

# 1年間の活動

# 1年間の活動

6月

顔合わせ  
高畠ゼミ開始

7月

第一回現地活  
動(オープンス  
クール)

8月

マスコット  
文化祭準備

9月

文化祭準備

10月

第二回現地活  
動  
(文化祭)



# 1年間の活動

11月

アイデアコンテスト  
ト  
ポスターセッション準備

12月

山形幸せ  
サミット

1月

1年間の活動  
のまとめ

3月

第三回現地活動



活動を通じて感じた問題とその背景

# 活動を通じて感じた問題

## 「広報タスクをこなす場」になってしまっている高畠ゼミ

志願者数減少の根本的な原因を理解していない



先生から言われた取り組みをこなすための活動となっており、  
ゼミ生が**主体的に県外生へ情報を発信するための提案を  
作ることができていない**

# 問題の背景

## 各関係者同士の連携不足が深刻

生徒	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動の主体が高校3年生であり、受験との両立でそもそも負担が大きい</li><li>・単年活動でノウハウが蓄積されにくく、そもそもの問題意識を持ちづらい</li></ul>
先生	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業や部活動などでもかなりの負担を抱えており、高校生が主体となって問題意識から提案を創りあげるような運営が難しい</li></ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"><li>・高校生との結びつきが弱く、役場としてやりたいことがあっても高校生までおろして具体的な取り組みにしていくことが難しい</li></ul>
FS生	<ul style="list-style-type: none"><li>・先生方が想定するスケジュールの把握不足により、高校生が主体的な提案を考えていくようなサポートができなかった</li></ul>



## タスクの進捗に深刻な遅延

# 今後の展望

# 今後の展望

## ゼミ生が主体的な提案をしていくために



- ① **下級生**からのゼミ参加
- ② ゼミ活動の**引き継ぎ資料**の作成
- ③ 各部署の連携強化
- ④ ゼミの**運営スケジュール決定**へのFS生の参加
- ⑤ 先生の負担が大きくなる**ない自立したゼミの運営**

…3/13に実施予定の現地活動で具体的な改革案を先方と相談予定

2025年度東大FS  
福島県相馬市チーム

---

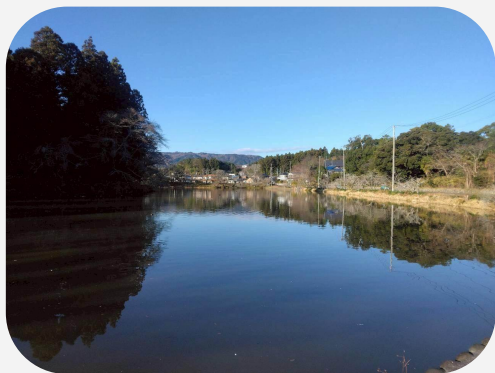
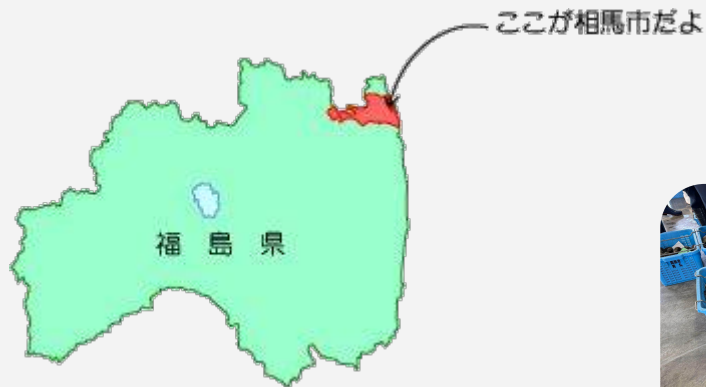
森田晃弘・上敷領悠那・成戸杜和

- 
- 
1. 相馬市とテーマについて
  2. 活動の内容
  3. 提案
  4. 学んだこと

相馬市とテーマについて

# 相馬市について

- ・ 人口...約3.2万人
- ・ 東京から約4時間（電車、車）
- ・ 歴史や食、海など様々な魅力



与えられたテーマ

## 空洞化が進む中心市街地活性化

商店の閉店や人口減少、災害の影響で空洞化が進む中心市街地について、その状況を実際に見て、**意見交換**を行う

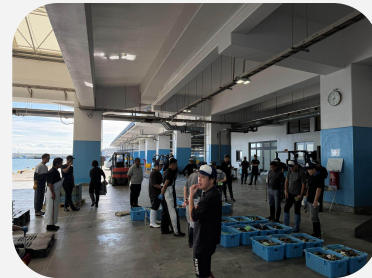


**魅力的なアイデア**を提案

# 現地活動の内容

# 第一回現地活動 9/18 - 21

- 市役所の方々によるご案内
- 商工会議所青年部の方々との意見交換
- 相馬総合高校の高校生との意見交換
- 商店街の方々との意見交換



## 第二回現地活動 12/6 - 7

- 商工会議所青年部の方と意見交換
- 地元店舗の方との意見交換

(羽根田万通さん)

- 市議会議員の方との意見交換  
只野敬三さん、波多野広文さん



提案

## 提案1 高校生とのワークショップの実施

解決したい課題は？

- ① 中心市街地の魅力を高校生たちはあまり**知らない**
- 
- ② 高校生と行政、商店街の対話があまり行われていない



## 提案1 高校生とのワークショップの実施

目的は？

- ① 知ること
- ② これを機会に対話を重ねること
- ③ 相馬のことを考えるきっかけを与えること

# 提案1 高校生とのワークショップの実施

何をする？

- ① 魅力発掘リサーチ
- ② 多角的な情報発信
  - SNSによる発信
  - 地域の情報誌の作成
- ③ 継続的なコミュニティづくり

## 提案 2 高校生向けの空きスペース活用

### 内容

- 中心市街地の滞留時間を伸ばすアイデア
  - 空き店舗に高校生の滞留場所
  - 総合学習の時間や自習の時間に使える場所
- でも維持は誰がやる？
  - 大事なものは誰が運営しているか. どうコミュニティを盛り上げるか
  - 高校生が自主性を持って運営する必要がある

## その他の提案

- スタンプラリーの実施
  - 商店街のお店をめぐるスタンプラリーの実施
- フリーマーケットの実施
  - 商店街の空き店舗の活用
- 駐車場の設置と周知

## 学んだこと

- ・街づくりの基礎は、その街の関係者間での対話の機会と郷土愛にあるのだと感じさせられました。相馬のこと、好きになりました。
- ・地域について考えていく中で、その地域に長く住んでいる皆さんとコミュニケーションをとっていくことがとても重要であるということが分かりました。あたたかく迎え入れてくださった相馬の皆さんに感謝しています。

# 福島県棚倉町

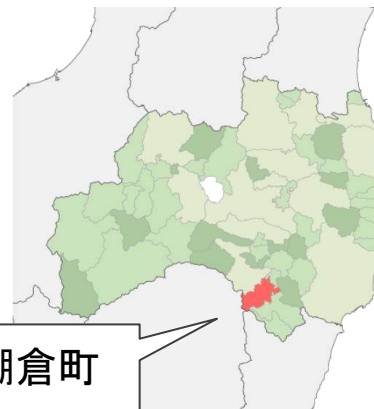
2026年3月16日  
福島県棚倉町庁一ム 各務 佐伯 堀田 俣木

## 棚倉町について

人口 12,649人（令和7年4月1日）

都心から東北新幹線・JRバスで約2時間30分

江戸時代は棚倉藩の城下町として栄えた



（参考）令和6年度FS

テーマ：観光スポットの洗い出しと魅力ある観光ルートの構築



歴史好き観光客をターゲットに設定

サイクリングコースや広域ルート、発信（マップ・観光拠点施設）の提案

# 棚倉町からのミッション・チームの方針

## 棚倉町からのミッション

### 「豊かな観光資源を活かしたにぎわい創出」

- ・ 昨年度FS提案の観光ルートの検証&ブラッシュアップ
- ・ 町に多く存在する観光拠点の洗い出しと整理
- ・ 既存観光資源の更なる活性化を目指した展開の提案
- ・ 新設する観光拠点施設のコンセプト提案

## チームの方針

- ・ 昨年度の基盤を生かし、新たな視点を加えて別角度の提案を行う
- ・ 棚倉町の観光資源の魅力についての認知を広める



# 活動内容

~8月

9月

9~10月

11月

12~2月

3月

事前調査

第1回現地活動

調査

第2回現地活動

提案作成

最終報告会

観光の現状把握

関係者聞き取り・体験



## 棚倉町の魅力

- 歴史的な情緒を感じられる
- 桜や紅葉など季節により景観が楽しめる
- 田んぼや里山など素朴な風景を感じられる
- サイクリングロードが整備されている



## 提案概要

1. レンタサイクル事業のブラッシュアップ
2. 観光拠点施設のコンセプト提案
3. 棚倉町の観光促進PRの模索

# ① レンタサイクル事業のブラッシュアップ

## 「移動手段」から「アクティビティ」へ

### 現状

- 時限的なスタンプラリーイベント
- 所要時間によるコース区分
- 移動手段・副次的目的としての自転車

### 提案

- 棚倉町独自の魅力を活かした常設的企画
- サイクリングを目的とした観光
- 地域内での利用の促進



タウンタイプ



クロスバイクタイプ

## ② 観光拠点施設のコンセプト提案

### 「読みとる」から「参加する」へ

#### 現状

- ・ パネル展示や文章説明が中心  
→ 知識提供型にとどまっている
- ・ 滞在時間が短く、記憶が残りにくい  
→ 訪問者の主体的な関与が難しい

#### 提案

従来の観光情報・歴史紹介の場に加えて  
訪問者（観光客・住民）が体験できるアクティビティを併設

#### 例：

- ・ 伝統芸能に関わる  
狐のお面絵付け体験
- ・ 城下町ならではの  
大名行列体験
- ・ 文化財の貴重な茶室での  
着物レンタル・茶道体験



### ③ 棚倉町の観光促進PRの模索

#### 現在のHPやInstagram

- 文字情報が主体で、視認性が悪い
- 現在の若者はそもそもHP経由ではなく、SNSのリール動画から
- 興味を持ちやすい

棚倉町としてもリール動画に取り組んでいるが限界があるため、町主体ではなく、観光客がリール動画を上げるような取り組みはできないか



#### 変更イメージ

- インスタのリール動画を主軸にし、HPに誘導する形
- 観光客が主体的にリール動画を作成したくなるようなインセンティブづけを行う
- HPは写真主体の視認性を高めたものにする



観光スポット	
紅葉情報	観る・遊ぶ
山本公園 (山本キャンプ場)	東北の小京都ななくら
赤館城跡 (赤館公園)	八槻郡々古別神社 (奥州一宮)
宇迦神社	宇迦神社のおこり
蓬家寺	常隆寺
花園いだね坂	伊野地蔵の坂
天狗堂の墓	水戸天狗堂と八溝小僧
伊野草分地蔵尊(いのくまわけじぞうさん)由来記	

## まとめ

- 棚倉町は様々な魅力的な観光資源を保有しているが、現状は歴史愛好家強くに依存する観光モデルとなっている
- そこで、レンタサイクルや観光拠点施設、キャンプ場といった施設を活かした「体験型」の観光に転換する
- こうした「体験型」の観光を効果的にPRするために、観光客が主体的にリール動画を作成したくなるようなインセンティブづけを行い、HPを写真主体の魅力的なものに変更する

# 新島 地域資源カード制作 プロジェクト

学内報告会

東京都新島村チーム 山口・谷口・横田・和泉・泉

# 背景と課題

「議論がままままな」という壁

新島村の未来を考える会議において地域資源源体系的に整理されていないため議論が散散やすく具体的な合意形成に至らないという課題があった。



# 解決策: カードによる可視化、議論のプラットフォーム構築



## 地域資源の可視化

漠然とした新島の地域資源をカードという形に落とし込み、参加者全員が同じ情報を見ながら議論できるようにする。



## 議論のプラットフォーム構築

地域資源カードを用いた議論のプラットフォームを整えることで、新島の未来に向けた議論を円滑に行えるようになる。

# Phase1: 事前調査 (資源の下調べ)

✔ オンライツリサーチ: 歴史、文化、交通施設、観光、自然環境、産業など幅広い領域の情報をインターネット等で下調べ。

▶ 島にまだ訪れたことのないよそ者の視点から、以下の観点の観域の撻減を調査を調査した。

- 島のことを何も知らない状態での率直な印象分析を書き留め留める。
- 資源のみならず、調べていく途中で感じた島の課題や疑問を書き留め留める。

	A	B	C	
1	資源の名前・不満点	概要	推しポイント	懸念点
2	観光地			
3	富士見岬展望台	宮塚山の展望台で、西側エリアを一望できる	比較的アクセスよく、高台からの景色を楽しむことができる	歩きだ
4	ボロ栈橋	穴あきの栈橋。通称「ボロ栈」。夕焼けになると人々が集まる	海とセットで撮影すると映える	実際行
5	夕日の丘	夕日を見るにはぴったりの前浜海岸沿いにあるスポット	アクセスがよく、海に沈む夕日を眺めることができる	海岸で
6	新島村博物館	新島の歴史や文化について学ぶことができる博物館	内容は結構充実してそう。新島について深く知るには良いスポットではないか	特になし
7				
8	羽伏浦展望台	約7kmある白砂が美しい羽伏浦海岸が一望できる素敵スポット	長く美しい海岸線を一望できて、星空も綺麗そう。	市街地
9	羽伏浦メインゲート	真っ白なメインゲートと青空・羽伏浦海岸の青い海が相性抜群	新島で検索するとよく出てくる写真なので、新島に来た感が得られるかもしれない	特になし
10	堀切 (シークレット入り口)	農道の道を抜けると、白ママの絶景を見ることができる	白ママは迫力があり、景色はとても綺麗そう	徒歩で
11	羽伏浦公園	キャンプ場やサイクリングロードが整備されている広い公園	キャンプ場を無料で利用でき、海にも比較的近い	立地が
12	湯の浜露天温泉	港から南へ徒歩10分ほどの距離にある露天温泉。	24時間使えて、古代ギリシャ風の珍しい建築の露天風呂を楽しめる	特になし
13	まました温泉	屋内風呂や露天風呂、サウナ、砂風呂などを完備	羽伏浦海岸の砂に埋まる、砂風呂が特徴的	特になし
14				
15	石山展望台	コーガ石の採掘場に近く、海を一望できる展望台	車でも行けるし、トレッキングのコースとしても良いらしい	車やバ
16	端々 (はばた) 展望台	最南端の展望スポット。無人島の早島が見える	ミサイルの試験場が見えるのは気になる	車やバ
17	白ママ断崖	高さ30m~250mの地層が約7kmに渡ってむき出しの、真っ白な絶壁	なかなか他では見れないような絶景	南端
18	親水公園	水と石をテーマにデザインされた公園で、レストハウスで食事も可能	ドライブやサイクリング中に休憩がてら立ち寄るのは良さそう	特になし
19	ガラスアートセンター	「コーガ石」を原料にしたガラス製品を制作している	自分で体験できるし、ユニークなお土産にもなって満足度は高そう	特になし
20				
21	渡浮根展望台	コーガ石でできたアーチが目印。若郷漁港と若郷集落が見下ろせる。	北側では一番わかりやすい観光スポット	立地は
22				
23				

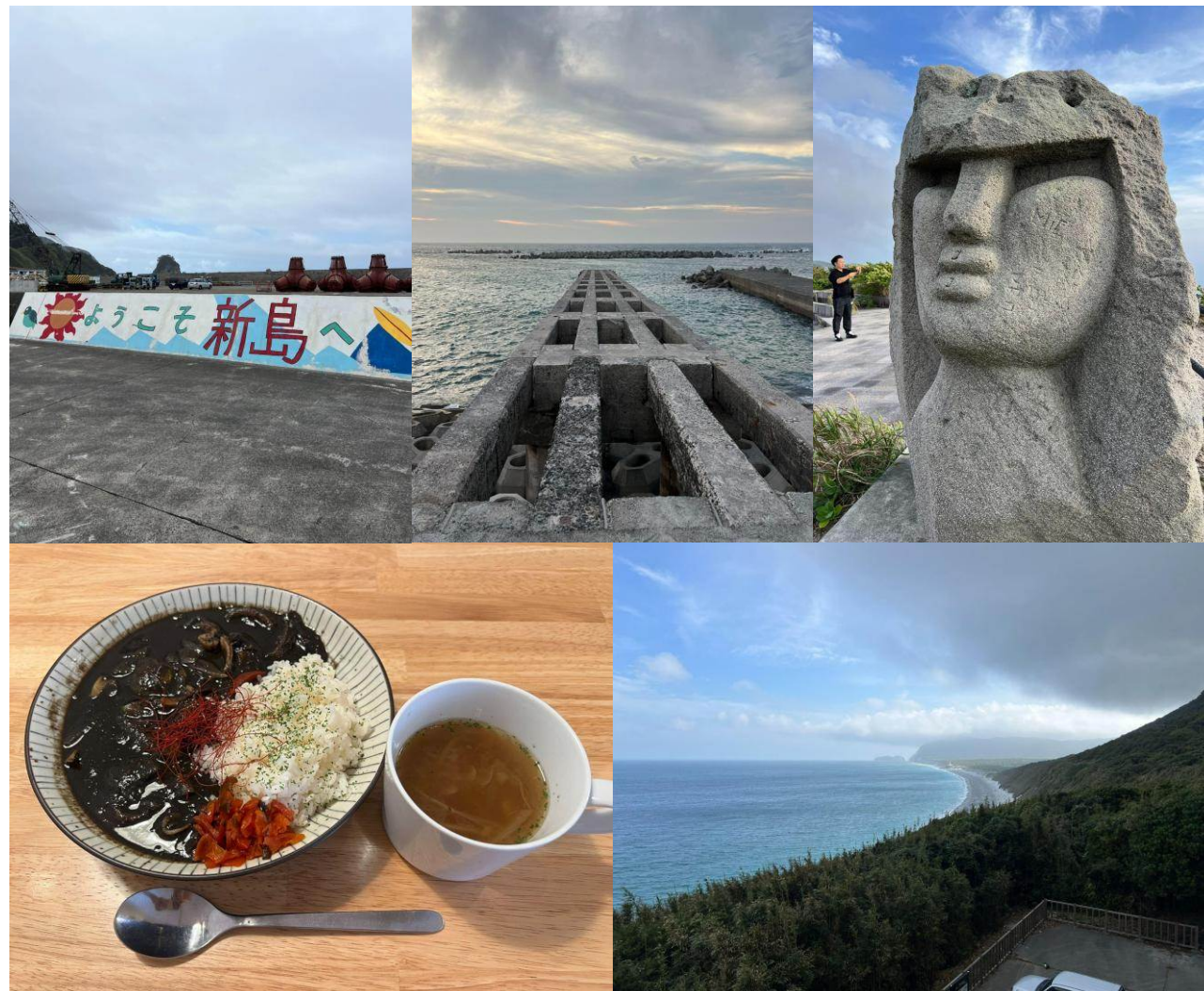
# Phase2: 第1回 現地調査

体験と対話による解像度の向上

## ① 資源の体験

事前調査でリストアップした場所を島の島の方々に案内いただき、五感を使ってその資源を体感した。

▶ 随時、事前調査と実際の様子のギャップを書き留めながら、島をまわった。



# Phase2: 第1回 現地調査

体験と対話による解像度の向上

## ② 住民ワークショップ

地元の方々とワークショップを開催し、実際に隣席即座で地域資源カードを制作し、それぞれが好きな地域資源について発表。

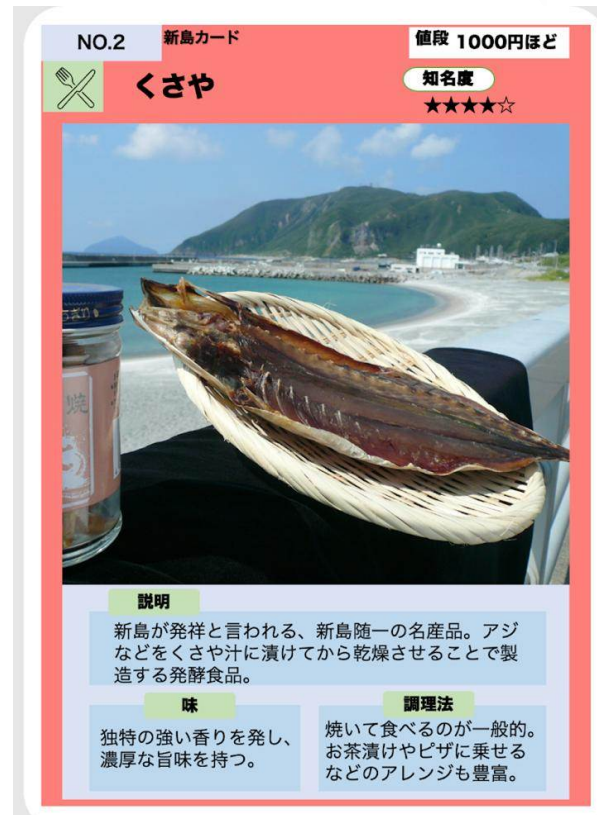
▶ 議論に使いやすい地域資源カードの形態について、ワークショップのサモを経て議論。



# Phase3: カードの試作(プロトタイプ)



試作例①



試作例②

## 議論を生むデザインへ

- ✓ 要素の抽出: カードに載せるべき要素をわけてチームで議論し、取捨選択を行った。
- ✓ ラフデザイン: 他の自治体の例などを参考にデザインをいくつかの試作。
- ✓ 資源の詳細な調査: メンバー各自で資源について詳細な情報を収集。それをカードに落とし込んで50枚ほどのカードを制作

# プロトタイプ完成版

文化-2 流人墓地 ★★☆☆☆



**背景の概要**  
新島漁業中に亡くなった人々の118基の墓が並び、彼らは島の文化形成に貢献し、その墓は今も島民から大切にされている。

**価値観**  
墓地管理の担い手が高齢化している。 島民が訪れ、清掃や献花を行っている。

**マップ**  
在島中、島民の教育、医療、諸技術の普及や民俗芸能など、島民の生活や文化に貢献した流人も多く、酒樽やサイコロなど、流人が生前好んだものが墓の形に表れている。また、地面が白砂でできていることも特徴。

文化-4 大踊り ★★☆☆☆



**背景の概要**  
江戸時代に始まった風流踊り一種で、ユネスコ無形文化遺産。「カバ」と呼ばれる布で腰を隠すのが特徴的。

**価値観**  
新島大踊り保存会、若郷大踊り保存会、消防団、役所、住職 #無形民俗文化財 #風流踊り #ユネスコ無形文化遺産

**マップ**  
流人にまつわる逸話も、本村と若郷では、曲目や踊りが異なるが、共通する要素を多く持つ。 持続可能性 文化財にも登録されており、保存意識は高いが、担い手不足が問題。

文化-5 観音様夜宮 ★★☆☆☆



**背景の概要**  
昔からの観音様参りを盛り上げるべく、1990年から新島村商工会村おこし実行委員会が開始。

**価値観**  
建物老朽化と担い手不足 →場所が観音様前から変更 #日本一くさい夏祭り #お参りとセットで

**マップ**  
新島酒蔵留所 (島唯一の蒸留所) ★

新島ガラス ★★☆☆☆



**背景の概要**  
コーガラスを溶かした世界唯一の火山石ガラス。ユニークな島芸術として世界から注目を集める。

**価値観**  
1970年代、他の集村の台頭でコーガラスの需要が激減 →新島出身のガラス作家の野田牧さんが、新たな活用方法として新島ガラスを製作。 新島国際ガラスアートフェスティバル →毎年秋開催 外部参加も可

**マップ**  
新島酒蔵留所 (島唯一の蒸留所) ★

新島村博物館 ★★☆☆☆



**背景の概要**  
新島島のコーガラスをふんだんに使用したピラミッドをイメージしたユニークな博物館。

**価値観**  
島を代表する観光、教育の場として、多くの人々が来館。 村の歴史や文化に関する講座や体験教室などを展開

**マップ**  
新島酒蔵留所 (島唯一の蒸留所) ★

食-5 島焼酎

直営販売所の営業時間 9:00-19:00

価格 3,000円程度 / 一升瓶



**資源の概要**  
戦後より、麦麴を原料とする麦焼酎と独自の芋焼酎、米麴を原料とする米焼酎を製造。

**マップ**  
新島酒蔵留所 (島唯一の蒸留所) ★

**味の特徴**  
毎日飲んでも飽きないお酒。 香りが軽くて、雑味がない酒。

**味の特徴**  
#創業100周年 #芋焼酎なのに麦麴

✓ 実際のワークショップでの反応を見るため、サイズをA5、A6の2パターンで作成



## Phase4: 第2回 現地調査

### 試作カードを使った実証実験

作成したプロトタイプカードを用いて実際に地域住民の方々とゲーム形式のワークショップを実施した。

### 検証ポイント:

- 1 議論は活発になったか??
- 1 カードの情報は役に立ったか??
- 1 これからの課題は??

# 現地調査で得た成果

🌐 議論は活発になったか??

活発化した。

カードはよって議論論おける要素が可視化された。

🌐 カードの情報は役に立ったか??

情報自体はそれほど役立たなかった。

議論中にじっくりとカードを読む読とは稀だった。

🌐 これからの課題は??

ワークショップ内容の作成やカードデザインの再考再考、

議論内容をどうアウトプットしていくか。

# Phase5: 完成版作成

フィードバックを受け入れの再制作

第2回調査でのフィードバックを基に議論効率化に  
有効なカードのあり方について議論

- ✓ **デザインの簡素化:** 議論に必要な情報に絞る
- ✓ **議論の蓄積:** 背面のQRコードで意見を送信できるよ  
うにする予定。
- ✓ **量産:** 自治体の方々の資源選定をもとに、84枚の  
カードを製作

## #67 白ママ断崖

圧巻の白壁。火山島の自然の歴史を刻む  
断崖絶壁の絶景。

info.



観光  
スポット  
資源

NIIJIMA LOCAL RESOURCE

# 完成版:表紙版

## 7つのジャンル

- ・食
- ・文化
- ・自然
- ・施設
- ・産業
- ・観光
- ・交通

### #02 くさや

唯一無二の香りと凝縮された旨味。  
江戸から続く伝統の干物。

info.



食

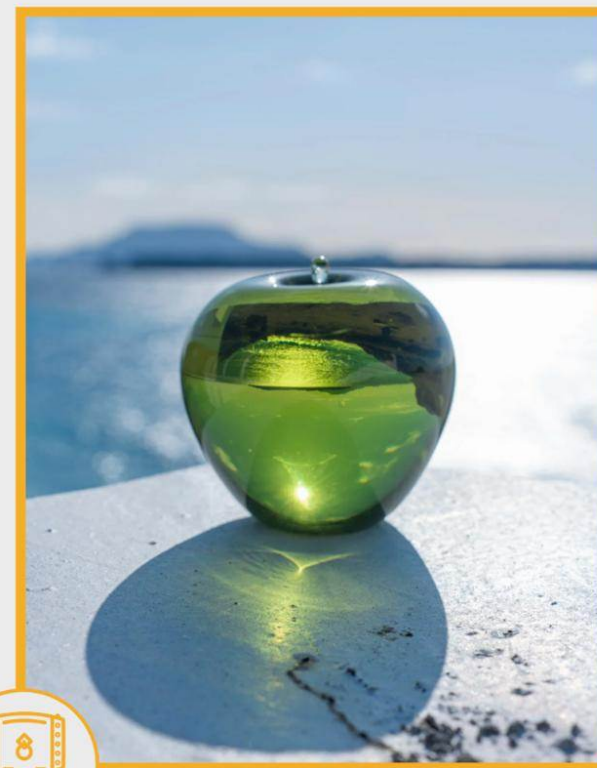


NIIJIMA LOCAL RESOURCE

### #18 新島ガラス

コーガ石から生まれる  
オリーブグリーンガラス。  
ユニークな島芸術。

info.



文化



NIIJIMA LOCAL RESOURCE

# 完成版:裏表版

裏面のQRコードからフォームへ。

資源ごとの思いついでアイデアや課題  
を選べる。

議論で発言し損ねた人にも機会を。

## NIIJIMA LOCAL RESOURCE

新島地域資源カード



Niijima Area Management

地域資源カード  
アイデア集積フォーム

回答時間  
3分

### 地域資源カードWSアイデア集積フォー ム

地域資源カードを楽しんでいただきありがとうございました！  
この機会を無駄にしないために、ワークショップでたアイデアや気づきを集積してい  
き、新島の未来の糧にしていきたいと考えています。ぜひ、アンケートへのご協力をお願  
いいたします。

なお、いただいた内容は、一般社団法人新島エリアマネジメントが管理し、整理と可視化  
を行い、弊法人のwebサイトに掲載させていただきますことをご了承ください。

yusuke.taniguchi0902@gmail.com [アカウントを切り替える](#)

共有なし

\* 必須の質問です

1. あなたは新島村に在住の方ですか？ \*

はい（本村）

はい（若郷）

はい（式根島）

いいえ

# Phase66: 現地報告会

## ①84枚のカードを並べての展示会

新島港の展示スペースに島民の方々が来訪。

パンフレットの配配布、カーゴプロジェクトに

ついての説明を行った。



# Phase6: 現地報告会

## ②完成版カードを使ったワークショップ

各参加者が島にとって特に大事なと考える島の資源を共有し、どう活かすことができるかを話し合った。



# 今後の活用可能性

## ① 議論のツールとして

- 村の将来を話し合うワークショップで活用活用
  - ▶ ワークショップの形式試行しているもの提案提案がされている
  - ▶ 今後は意見を収集するためのプラットフォームの構築が必要必要
- 村役場で議論に活用

## ② 観光のツールとして

- 観光客向けに新島港で展示

## ③ 教育のツールとして

- 学校で地域学習に活用

### 1. 気になるあの子を共有タイム



#### 目的 (狙い)

話し合いの場が「自分の意見の押し付け合い」や「相手への否定」にならないための土台作りです。相手の顔ではなく「カード」という共通の対象を見ることで、「そういう視点や価値観もあるんだな」と、他者の意見をフラットに受け入れる（受容する）心理的な安全性を高めます。

#### 方法

- 全84枚の地域資源カードから「自分が個人的に気になるカード」を1枚選び、理由を発表します。
- 聞き手は相手を否定せず、必ず拍手で称賛します。

適正人数：1グループ3～5人

### 2. 楽しみ方研究所



五感を使った具体的な体験

#### Recipe Steps.

#### 目的 (狙い)

「新島を盛り上げよう！」という大きすぎるテーマは、空想空論（空中戦の議論）になりがちです。そこで「五感」や「時間帯」といった「手触りのある条件（制約）」をあえて設けることで、フワフワした議論を「明日からでもできそうな具体的な体験アイデア」へと確実に落とし込みます。

#### 方法

- チームで「大切にしたい資源カード」を1枚選びます。
- そこに「五感（視覚、聴覚など）」や「時間帯」のカードを掛け合わせ、「波の音を聞きながら…」といった具体的な楽しみ方を付箋に書き出します。

適正人数 1グループ3～5人

# まとめ

---

## カードの完成はゴールではなく、新たな「対話と発見のインフラ」のスタートのスタート

「カード」という物理的成果物を作った終わりで終わらなくて、これが新島にお新島対話・観光・教育の新しい教育の新しいインフラとして活用できる土台を構築できた。

- ① 島民・行政向け : 未来を創る「議論のインフラ」
- ② 観光客向け : 自ら魅力となる「観光のインフラ」
- ③ 島の子供たち向け: 価値を再発見する「教育のインフラ」

# 背景と課題

## 「議論がまとまらない」という壁

新島村の未来を考える会議において、地域資源が体系的に整理されていないため、議論が発散しやすく、具体的な合意形成に至らないという課題があった。



# 解決策：カードによる可視化、議論のプラットフォーム構築



## 地域資源の可視化

漠然とした「新島の地域資源」をカードという形に落とし込み、参加者全員が同じ情報を見ながら議論できるようになる。



## 議論のプラットフォーム構築

地域資源カードを用いた議論のプラットフォームを整えることで、新島の未来に向けた議論を円滑に行えるようにする。

# Phase 1: 事前調査 (資源の下調べ)

📍 **オンラインリサーチ:** 歴史、文化、交通、施設、観光、自然環境、食、産業など、幅広いジャンルをインターネット等で下調べ。

▶ 島にまだ訪れたことのない「よそ者」の視点を大事にしつつ、以下の観点で地域の資源を調査した。

- ・ 島のことを何も知らない状態での率直な印象や分析を書き留める。
- ・ 資源のみならず、調べていく途中で感じた島の課題や疑問も書き留める。

	A	B	C	
1	資源の名前・不満点	概要	推しポイント	懸念点
2	<b>観光地</b>			
3	富士見岬展望台	宮塚山の展望台で、西側エリアを一望できる	比較的アクセスよく、高台からの景色を楽しむことができる	歩きだすと
4	ポロ栈橋	穴あきの栈橋。通称「ポロ栈」。夕焼けになると人々が集まる	海とセットで撮影すると映える	実際は
5	夕日の丘	夕日を見るにはびつたりの前浜海岸沿いにあるスポット	アクセスがよく、海に沈む夕日を眺めることができる	海岸では
6	新島村博物館	新島の歴史や文化について学ぶことができる博物館	内容は結構充実してそう。新島について深く知るには良いスポットではないか	特になし
7				
8	羽伏浦展望台	約7kmある白砂が美しい羽伏浦海岸が一望できる素敵スポット	長く美しい海岸線を一望できて、星空も綺麗そう。	市街地では
9	羽伏浦メインゲート	真っ白なメインゲートと青空・羽伏浦海岸の青い海が相性抜群	新島で検索するとよく出てくる写真なので、新島に来た感が得られるかもしれない	特になし
10	堀切 (シークレット入り口)	農道の道を抜けると、白ママの絶景を見ることができる	白ママは迫力があり、景色はとても綺麗そう	徒歩では
11	羽伏浦公園	キャンプ場やサイクリングロードが整備されている広い公園	キャンプ場を無料で利用でき、海にも比較的近い	立地が狭
12	湯の浜露天温泉	港から南へ徒歩10分ほどの距離にある露天温泉。	24時間使えて、古代ギリシャ風の珍しい建築の露天風呂を楽しめる	特になし
13	まました温泉	屋内風呂や露天風呂、サウナ、砂風呂などを完備	羽伏浦海岸の砂に埋まる、砂風呂が特徴的	特になし
14				
15	石山展望台	コーガ石の採掘場に近く、海を一望できる展望台	車でも行けるし、トレッキングのコースとしても良いらしい	車やバイク
16	端々 (はばた) 展望台	最南端の展望スポット。無人島の早島が見える	ミサイルの試験場が見えるのは気になる	車やバイク
17	白ママ断崖	高さ30m~250mの地層が約7kmに渡ってむき出しの、真っ白な絶壁	なかなか他では見れないような絶景	南端なので
18	親水公園	水と石をテーマにデザインされた公園で、レストハウスで食事も可能	ドライブやサイクリング中に休憩がてら立ち寄るのは良さそう	特になし
19	ガラスアートセンター	「コーガ石」を原料にしたガラス製品を制作している	自分で体験できるし、ユニークなお土産にもなって満足度は高そう	特になし
20				
21	渡浮根展望台	コーガ石でできたアーチが目印。若郷漁港と若郷集落が見下ろせる。	北側では一番わかりやすい観光スポット	立地は狭
22				
23				

# Phase 2: 第1回 現地調査

体験と対話による解像度の向上

## ① 資源の体験

事前調査でリストアップした場所を島の方々にご案内いただき、五感を使ってその資源を体感した。

▶ 随時、事前調査と実際の様子のギャップを書き留めながら、島をまわった。



# Phase 2: 第1回 現地調査

体験と対話による解像度の向上

## ② 住民ワークショップ

地元の方々とワークショップを開催。実際に即席で地域資源カードを制作し、それぞれが好きな地域資源について発表。

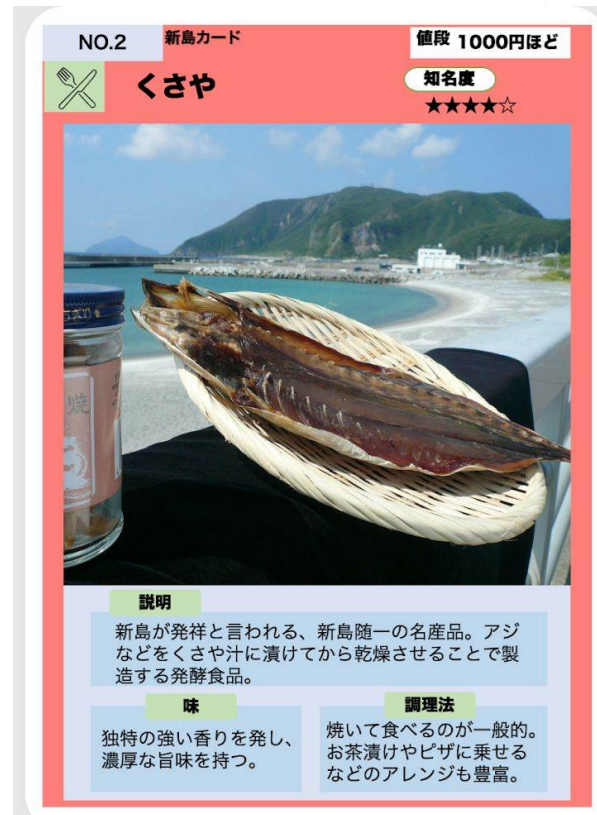
▶ 議論に使いやすい地域資源カードの形態について、ワークショップのデモを経て議論。



# Phase 3: カードの試作 (プロトタイプ)



試作例①



試作例②

## 議論を生むデザインへ

- ✓ **要素の抽出:** カードに載せるべき要素についてチームで議論し、取舍選択を行った。
- ✓ **ラフデザイン:** 他の自治体の例などを参考にデザインをいくつか試作。
- ✓ **資源の詳細な調査:** メンバー各自で資源についての詳細な情報を収集。それをカードに落とし込んで50枚ほどのカードを制作

# プロトタイプ完成版

文化-2 流人墓地 ★★★☆☆

島外からの知名度  
★★★☆☆

内部からの参加・見学  
見学可能



**資源の概要**  
新潟流人中に亡くなった人々の118基の墓が並ぶ。彼らは島の文化形成に貢献し、その墓は今も島民から大切にされている。

**課題**  
墓地管理の担い手が高齢化している。

**取り組み**  
島民が訪れ、清掃や献花を行っている。

**マップ**  
在島中、島民の教育、医療、諸技術の普及や民俗芸能など、島民の生活や文化に貢献した流人も多い。酒樽やサイコロなど、流人が生前好んだものが墓の形に表れている。また、地面が白砂でできていることも特徴。

文化-4 大踊り ★★★☆☆

島外からの知名度  
★★★☆☆

内部からの参加・見学  
見学可能



**資源の概要**  
流刑時代に始まった風流踊りの一種で、ユネスコ無形文化遺産。「カバ」と呼ばれる布で顔を隠すのが特徴的。

**課題**  
無形民俗文化財 # 風流踊り  
# ユネスコ無形文化遺産

**取り組み**  
新島大踊り保存会 若郷大踊り保存会 消防団、役所、住職

**マップ**  
流人まつりや逸話も、本村と若郷では、曲目や踊りが異なるが、共通する要素を多く持つ。

**持続可能性**  
文化財にも登録されており、保存意識は高いが、担い手不足が問題。

文化-5 観音様夜宮 ★★★☆☆

島外からの知名度  
★★★☆☆

内部からの参加・見学  
見学可能



**資源の概要**  
昔からの観音様参りを盛り上げるべく、1990年から新島村商工会村おこし実行委員会が開始。

**課題**  
建物老朽化と担い手不足  
→場所が観音様前から変更

**取り組み**  
# 日本一くさい夏祭り  
# お参りとセットで

**マップ**  
新島村

新島ガラス ★★★☆☆

島外からの知名度  
★★★☆☆



**資源の概要**  
コーガラスを溶かした世界唯一の火山石ガラス。ユニークな島産物として世界から注目を集める。

**課題**  
1970年代、他の集村の台頭でコーガラスの需要が激減  
→新島出身のガラス作家の野田牧さんが、新たな活用方法として新島ガラスを製作。

**取り組み**  
新島国際ガラスアートフェスティバル  
→毎年秋開催  
外部参加も可

新島村博物館 ★★★☆☆

島外からの知名度  
★★★☆☆



**資源の概要**  
新島産のコーガラスをふんだんに使用したピラミッドをイメージしたユニークな博物館。

**課題**  
島を代表する観光、教育の場として、多くの人が来館

**取り組み**  
村の歴史や文化に関する講座や体験教室などを展開

**マップ**  
新島村

食-5 島焼酎

産品販売所の営業時間  
9:00-19:00

価格  
3,000円程度 / 一升瓶



**資源の概要**  
戦後より、麦麴を原料とする麦焼酎と独自の芋焼酎、米麴を原料とする米焼酎を製造。

**マップ**  
新島酒蒸留所 (島唯一の蒸留所) ★

**味の特徴**  
毎日飲んでも飽きないお酒。  
香りが軽くて、雑味がない酒。

**味の特徴**  
# 創業100周年  
# 芋焼酎なのに麦麴

✓ 実際のワークショップでの反応を見るため、サイズを A5、A6の2パターンで作成。






## Phase 4: 第2回 現地調査

### 試作カードを使った実証実験

作成したプロトタイプカードを用いて、実際に住民の方々とゲーム形式のワークショップを実施した。

### 検証ポイント:

-  議論は活発になったか？
-  カードの情報は役に立ったか？
-  これからの課題は？

# 現地調査で得た成果

 議論は活発になったか？

活発化した。

カードによって議論における要素が可視化された。

 カードの情報は役に立ったか？

情報自体はそれほど役立たなかった。

議論中にじっくりとカードを読むことは稀だった。

 これからの課題は？

ワークショップ内容の作成やカードデザインの再考、  
議論内容をどうストックしていくか。

# Phase 5: 完成版作成

## フィードバックを受けての再制作

第2回調査でのフィードバックを基に、議論効率化に有効なカードのあり方について議論

- ✓ **デザインの簡素化:** 議論に必要な情報に絞る
- ✓ **議論の蓄積:** 背面のQRコードで意見を送信できるようにする予定。
- ✓ **量産:** 自治体の方々の資源選定をもとに、84枚のカードを製作

## #67 白ママ断崖

庄巻の白壁。火山島の自然の歴史を刻む断崖絶壁の絶景。

info.



観光  
スポット  
資源

NIIJIMA LOCAL RESOURCE

# 完成版：表版

## 7つのジャンル

- ・食
- ・文化
- ・自然
- ・施設
- ・産業
- ・観光
- ・交通

### #02 くさや

唯一無二の香りと凝縮された旨味。  
江戸から続く伝統の干物。

info.



食

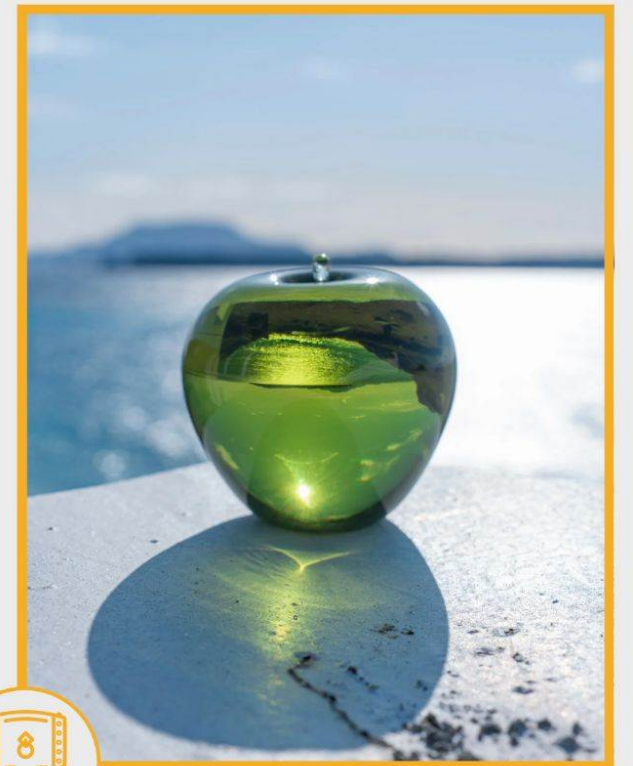


NIIJIMA LOCAL RESOURCE

### #18 新島ガラス

コーガ石から生まれる  
オリーブグリーンのガラス。  
ユニークな島芸術。

info.



文化



NIIJIMA LOCAL RESOURCE

# 完成版：裏版

裏面のQRコードからフォームへ。  
資源ごとに思いついたアイデアや課題  
を送信できる。  
議論で発言し損ねた人にも機会を。

## NIIJIMA LOCAL RESOURCE

新島地域資源カード



Niijima Area Management

地域資源カード  
アイデア集積フォーム

回答時間  
3分

### 地域資源カードWSアイデア集積フォー ム

地域資源カードを楽しんでいただきありがとうございました！  
この機会を無駄にしないために、ワークショップでたアイデアや気づきを集積してい  
き、**新島の未来の糧**にしていきたいと考えています。ぜひ、アンケートへのご協力をお願  
いいたします。

なお、いただいた内容は、一般社団法人新島エリアマネジメントが管理し、整理と可視化  
を行い、弊法人のwebサイトに掲載させていただきますことをご了承ください。

yusuke.taniguchi0902@gmail.com [アカウントを切り替える](#)

共有なし

\* 必須の質問です

1. あなたは新島村に在住の方ですか？ \*

はい（本村）

はい（若郷）

はい（式根島）

いいえ

# Phase 6: 現地報告会

## ①84枚のカードを並べての展示会

新島港の展示スペースに島民の方々が来訪。

パンフレットの配布や、カード・プロジェクトについての説明を行った。



# Phase 6: 現地報告会

## ②完成版カードを使ったワークショップ

各参加者が島にとって特に大事だと考える島の資源を共有し、どう活かすことができるかを話し合った。



# 今後の活用可能性

## ① 議論のツールとして

- 村の将来を話し合うワークショップで活用
  - ▶ ワークショップの形式についていくつもの提案がされている
  - ▶ 今後は意見を収集するためのプラットフォームの考案が必要
- 村役場で議論に活用

## ② 観光のツールとして

- 観光客向けに新島港で展示

## ③ 教育のツールとして

- 学校で地域学習に活用

## 1. 気になるあの子を共有タイム



### 目的 (狙い)

話し合いの場が「自分の意見の押し付け合い」や「相手への否定」にならないための土台作りです。相手の顔ではなく「カード」という共通の対象を見ることで、「そういう視点や価値観もあるんだな」と、他者の意見をフラットに受け入れる（受容する）心理的な安全性を高めます。

### 方法

- 全84枚の地域資源カードから「自分が個人的に気になるカード」を1枚選び、理由を発表します。
- 聞き手は相手を否定せず、必ず拍手で称賛します。

適正人数：1グループ3～5人

## 2. 楽しみ方研究所



五感を使った具体的な体験

### Recipe Steps.

### 目的 (狙い)

「新島を盛り上げよう！」という大きすぎるテーマは、空理空論（空中戦の議論）になりがちです。そこで「五感」や「時間帯」といった『手触りのある条件（制約）』をあえて設けることで、フワフワした議論を「明日からでもできそうな具体的な体験アイデア」へと確実に落とし込みます。

### 方法

- チームで「大切にしたい資源カード」を1枚選びます。
- そこに「五感（視覚、聴覚など）」や「時間帯」のカードを掛け合わせ、「波の音を聞きながら…」といった具体的な楽しみ方を付箋”に書き出します。

適正人数 1グループ3～5人

# まとめ

---

## カードの完成はゴールではなく、新たな「対話と発見のインフラ」のスタート

「カード」という物理的な成果物を作って終わりではなく、それが新島における対話・観光・教育の新しいインフラとして活用できる土台を構築できた。

- ① 島民・行政向け : 未来を創る「議論のツール」
- ② 観光客向け : 自ら魅力となる「観光のツール」
- ③ 島の子供たち向け : 価値を再発見する「教育のツール」

東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム (FS)

# 富山県氷見市

—速川地区の未来に向けて—

2026.3.16 @伊藤国際謝恩ホール

登壇者：戸塚・麻生

山本・戸塚・麻生・高山



# もくじ

## 01

富山県氷見市のテーマ

## 02

これまでの活動内容

## 03

提案内容

## 04

提案① ひみ里山マルシェ

## 05

提案③ 本音アンケート

## 06

提案④ 市長との意見交換会

## 07

FSを通しての学び

01

# 富山県氷見市のテーマ

---

# 01 氷見市テーマの概要

## 🏷️ テーマ

氷見市の西部地区に位置する人口約1,000人の中山間地域である速川地区について

持続可能な里山生活を守るべく、「コミュニティの再構築」と「稼ぐ地域づくり」への転換を図る

農村RMOの補助事業を受けて活動→3年の補助金が今年度で終了



◀市役所見学 (富山新聞)



◀メロン農園 (北日本新聞)

# 01 農村RMOとは

## 🏷️ RMO

- 農林水産省による、中山間地域の地域活性化のための補助事業
- RMO：農村型地域運営組織
- 全国約100地区が指定。年間1,000万円×3年間の補助金
- 速川地区の実態
  - お金の使い道の計画・効果の検証が不十分
  - 補助金が終わった後、自走できる事業がない。稼ぐ意識の欠如。
  - 地域づくりに関わるのは一部の人、特に70代以上の高齢男性のみ。

# 01 活動の目標

## Theme

速川地区まちづくり協議会・農村RMO...  
などの元々の取り組み



進める中で浮き彫りになった課題として...

- ・若い世代の地区行事への参加が少ない  
(= コミュニティが構築できていない)
- ・補助金ありき、収支計画を作成していない  
(= 稼げる仕組みがない)

## Goal

- ① 速川地区のコミュニティの再構築
- ② 稼げるまちづくり

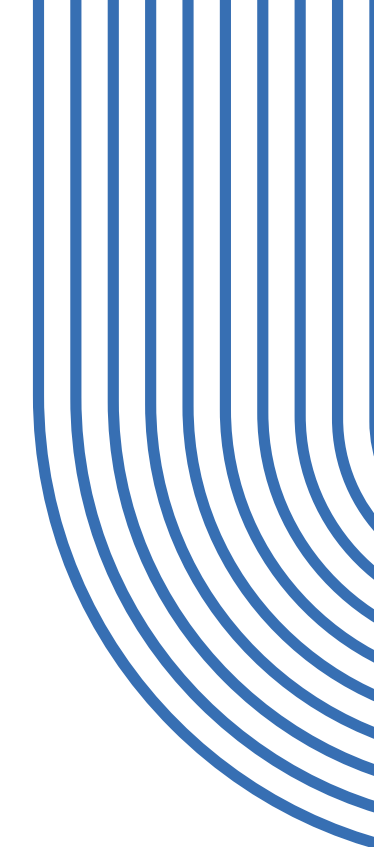
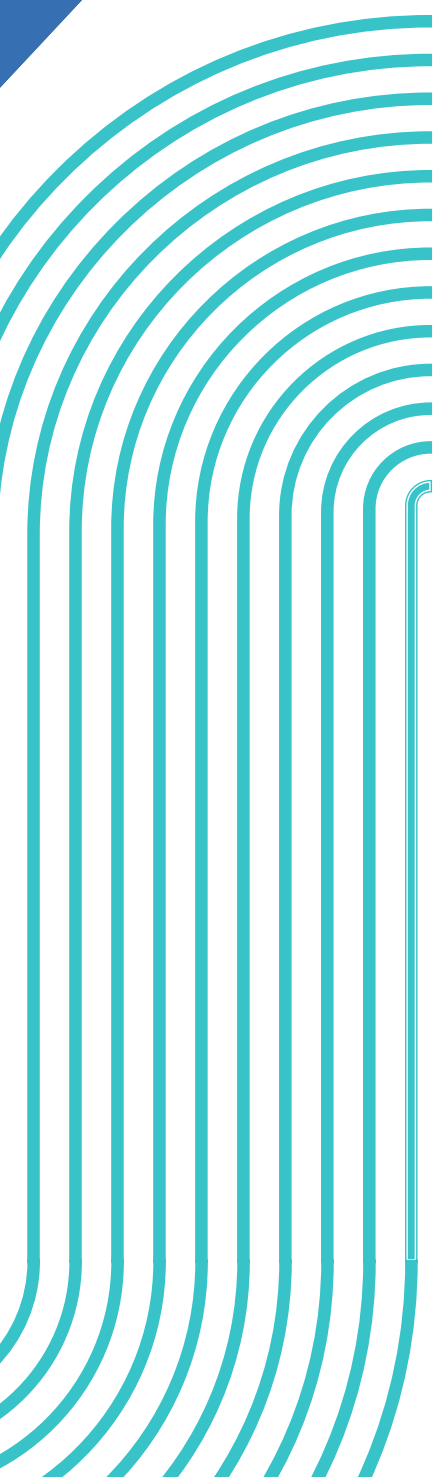
の2つに繋がる提案を出すこと。

## Vision

キラキラしているが現実性・持続可能性のない地域おこしではなく、地域の現実にとことん向き合い、小さくても**実現可能性のある提案**をする

02

# これまでの活動内容



# 02 これまでの活動内容 - 第1回現地活動 (9月)

Day 1  
氷見観光 by ヒミカ



Day 1  
速川公民館



Day 2  
獅子舞保存会



Day 3  
フローリアひなた



Day 3  
メロン農園

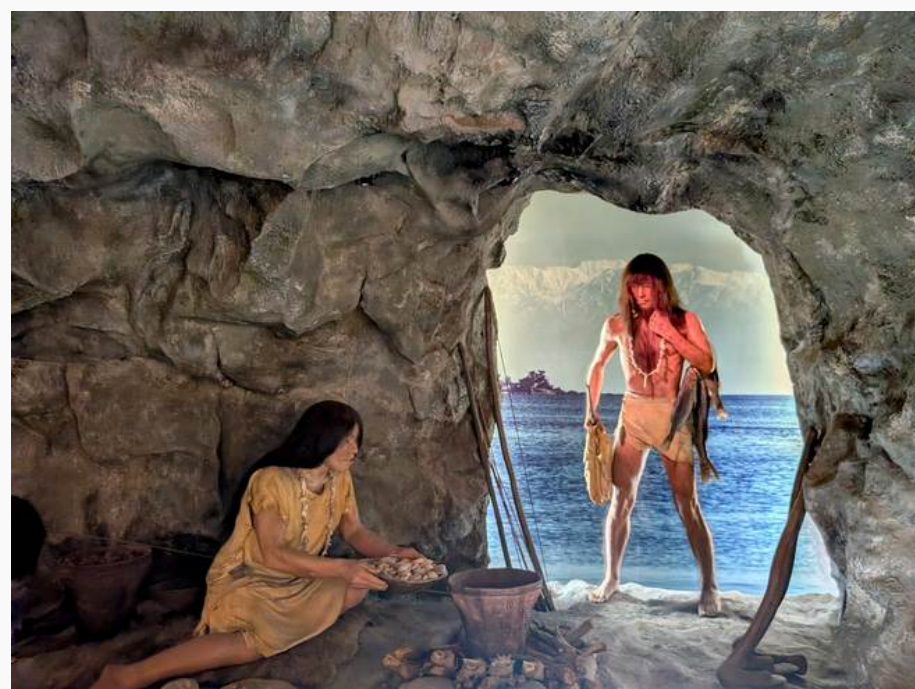


Day 4  
問題意識のまとめ

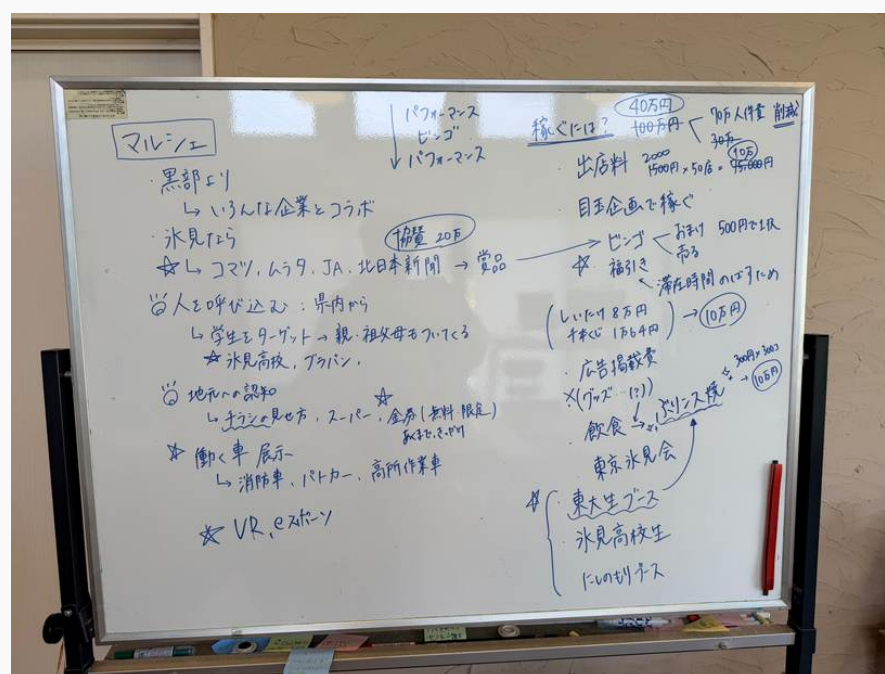


# 02 これまでの活動内容 - 第2回現地活動 (12月)

Day 1  
マルシェの話し合い



Day 2  
マルシェ / 小中学生との交流



Day 3  
競り見学



Day 3  
Himi-Biz見学



Day 3  
議会・市役所見学

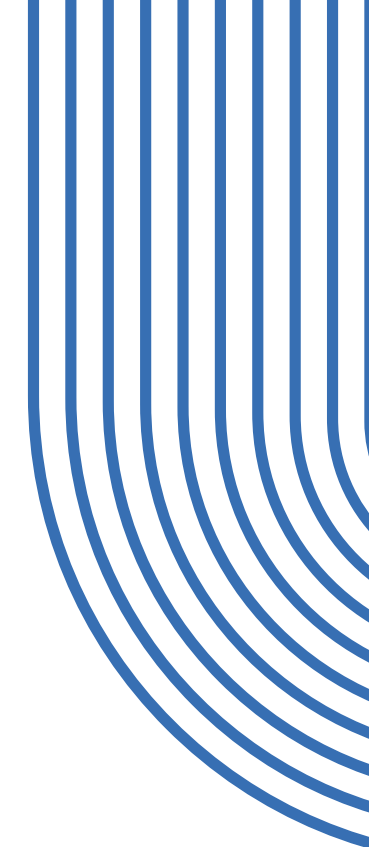
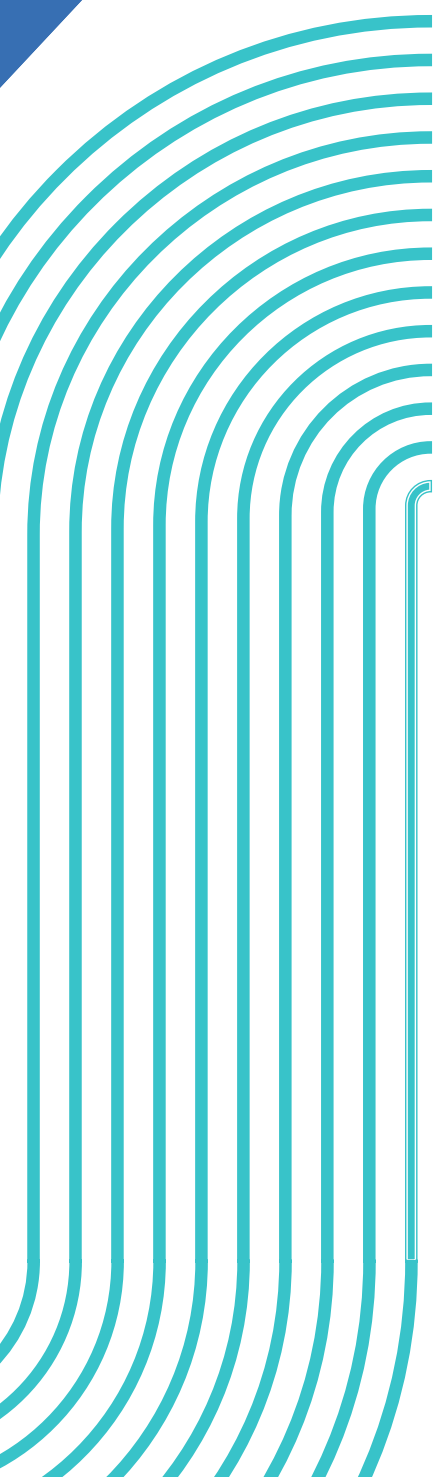


Day 4  
話し合いタイム



03

# 提案内容



# 03 提案内容

## ●現在の速川地区活性化に向けた取り組み

① ひみ里山マルシェ

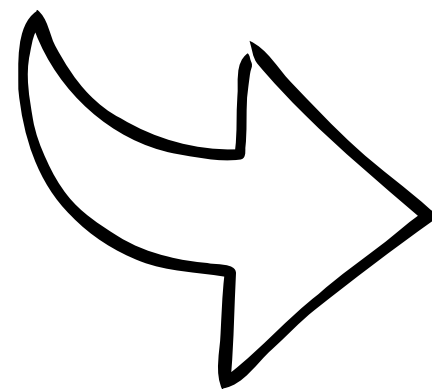
② 獅子舞 (本日は省略)

## ●未来へ向けた取り組み

③ 本音アンケート

## ●市長/市役所に対する提言

④ 市長との意見交換会



他取組との比較の結果、マルシェに注目

- 「**コミュニティの再構築**」の視点  
若い世代が中心、老若男女が参加できる
- 「**稼げるまちづくり**」の視点  
RMO（農村型地域運営組織・R7年度まで）の予算がなくても自走できる可能性高い

04

# 提案① ひみり山マルシェ



# 04 ひみ里山マルシェ

これまでのマルシェ .....

廃校舎の体育館を活用し様々な地域特産品を販売。これまでに2回開催。



◀今までのマルシェの様子

次回に向けた課題 .....

## ● 予算

これまで頼っていたRM0予算(100万円)がなくなるため、人件費削減の上で、稼ぐ必要性がある。

## ● 地域コミュニティ

マルシェの運営に携わっているのは一部の住民のみ。地域コミュニティ強化のためにも、まずはマルシェに来てもらうことが必要。

# 04 ひみり山マルシェ

次回(2026年5月)開催に向け  
マルシェ運営者からヒアリングを行い  
FSメンバーが提案書を提出

## 12月に提案したこと

- **ブリンス焼ブース**

速川のさつまいも等を活用し、東大生ブースを出店。  
ブリンスの型を使った今川焼を売る。

- **現実的な集客目標、収支計画の作成**

- 協賛企業の策定
- ビラ・ポスターで広報
- 体験の創出



ブリンス焼企画の採用  
人件費削減に合意  
企画書・収支計画を作成

# 次世代のために 「今」できること



---

## 05 提案③ 本音アンケートの実施

# 05 本音アンケートの実施

## 速川地区の「現実的な将来」を考えるためのアンケート

### 背景

- 高齢化  
→今いる人の子供世代は...？
- 移住・観光促進を目指している  
→どの規模を目指すのか...？

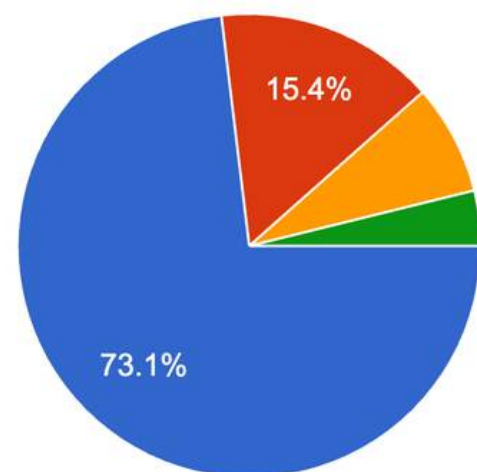
### 目的

- 地区の**全員の本音**を把握する  
→行事に積極的に関わっていない人  
転出した人も含む
- 地区の将来を考える機会にする  
→アンケートを機に話し合う
- “現実的”な目標を明確にする

# 05 本音アンケートの活用

移住者を増やす取り組みについて、正直なところどう思っていますか？

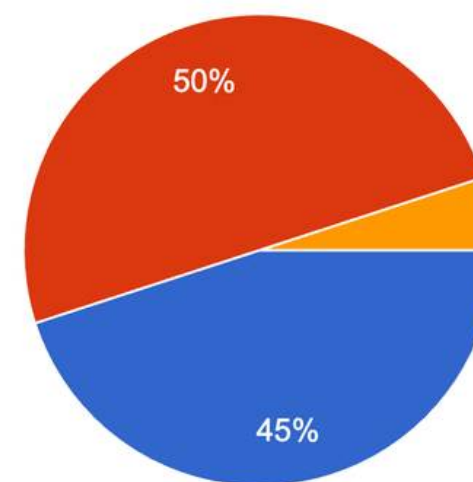
26件の回答



- 増えた方がいい (活気がほしい、維持してほしい)
- あまり増えなくてもいい (静かに暮らしたい、気を使うのが嫌だ)
- どちらでもよい・関心がない
- 増えた方がいいが現実的でない

地区を離れたお子さん等の世代と、将来 (家や土地について) の話をしていますか

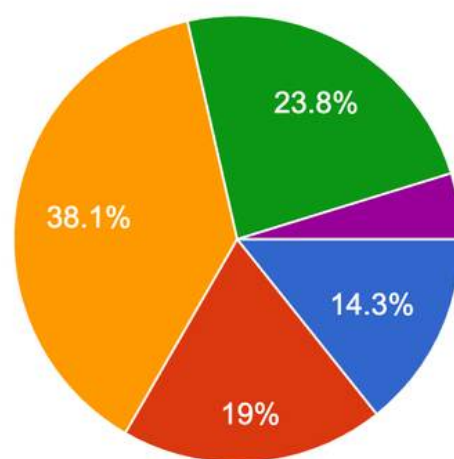
20件の回答



- している
- 全くしていない
- 氷見市内にいる

地区を離れたお子さん等の世代に対しての思いを教えてください。

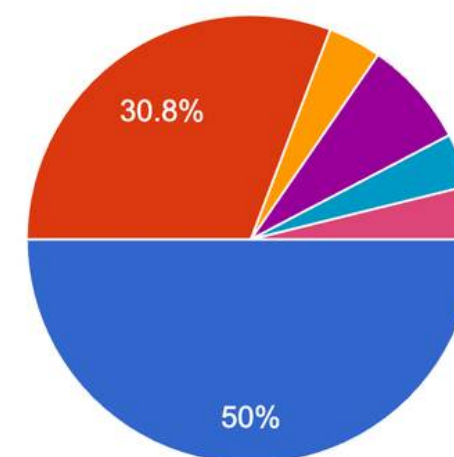
21件の回答



- (気持ち) 帰ってきてほしい
- 帰ってきてほしいと、帰ってきてほしいが無理は言えないの間
- (気持ち) 帰ってきてほしいが無理は言えない
- (気持ち) 帰ってこなくて良い
- 氷見市内にいる

地域の行事 (獅子舞・マルシェ・草刈りなど) についてどう思っていますか？

26件の回答



- 積極的に参加したいし、続けていくべきだ
- 義務感で参加しているが、本当は負担だ
- 内容を縮小したり、回数を減らしたりすべきだ
- 参加していない・参加したくない
- 積極的に参加したいし、続けていくべきだ&義務感で参加しているが、本当は...
- 自分の意思で参加しているが、先の見...
- 積極的に参加したいし、続けていくべ...

→地区の皆さんを巻き込んで“現実的”な将来を考える機会に！

# 06 市長との意見交換

氷見での活動を通して感じた違和感・疑問・率直な意見をまとめ、市長と意見交換を行いました

## 内容

- 補助金の使い方・監督に対しての疑問
- 地域おこし協力隊のあり方・効果について
- 議会見学の際に感じた違和感について
- 市の予算の使い道、不明瞭な官学連携事業・観光事業について

# 07 学び

- 地方の現実：問題の根深さ・解決の難しさを目の当たりに
  - 地域づくりの担い手の偏り
  - 高齢化
  - 空き家
  - 仕組みよりも「人」に依存
- 補助金のあり方
  - 補助金依存の構造
  - 監督の難しさ
  - モラルハザード

東京にいると知ることのない地方の現実に向き合うことができました！

**ご清聴ありがとうございました！**



# 2025年度東大FS細入地域 空き家を活用した移住・定住促進

富山県富山市チーム  
奈木麻里亜、天野咲千、松下宗平、鈴木祐太

# 目次

---

1. 細入地域の概要と課題
2. 現地活動内容
  - 第1回
  - 第2回
  - 第3回
3. 提案内容
  - 情報発信
  - 移住体験ツアー
  - 空き家の持続可能な整備
  - 地域おこし協力隊制度

# 細入地域の概要



神通川の上流、富山県の最南部に位置する細入地区  
岐阜県に接し、南北約15kmにわたる溪谷と山々に囲まれた中山間地域

人口：1085人

世帯数：487世帯

高齢化率：46.8%

## 滞在



楽今日館(温泉)

写真は楽今日館HPより

## レジャー



天湖森(グランピング)

写真は天湖森HPより

## 自然



細入地区から眺めた神通峡

写真は富山市観光協会HPより

# 細入地域の課題

---

すでに一定数いる **交流人口**

リソース

古民家

富山市が所有する物件

空地・空き家

地域内に存在する物件

神通峡すまいる

自治会連合会が管理する  
ホームページ

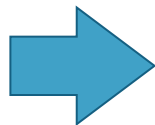
**定住人口** の増加につながる方策

# 現地活動内容

---

# 第1回現地活動（2025年 8月30日～31日）

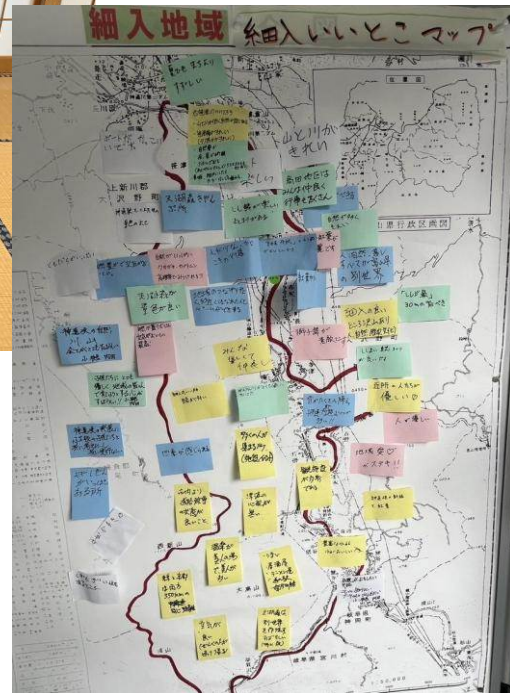
- 観光スポット散策
  - 猪谷関所館
  - 道の駅細入
  - 楽今日館
  - 天湖森BBQ
  - ボート試乗体験
- 空き家・空き地見学
- 意見交換



地域住民・関係者との直接的対話を通じた課題の再認識  
空き家の「整備」に関する課題の発見

# 第2回現地活動（2025年 11月1日～3日）

- 住民の方々と空き家掃除
- 細入祭り参加
  - 良いところマップ作成
  - 通勤圏マップ作成
  - キャッチコピー投票
- 地域住民との意見交換



地域住民の生活・細入への思いへの理解の深化  
空き家整備の可能性の確認

# 第3回現地活動（2025年 3月1日~2日）

---

## 活動報告会の実施



# 提案内容

---

# 空き家を活用した移住・定住促進のステップ

---

## Step①移住成功事例を作る

- 情報発信（「神通峡すまいる」の整備）
- 移住体験ツアー

## Step②持続可能な空き家の整備

+  $\alpha$  制度の改革（地域おこし協力隊制度に関する提案）

# ①移住事例の創出：「神通峡すまいる」の整備

---

課題：情報が散らばっており、サイト訪問者に魅力が伝わらない



解決法：移住者向けページを作成し、以下の魅力をわかりやすく伝える

- トップに細入まつりで収集した「住民の考える細入地区の魅力」を掲載する
- 金銭的支援制度を一元化する
  - ターゲットのモデルケース（4人家族）を作成して、実際にもらえる金銭的支援を一覧化し、一目で短時間で伝える
- 相談窓口を設置
  - 神通峡すまいるにわかりやすく掲載する



# ①移住事例の創出：移住体験・ワーケーション

## 細入の強みを活用した移住体験・ワーケーション

- 市街地への近さ × 豊かな自然 × 暖かいコミュニティ
- 子育て世代も安心：保育所との一時保育連携で「ワーク×育児」の完全両立

## 多様な滞在スタイル

- 【短期】 季節を味わう（雪国・紅葉ツアー）
- 【中期】 集中ワーク（避暑・冬籠もりワーケーション）
- 【長期】 本格移住へのステップ（仮住まい・トライアル）

## 多目的な自走運営モデル

- 法人研修・サブスク住宅・コワーキング・地域活動など多用途に活用
- 空き家の適正管理・景観向上、地域経済の循環・活性化
- → 認知度向上、理解者・移住者の増加へ



## ②空き家の持続的な整備方法に関する提案

---

### 現状の課題

「管理はされているが移住者が住める状態にはなっていない空き家」が多く存在しており、今後も増加

自治体の  
関与



### 理想状態

「移住者が住める状態」に転換し続けられる体制

# 概要

---

## ①「神通峡すまいる」への掲載、情報提供促進

空き家所有者に対する周知の強化

## ②自主会主体の整備・管理

- 定期的に空き家パトロールを実施
- 年1～2回（お盆、年末年始等）に、協働整備日

## ③「富山市空き家情報バンク」への登録を自治会が代行

## ①「神通峡すまいる」への掲載、情報提供促進

---

対象：地域内外の空き家所有者

方法：総会、チラシ、納税通知書の郵送を利用

提供を求める情報：家の基本情報、所有者連絡先

※先行事例（茨城県桜川市）

市外に在住する固定資産税の納税義務者に対する効果的なアプローチ方法として、市内他部署が定期的を実施している固定資産税の納税通知書に、空き家バンクへの登録を促すチラシを同封したところ、登録が急増

参照：国土交通省「地方公共団体における空き家対策の実例集」

[https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr\\_content/content/000873300.pdf](https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000873300.pdf)

## ②自主会主体の整備・管理

---

定期的に空き家パトロールを実施

- ・年に1回以上
- ・管理に問題があれば空き家所有者へ連絡

年1～2回（お盆、年末年始等）に、協働整備日

第2回現地活動で行った、住民参加型の協働空き家整備を制度化

 空き家を「住める状態」へ



### ③ 「富山市空き家情報バンク」への登録を自治会が代行

⇒ 「住める状態」になった空き家は、より広域への発信力がある  
富山市空き家情報バンクへ掲載



「富山市空き家情報バンク」  
<https://www.city.toyama.lg.jp/akiyabk/1014209/1014248.html>

←エリア検索できるが、現在細入地域の物件はない

物件一覧(検索結果)

該当する検索結果がありませんでした。

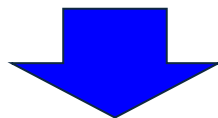
# 地域おこし協力隊制度 に関する提言

# 地域おこし協力隊の現状と課題

---

現状：1名の募集

課題：精神的孤立、スキル不足、冬場の空白



解決策：2～4名を1チームとして一括採用・配置

メリット

- 隊員同士の相互補完（メンタル・技術）
- 異なるスキルの掛け合わせによる事業創出（ $1+1>2$ ）
- 地域住民に対する「点」ではなく「面」でのアプローチ
- 夫婦、友人同士での応募がしやすくなる

# 特定地域づくり事業協同組合 に関する提言

# 制度の概要

## 不安定な季節雇用 から 安定した正規雇用



# 特定地域づくり事業協同組合の仕組み

(例) 派遣職員6名の人件費及び事務局運営費3,000万円/年

利用料収入 1/2 【1500万】	市町村からの助成 1/2 【1500万】		組合
特定地域づくり事業 推進交付金 1/4 【750万】	特別交付税 1/8 【375万】	実質負担額 1/8 【375万】	市町村

# 特定地域づくり事業協同組合のメリット

---

## 事業者

- ・ 繁閑差による  
**人手不足の解消**
- ・ 採用**コストの削減**

## 働く人

- ・ **安定した雇用** ・  
社会保険  
地域とのつながり

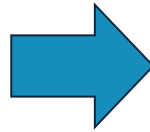
## 地域

- ・ **移住促進・定住化**  
地域コミュニティ  
の活性化  
**担い手育成**

# 提案内容のまとめ

---

①移住希望者に対するアプローチの改善による移住事例の創出



②空き家所有者に対するアプローチの改善による持続可能な空き家の整備



地域おこし  
協力隊制度  
の工夫

⇒細入地域への移住・定住促進

補足資料

# 【事例】 石川県珠洲市

## 活動内容

- 伝統行事「キリコ祭り」への参加
- 「奥能登国際芸術祭」ボランティア
- 青年団への加入

## 実績

これまで15名雇用  
(うち14名が移住者)

社員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A 30代男性	農業／米づくり (週5日)						酒蔵／蔵人 (週5日)					
B 20代女性	引退馬支援事業／馬のお世話 (週4日)											
	農業／ケール栽培・収穫 (週1日)											
C 20代女性	観光施設／販売 (週5日)									道の駅／販売 (週3日)		
										飲食店／接客 (週2日)		
D 30代女性							宿泊施設／清掃・接客 (週3日)			(週2日)		
							炭焼工場／事務・発送 (週2日)			(週3日)		

# 補足 設立手続き

---

- 発揮人の選定（4事業者以上）
- 都道府県との事前協議
- 設立許可申請
- 出資払い込み
- 設立登記

2~3か月程度

# 石川県珠洲市チーム 最終報告

教養学部4年 廣田彩咲

文学部3年 鈴木律紡

文科一類2年 宇城謙人

# 発表項目

- 現地活動報告
- 東京での活動
- これから

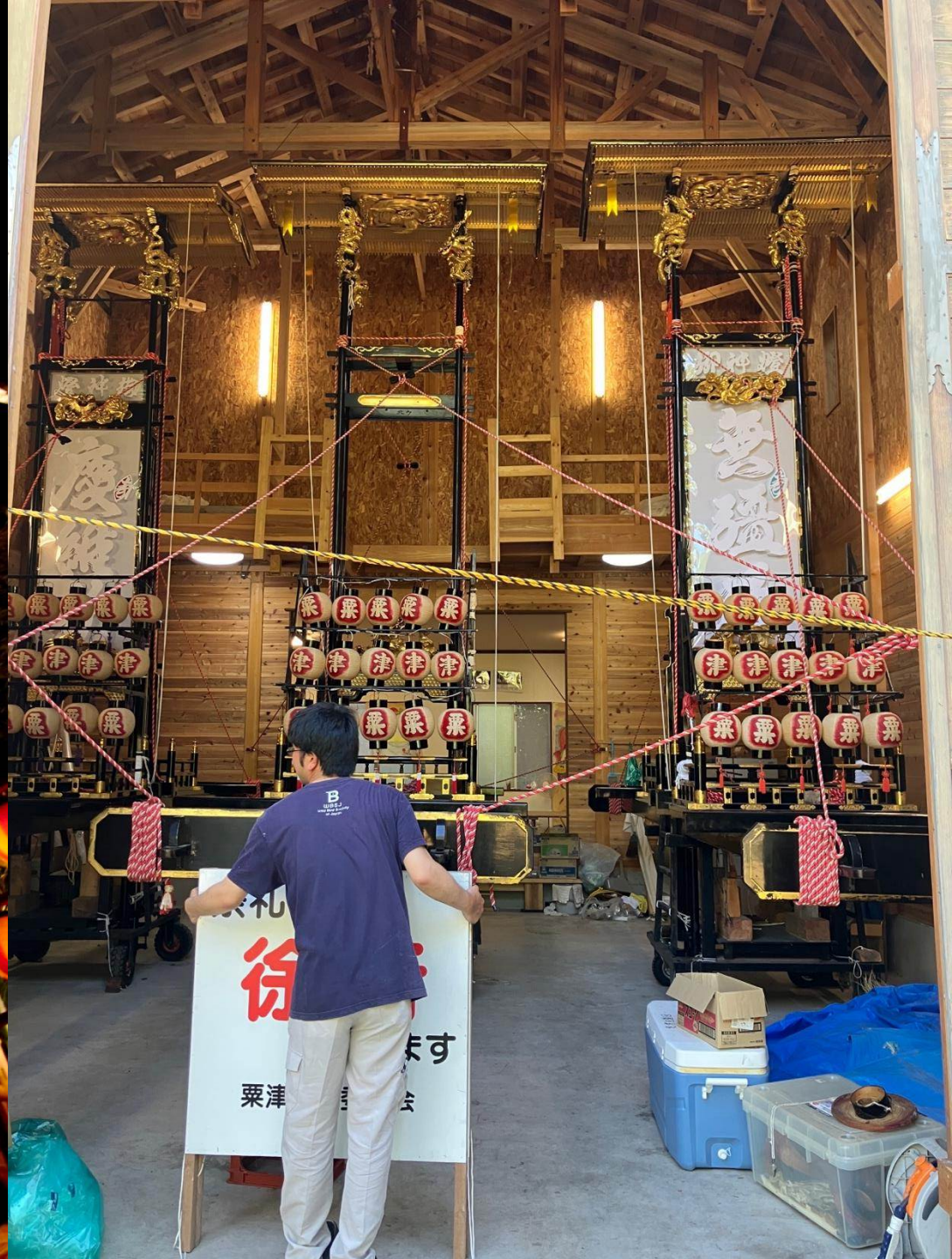
# 現地活動報告

「子どもたちが思い描く『珠洲のみらい』を表現しよう」

# 現地活動報告

- 量的なアンケートではなく、質的な「声」を集めることを目標とした
- 第1回現地活動（7月30日～8月3日）
  - 飯田高校を訪問
  - 事前に募集した高校生へのヒアリングを実施
  - 高校生の探求学習「ゆめかな」のイベントに参加
    - オープンクエッションを意識し、高校生に自由に語ってもらうことを狙った
  - 珠洲の概要を知るため高校生以外へのヒアリングも実施
  - 祭りへの参加





# 現地活動報告

- 第1回現地活動で印象的だった出来事
    - 大人と高校生が同時に居合わせた場で、大人が話し出すと高校生が黙り込んでしまう。模範解答的な発言をしてしまう。  
→大人という存在の暴力性を認識。高校生の「生の声」を聞く重要性、必要性を感じた
- \* キーワード「参与観察」

# 現地活動報告

- 第2回現地活動（10月3日～6日）
  - 第1回の教訓から、高校生の立場に立ったフラットな会話を心がけ、その中で高校生が描く地域や地震の未来像を探ろうとした
  - 飯田高校を訪問。部活動に混ぜてもらい、「ただしゃべる」「会話に混ぜてもらおう」形式を意識した
  - 有志の高校生を図書館に集め、さらに深い会話の機会を作った

# 東京での活動

- 目標は集めた高校生の声を東京で展示すること
- 東大本部社会連携推進課、体験活動推進チームなどのご協力によりSHIBUYA QWS（スクランブルスクエア15階）での開催が決定（1月17日、18日）



おれん家、  
オーシャンビューになった。

## 珠洲の高校生の 未来キャンパス展

by 東大FS 珠洲市チーム

2024年に地震や豪雨災害を経験し、奥能登・珠洲の「当たり前」は崩れた。そこで暮らす高校生は「明日」に向けてどのような考えを抱いているのだろうか。

2026年  
1月17日（土）16時～20時  
1月18日（日）11時～15時  
@渋谷QWS15階（入場無料）  
PLAY GROUND（17日）/ CROSS PARK（18日）

※SHIBUYA QWS 東京大学イベント  
主催：SHIBUYA QWS Innovation協議会  
共催：東京大学社会連携部  
企画・運営：東大FS石川県珠洲市チーム  
協力：珠洲市

instagram  
詳細はこちら

# 東京での活動

- オンラインも含め集めた会話の録音を全て文字起こし。A0で25枚相当の展示資料に
- 来場者に伝わりやすいように画像資料も用意
- また、「声」にリアルさを提示するため、動画作品を用意した

# 東京での活動

- 展覧会当日（1月17、18日）
  - 資料展示、動画作品のほか、珠洲市出身の方を計3名お招きし、トークセッションを開催。来場者と珠洲の間に、相互対話的な関係性を構築する展覧会を設計することを目指した



# 東京での活動

- 展覧会当日（1月17、18日）
  - 72名の方が来場。珠洲に関わりのある方からない方まで、来場理由はさまざまだった。
  - 来場者の平均滞在時間は2時間程度という肌感覚。
  - 来場者同士を繋ぐ「ハブ」となれた。
  - 同様の展示を2月19日～24日に珠洲市民図書館でも開催



# これから

- 少なくない数の珠洲の高校生の声を聞き、可視化した
  - それをどう政治に反映するかは行政の役割
- しかし、高校生の声を聞いたことに対する責任は大学生にも
- 大学生の「出番」——ハブとしての役割
  - 高校生がいつでも相談し、思ったことを壁打ちするための東大生
  - 高校生の探求学習のサポート
  - 獲得、開拓した人脈の活用

# 石川県能美市

## スマートインクルーシブシティの推進 ～デジタル公民館の魅力・可能性について～

東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム  
石川県能美市チーム 白川裕都 鈴木日有桜 玉寄英慈

# 石川県能美市とは？

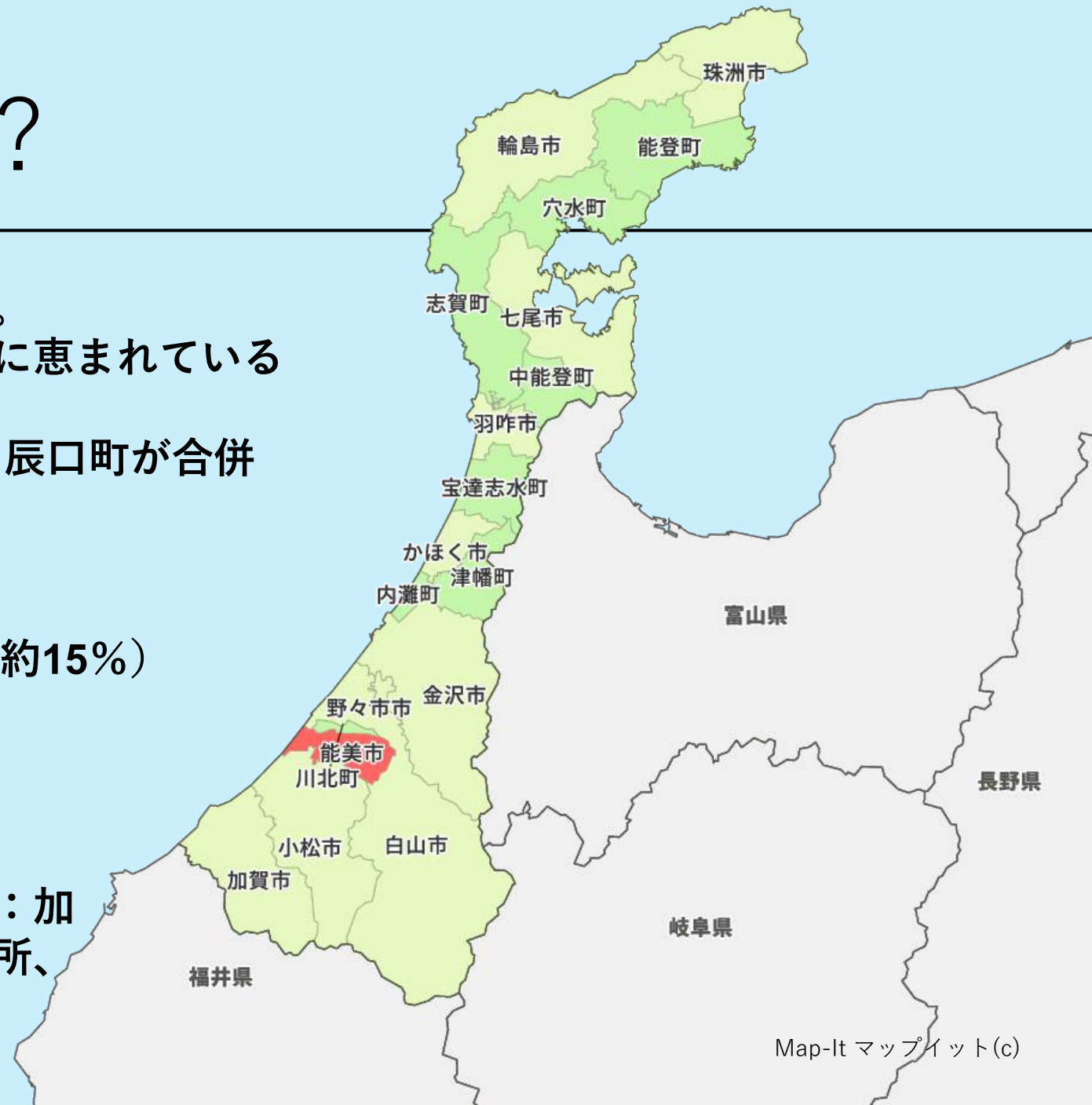
位置：石川県南部・加賀平野の中央付近。  
白山・日本海・手取川などの豊かな自然に恵まれている

市制：2005年2月1日、根上町・寺井町・辰口町が合併して能美市が誕生。

面積：84.14km<sup>2</sup>  
(内訳：山林約42%／農地約22%／宅地約15%)

人口：49,706人・20,718世帯

産業集積：製造業や物流拠点が立地（例：加賀東芝エレクトロニクス、金沢村田製作所、東レ、日本ガイシ等）



# 既存の取り組みと課題

- 能美市には74と数多くの公民館がある。
- 移動が困難な市民や、デジタル化の波に取り残されがちな市民、公民館利用が多い市民の生活拠点としての機能を高めるため、全館にWi-Fiを完備しデジタル化(=デジタル公民館)を進めている。

【活用事例】 買い物代行サービス、遠隔診療、スマホカフェ、オンライン健康・E-sports講座など。

- これらはいくつかのモデル地区で先進事例を作り、その他町会への展開を目指している。
- その中で①利用者の高齢者層への偏り②利用目的の健康・スマホの使い方関連への偏り③利用頻度や利用主体の不足など、**デジタル公民館を十分に活用できていない現状**がある。

# お題 「デジタル公民館の魅力発信」

---

デジタル公民館があらゆる世代・属性に楽しく活用されるようにする！

+ コミュニティサポーター\*との協働

→ 公民館活用の **アイデアを出す。**  
**実践する。**  
**わかりやすくアピールする。**

\*現地の(株)CNCが主導し公民館など地域の取り組みを推進するサポーター

# 現地活動



# 教育支援ワークショップ

---

- 公民館利用率の低い若い世代を取り込み、勉強をしたいけど、なかなか聞ける人がいない！という声に応えるため、
  - **オアシスつるしん**にて「Zoomを用いて質問ができる学習イベント」を開催
  - **みんなで楽しく勉強するという体験を作ることができた！**
- 【改善したいところ】
- オンラインでの質問対応が難しかった
  - 自走のためには、**教える人材の確保が難しい**と感じた
  - 質問対応以外で、**Wi-Fiの強みを活かしにくい**

# 国際交流会

- 公民館の多文化共生拠点としての可能性を調べるため、簡単なクイズやベトナム料理・歓談を楽しむ国際交流会を浜町公民館で実施。能美市国際交流協会やベトナム料理屋、コミュニティサポーターに協力いただいた。
- 27人の方（うちベトナム系3名・中華系4名）が参加。
- 食文化、受験文化などについて「新しい発見がある。」「お互いの国について知りたい好奇心が強く感じられた。」などポジティブな文化交換の場  
に。
- 意義：①共生のニーズ・素地・環境の確認（課題①②）、②モデル地区以外への拡大（課題③）、③公民館に外国人住民が来るきっかけ・地域社会内の接点作り（課題①②）

【改善したいところ】：適切な運営主体にバトンをつなぎ、広げ、活用する人・方法の幅を増やしていけないか。公民館のデジタル性をどう生かすか。

# 最終報告

## 市長向け発表+市民向け発表

→AIを用いてデジタル公民館の未来や能美の未来について考えるワークショップを開催。

## 「人工知能(AI)と作る！～未来の能美絵本会議～」

地域の未来について考えることを通して、楽しく**多世代交流**が出来た。市長からも**好評**。出力から次の行動の発想が生まれ、主体的に**地域を考える契機**になると実感

プロンプト協力:東京大学大学院情報学環・学際情報学府 渡邊英徳研究室



# 今後の方向性

---

- 能美市のデジタル公民館の取り組みを**PR**できないか模索中
- 4月に**まちづくりワークショップ**を能美市で実施予定
- 各町会に**ホームページの雛形**を配布する(かも)
  
- さらに**イベント**が増える + **情報発信や継続力**の強化を図る
  - 公民館を地域拠点に、より多くの市民が活用し**地域参画が循環**する状態に
  - 「誰も取り残さない」 **スマートインクルーシブ**の実現・加速

# さいごに 活動を通して学んだこと

仮説・既存の枠組みから実践を捉えていくことが多かったが、**純粹に楽しそうなことをとりあえずしてみる**ことで、**見えてくるものがある**と気付きました。そうした**活動の積み重ね**で**何かが動いていく様子**を感じました。

制度だけでは浸透せず、個人の意思だけでは続かない—このジレンマを、**市＋コミュニティサポーター＋地域**の関係性で乗り越えようとする能美市のあり方に多くを学びました

# これからの情報化社会へ

—紀北町におけるデジタルデバイス解消と電子申請普及に向けて—

FS三重県紀北町チーム



# 目次

---

01

活動報告

02

課題

03

アンケート結果

04

先行事例

05

施策提案

06

まとめ



# — 紀北町の魅力 —



鉾子川



渡利かき



世界遺産・熊野古道



熊野古道からの眺望

- 都内の紀北町主催のイベント参加
  - 6月、10月開催の紀北町PRイベント
- 紀北町内の見学
  - 熊野古道、銚子川
  - 芋掘りイベント
  - カヤック体験
  - 散策





高齢者の方々に聞き取り



アンケート調査



スマホ相談会



# 課題①：高齢者のデジタルデバイス解消

## 《《 スマホの心理的な遠さ 》》

子や孫以外に尋ねる環境なし

町の「**スマホ教室**」 ← 集客率△



## 《《 スマホに対する恐怖心、諦め 》》

「知らない番号から  
電話がかかってくるのではなにかか」

「今さら新しいことを覚える  
気力や体力はない」



## 課題②：電子申請の普及

### 現実のギャップ

役場：たくさんの来庁者



住民：年数回未満の申請

### 認知度の低さ

電子申請できる申請の

多様さについては

認知度が低い

### 若い世代に需要あり

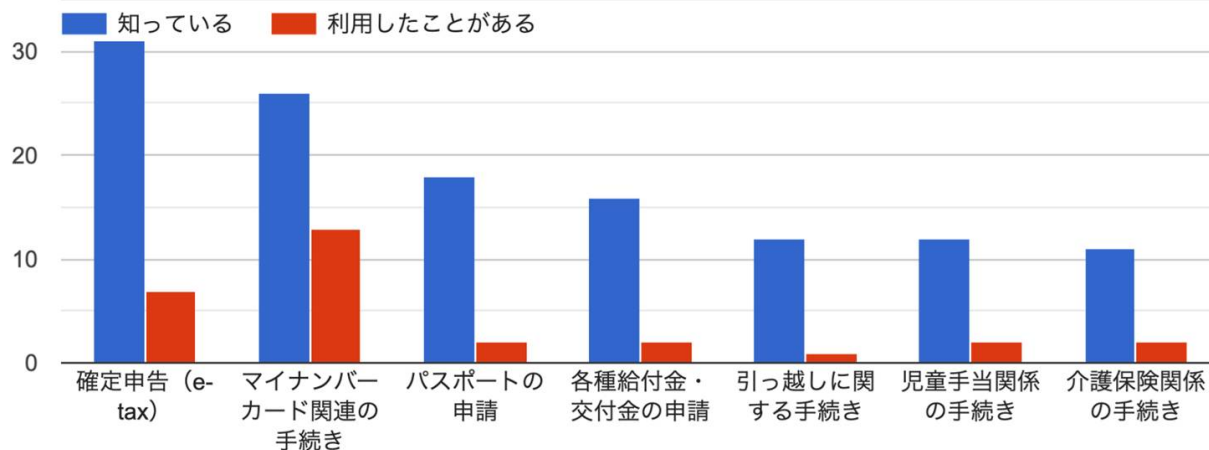
比較的若い世代：

マイナンバー関連の

電子申請の経験あり



問5. 次の手続きのオンライン申請についてあてはまるもの全てをお選びください。



平均認知度  
約 **49%**




# デジタルデバイド解消に向けた先行事例①

## 東京都練馬区

- **スマホ教室・相談会**  
+ **相談窓口** (予約不要)
- **事業所を利用する人が気軽に聞ける環境で、リピーター多数**

窓口に置かれた資料▶

練馬区はつらつセンター光が丘の皆様に取材のご協力いただきまして



### はつらつセンタースマホ相談窓口

**■ ご相談内容について**

- ・スマートフォンの基本操作に関するご相談ははつらつセンターの職員が承ります。
- ・個人情報(パスワードや銀行情報など)、金銭・ポイント等の内容は、お答えできません。
- ・また、そのような内容をこちらからお聞きすることはありません。
- ・固有のアプリや設定方法など、内容によってお答えできない場合があります。

～基本操作の一例～

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボタン操作</li> <li>・ 電話のかけ方、受け方、連絡先の登録</li> <li>・ カメラ撮影、撮った写真の閲覧、削除方法</li> <li>・ QRコードの読み取り</li> <li>・ アプリの追加方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット利用</li> <li>・ ニュースの見方</li> <li>・ 文字入力</li> <li>・ メールの使い方</li> <li>・ マップの見方、目的地までの経路の調べ方</li> <li>・ メッセージアプリの使い方 など</li> </ul>
---	---

**■ ご利用時間・受付方法**

- ・ 【受付時間】 開館日の午前 9 時から午後5時まで(正午から午後1時を除く)
- ・ 【受付方法】 窓口でお声がけください(事前予約不要)

※ センター内の他事業実施の都合や、混雑時はお待ちいただくことがあります。

**■ 持ち物**


- ・ ご自身のスマートフォン

**■ サポートの範囲**

- ・ 操作の「代行」は行っておりません。ご自身で操作できるようにサポートします。
- ・ お一人あたり 10 分程度とさせていただきます。

**■ お願い**


- ・ 相談終了後にアンケートのご協力をお願いします。



↑アンケートの二次元コード

～はつらつセンター～

はつらつセンター光が丘	光が丘 2-9-6	☎03-5997-7717
はつらつセンター関	関町北 1-7-2	☎03-3928-1987
はつらつセンター豊玉	豊玉中 3-3-12	☎03-5912-6401
はつらつセンター大泉	大泉学園町 1-34-20	☎03-3867-3180





## 東京都渋谷区

### ● スマホサロン (予約不要)

「参加者同士で

気軽におしゃべりや交流をしながら

スマートフォンに親しくする場」

### ● 世代間交流の場に



スマホサロンの様子



## 課題① 「高齢者のデジタルデバイド解消」

スマホ教室→「スマホ相談会」へ



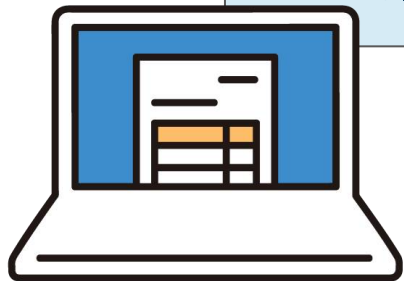
	スマホ教室	スマホ相談会
形式	一方通行	双方向
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電源の入れ方</li> <li>・電話のかけ方</li> <li>・LINEの使い方 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀北町公式LINE</li> <li>・防災ナビ</li> <li>・グループLINEのやり方 + 日常の困りごと解決</li> </ul>
その他	—	簡易マニュアルの配布



## 課題②「電子申請の普及」

電子申請端末の設置

- ・来庁者への呼びかけ
- ・「入力」の省略  
→業務の効率化

広報

- ・「何を電子申請することができるのか」
- ・課題ごとのわかかやすさの掲示



- 課題①「高齢者のデジタルデバイド解消」

高齢者にスマホを使ってもらうためには、いつでも質問できる状況が大事

→「スマホ教室」ではなく「スマホ相談会」を開催、持ち帰れるマニュアルの配布

- 課題②「電子申請の普及」

現役世代を中心に認知は拡がりつつある

→役場にも電子入力端末を設置、各課窓口に分かりやすい掲示



# 三重県南伊勢町



チームメンバー：下村英理, Harsh Animesh, 篠原英一郎

# 発表の流れ

- ① 道行竈の紹介
- ② 課題設定について
- ③ 現地活動紹介
- ④ 2025年度FSとしての解決策



人口は**30人程度**のみ

→→しかも、実際はもっと少ない

正真正銘の 『限界集落』

「文化を次に伝える人がいない」

# 課題：道行竈の関係人口創出のシステム作り

人口より多い歴代FS生

関わるきっかけはたくさん（町・県・国営のプロジェクト）

「一度関わって終わり」の現状

→ 繋ぎ止める仕組みがない

## 南伊勢町担当（私たち）の姿勢

### ★私たちにできることを考える

→ ✕ 提案ベース、お願いベース

### ★関東圏にいるわたしたち

→ 現地では先進的な取り組み多数

→ 関東を対象としたイベント等はある

→ 関東圏の人が多い

# 第一回現地活動 9/12~15

日本酒製造委  
託先  
「若戎」



過去のFS生も  
お呼びしました



敬老会で  
落語披露



## 第二回現地活動 12/20, 21



町長さんや移住者の方、地  
域おこしの他プロジェクト  
に関わる方たちと、食事を  
しながらの座談会  
熱い思いを聴く



提案する解決手段① →再来年度以降の開始見込み

## 会員サービスの運営（道行竈ファンクラブ）

- 「帰属意識」「関わる理由」を分かりやすく創出
- 今後導入される「ふるさと住民制度」の民間版的立ち位置
- チーム道行竈等との今後の長期にわたる連携を提案し協議中

限定の日本酒商品

年数回程の会合

五月祭出店

定期購入

道行竈ツアー

②FSを通して関わりつづける「仕組み」をつくること

## 歴代FS生との関わり

### 過去の取り組み

- ・ 2025年度五月祭を介しての交流
- ・ 第一回現地活動に前年度FS生が合流

+

場の提供回数増加・アフターフォロー

### 具体的な提案内容

- ・ オリジナル仮想通貨を配布し帰属意識向上（文化祭等の利益剰余金で運用）
- ・ 日本酒以外の関連製品により機会増加（駒場祭など）

# 五月祭について

今年もやります五月祭 (5/16-17)

⇓⇓⇓昨年さまざまな良い影響が生まれました⇓⇓⇓

コミュニティ形成

取扱店舗獲得

購入者増加

南伊勢町を出た  
人との出会い

今年は特にこの部分を重視して実施予定

## 【実施内容】

- ・ 日本酒の試飲
- ・ 現地のおつまみの提供
- ・ 道行竈に関する紹介

# 滋賀県 長浜市 田根地区 ～大学生との持続的な繋がりの創出～

ひらいりょうま たにほ あずき いとう ちひろ なかむら こう

平井伶磨・谷保梓樹・伊藤千尋・中村航

## チーム課題

# 「大学生との持続的な繋がり創出」

### <背景>

様々な大学生との交流はあるが、実際の成果に繋がった事例は少ない。  
地元の人「大学生がうろうろしてるけど何になっているのか」

大学卒業後も田根地区との関係を継続してもらい、地域づくりに繋がりたい。

「人の縁の種をたくさん蒔いて、そのうち一つでも何かに繋がってくれれば」

(まちづくりセンター所長 中嶋様より聞き取り)

# これまでの東大FSの田根地区での取り組み

2021年から関わりがある

2023年 「企業との協働」

大学生との関わりを支えるスポンサー企業を探したが、実現には至らず

2024年 「大学生との持続的な繋がり創出」

第1回ホームカミングディを開催

地元の小学生も含め、30名近くが参加

課題: 集客が遅く田根地区OBOGの参加が少なかった

# 長浜市の概要

滋賀県北部に位置する  
琵琶湖と林野が大部分を占める

古くから鉄道・道路などの交通の要  
主に製造業が盛ん(ex. ヤンマー、キャノン)  
琵琶湖、竹生島が名所

姉川の合戦、賤ヶ岳の合の舞台となっており、  
現在放映中の大河ドラマ「豊臣兄弟！」でも取り上げられている

特に若者世代の人口減少が課題



Map-It マップイット | 地図素材サイトより引用  
<https://map-it.azurewebsites.net/ja/License>



市街地の様子

# 長浜市の概要

滋賀県北部に位置する  
琵琶湖と林野が大部分を占め



琵琶湖



Map-It マッ

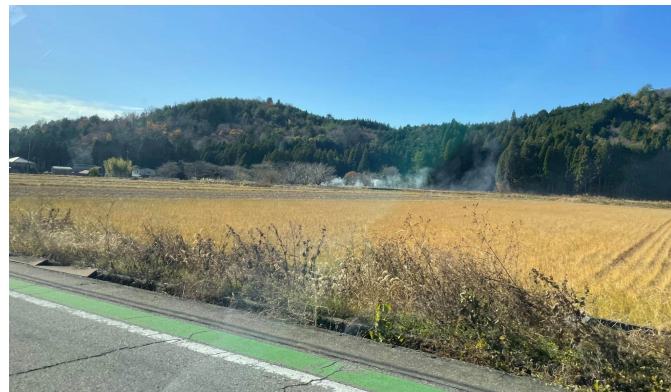


二葉屋の  
アイスクリーム



# 田根地区の概要

- ・長浜市の真ん中ほどに位置し14の自治会で構成
- ・人口1384人
- ・山に囲まれ、水田が広がっている
- ・田根小学校 生徒数50人
- ・冬は積雪 1m越えも



↑水田が広がる様子

三輪神社→



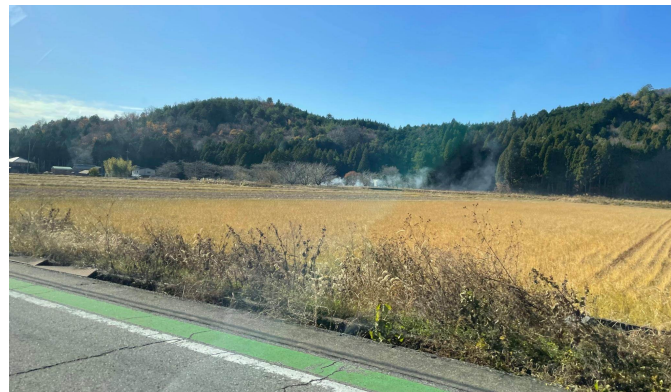
# 田根地区の概要

2007年 慶應義塾大学(以下、慶應大学)との交流を開始  
(古民家リノベーションなど)

以降、

- 滋賀県立大学
- マサチューセッツ工科大学
- 早稲田大学
- 東京大学
- 専修大学
- 人間環境大学
- 京都橘大学
- 立正大学

などと協働



↑水田が広がる様子

三輪神社→



# 第一回訪問 8/4～7

- 1日目 市内散策・大学生との交流会
- 2日目 まちづくりセンター所長へのヒアリング
- 3日目 植谷邸の見学
- 4日目 周辺の観光

## 気づき

多様な大学生が訪れ、繋がりを作れること自体が田根地区の魅力である

特に田根地区に訪れた時期が異なると、どんな人が互いに知らない



田根まちづくりセンターでの集合写真



大学コーディネーター宅

## 第二回訪問 12/12～14

1日目 郷土料理、田根地区散策

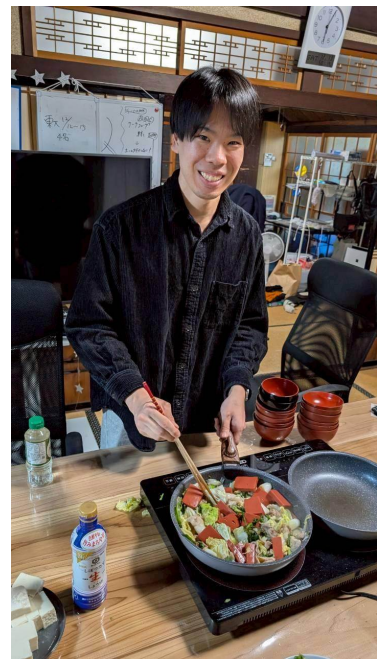
2日目 まちづくりセンター所長へのヒアリング、「じゅんじゅん試作」、田根地区への移住者と交流

3日目 ホームカミングディ企画・内部向けwebページ企画について打ち合わせ

- ・内部向けwebページの詳細が決まった
- ・ホームカミングディの具体的な日程やスケジュールが決まり、参加の呼びかけも行った



左は赤こんにやく、右は鮎寿司



郷土料理「じゅんじゅん」の試作の様子→

# 施策

訪問での気づき①:

過去に田根地区を訪問した学生について、情報の所在が属人化している

→ 田根地区内部向けwebページの作成

訪問での気づき②:

多様な大学生が訪れ、繋がりを作れること自体が田根地区の魅力である

→ 第二回ホームカミングデイの開催

# 施策①田根地区内部向けwebページの作成

Googleフォームへの回答を依頼し、個人紹介のページを作成

フォームへの回答依頼はDiscordで行った

田根地区に来た人への  
限定公開の予定



実際のホームページ→

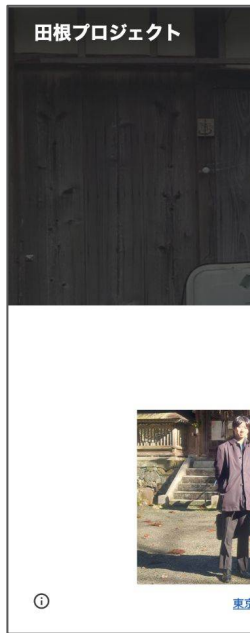
# 施策①田根地区内部向け

Googleフォームへの回答を依頼し、

フォームへの回答依頼はDiscordで

田根地区に来た人への  
限定公開の予定

実際のホームページ→



田根プロジェクト

谷保梓樹 (たにほ・あずき)



大学：東京大学大学院(2025-2027)

学部学科：新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

出身：長野県

誕生日：2001/04/15

学んでいること：都市計画、まちづくり

現在の活動：学生

○趣味○

まち歩き、旅行が好きです。中学にハンドボール、高校大学と硬式野球をやっていたこともあり、スポーツ観戦も好きです。特に最近はサッカー、野球、バスケット観戦にハマっています。修士に入ってから登山にも少しずつチャレンジしています。今シーズンは4回登山をし、9月は北アルプスの燕岳、大天井岳に登りました。

○興味のハッシュタグ○

#まちづくり、#建築、#Bリーグ、#登山、#東京ヤクルトスワローズ、#野球、#旅行、#居場所づくり

○田根以外での活動○

大学では都市工学を専門に学んでいます。特に修士に入ってから現場での実践活動を大切にしており、長野県塩尻市奈良井におけるまちづくりビジョンの策定のお手伝い、石川県七尾市能登島における藻場の再生、福島県新地町における景観保全の取り組みなどに関わっています。また、学部時代には杉並区方南町における子どもの居場所づくりの取り組みにも関わっていました

○田根に関わることになったきっかけ○

東京大学にはFS（フィールドスタディ型政策協働プログラム）と呼ばれる全学対象のプログラムがあります。これに応募をし、今年度の滋賀県長浜市田根地域の担当として関わらせていただくことになりました。

○田根地域の好きなお話○

実はまだ現地を訪れることができていません🥹早く行きたいです

○SNS（希望者）○

poppo\_runrun(Instaglam)

○みんなに一言○

大学・年度関係なく様々な方と関わると嬉しいです。よろしくをお願いします！

個人紹介ページの様子

## 第三回訪問 3/6～3/9

- 1日目 ホームカミングディの準備
- 2日目 ホームカミングディ1日目
- 3日目 ホームカミングディ2日目
- 4日目 ホームカミングディの片付け

- ・ホームカミングディを成功することができた  
(オンラインを含めて延べ30人ほどの参加、5大学の発表)
- ・OBOGや、はじめて田根を訪れた学生と交流できた
- ・ホームカミングディの恒例化と次回の開催の機運が高まった



ホームカミング  
ディの様子



# ホームカミングディ

## 内容:

- リアル脱出ゲーム **A**
- もちつき大会 **A**
- 大学別活動報告会 **B**
- 田根サミット **B**
- 古民家改装DIY **A**
- 神社の祭り見学 **B**

## 性質:

**A** = 共同作業で仲を深めて再訪意欲を高める

**B** = 田根の文化や各大学の活動を知ること、後輩や他大の活動の存在から再訪意欲を高める

1月告知版

Coming Soon!

Homecoming Day in TANE, NAGAHAMA  
第2回田根ホームカミングディ

For OBOG For Students For TANE People

3/7 SAT

スポーツ企画  
About 12:00~ 参加費・場所未定

もちつき大会  
About ~16:00 【参加費:500円程度】  
@まちづくりセンター

大学別活動報告会  
湖北の郷土料理「じゅんじゅん」を囲んで!  
【参加費:1000円程度】  
@まちづくりセンター

+WEB配信

田根サミット 2026  
About 16:00~20:00  
田根を題材にみんなでゆる〜く地方を語ろう!

+WEB配信

3/8 SUN

植谷邸DIY  
About 8:00~12:00 @植谷邸

三輪神社の「春祭り」見学  
About 13:00~15:00  
@田根地区谷口町

申込×切 1/31  
参加フォーム

ついに、申込開始です!!  
久しぶりの仲間と田根で再会を!

途中参加・一部イベントのみの参加も大歓迎です!

作成・企画 2025年度東京大学FSチーム 伊藤・中村・谷保・平井  
お問い合わせはDiscordもしくは連絡担当者にメールまで! hirai.shitsumu@gmail.com

# まとめ

## <達成できたこと>

- ・第二回ホームカミングディを盛会させて、再訪する動機を高めた  
  ⇐「あの人とまた会いたいから」「今の田根(での活動)が気になるから」
- ・田根地区限定の活動学生・OBOG紹介HPを作成・寄稿が進んできた  
  ⇐ユニークな人が集まる田根地区の魅力を、参加した学生も、最近参加できていない学生にも訴求し続けることができるようになり、再訪と田根との心理的接続を確保した

## <今後の課題と解決の可能性>

- ・ホームカミングディの集客や持続性⇒東京⇔田根の相乗りバス？日程を3、12か月前確定
- ・内部向けwebページの充実・持続性⇒断続的に訪れる学生に寄稿を誘因・ブログ機能追加

滋賀県長浜市田根地区 大学コーディネーター 堀田様

滋賀県長浜市役所 市民活躍課 村田様

田根地区まちづくりセンター所長、地域づくり協議会メンバー 中嶋様

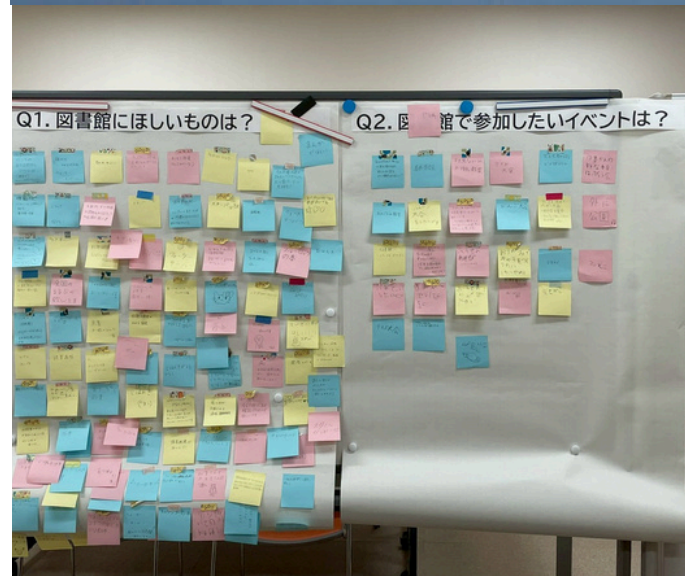
田根地区で共に過ごした大学生の皆様

体験活動推進チームの皆様

担当教員の菊地先生、玄田先生、野村先生

そのほか、お世話になった全ての方々に感謝申し上げます

ご清聴ありがとうございました



FS 和歌山県岩出市

# 2025年度 活動報告

メンバー：橋本啓吾・土田崇生・中島陶冶

2026/03/16



# CONTENTS

<b>01</b>	<b>岩出市・図書館の概要</b> .....	3	<b>04</b>	<b>施策の提案</b> .....	12
<b>02</b>	<b>課題と背景</b> .....	5	<b>05</b>	<b>今後の展望</b> .....	16
<b>03</b>	<b>現地活動報告</b> .....	7	<b>06</b>	<b>活動を通じて</b> .....	18

- 第一回
- 第二回

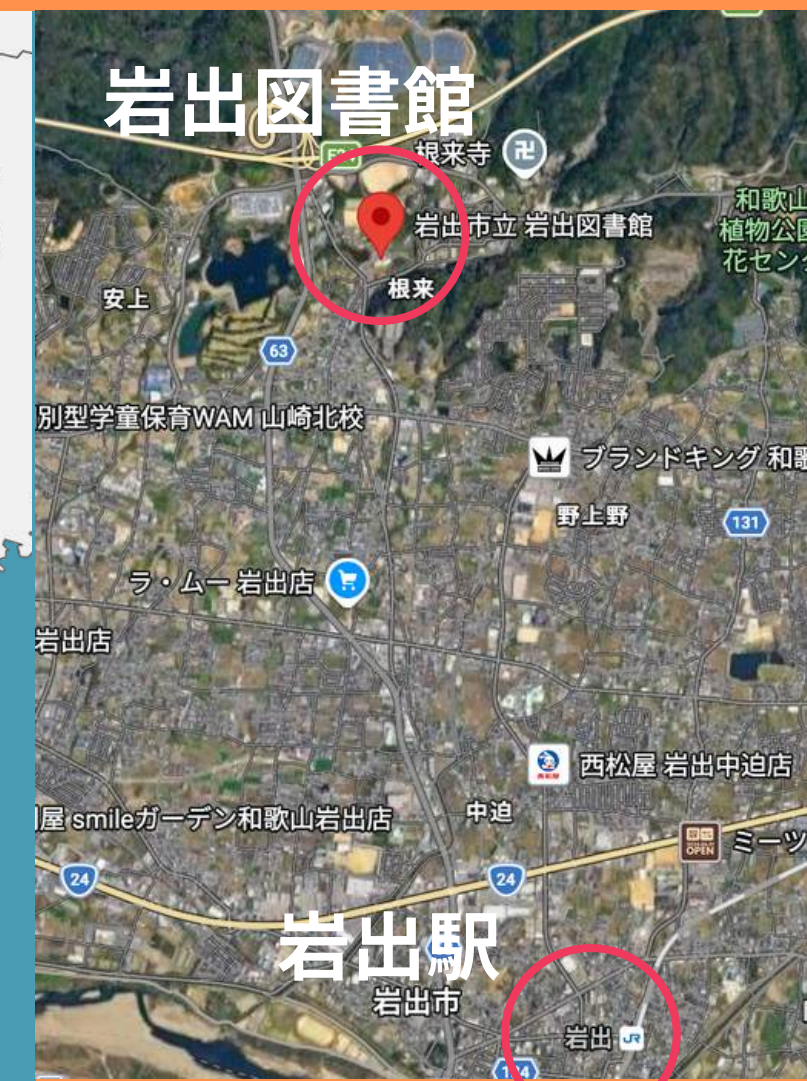
# 岩出市・図書館の概要

# 岩出市

- 人口：53,696人（令和8年度1月末時点）
- 特徴：家族増加傾向のベッドタウン

## 岩出市立岩出図書館

- 蔵書数：約38万冊（市立図書館平均：約13万冊）
- 来館者数：約13.7万人
- アクセス：本館までは岩出駅から車で約17分  
（分館の駅前ライブラリーは徒歩1分）
- 公民館に分室が数個あり



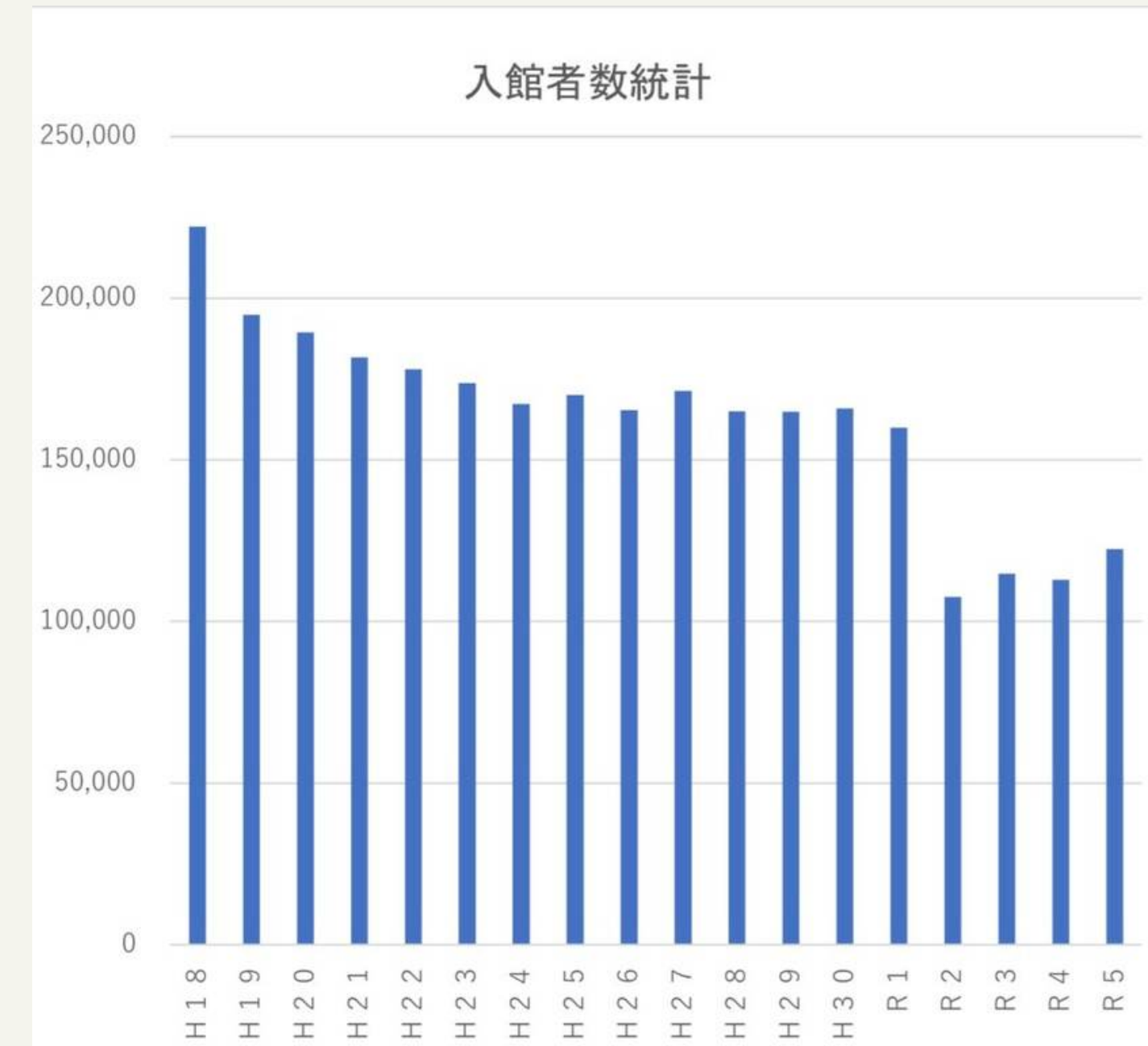
# 課題と背景

## 岩出図書館の現状の課題

- コロナ禍後の利用者数の減少(特に潜在的利用者層)
- 若者を中心にそもそも図書館を利用しない人も多数存在
- 図書館の本はあらすじがないものが多い

### 背景：

- 立地の面から、子供達だけで来館するのが困難
- 若者の本離れが加速している
- 中高生は部活で忙しい
- ハードカバーの本はあらすじがない



# 現地活動

## 第一回現地活動

- 図書館施設の見学  
本館はもちろん、立地の良い駅前ライブラリーも見学
- キャリアカフェの実施  
地域の学生に向け、自らの受験経験を講演  
来年度以降も継続して実施予定



キャリアカフェの様子

## 第一回現地活動

- ・ 根来寺、一乗閣などの地域の史跡を訪問



根来寺



根来の子守唄の石碑

## 第二回現地活動

- ・若者向けのイベントとして謎解きゲームを実施

スタートコース(初心者向け)

→参加者129名、応募81名、正解者71名

チャレンジコース(上級者向け)

→参加者96名、応募41名、正解者28名

若者を中心に多くの方に参加していただいた。

再開催を望む声も聞かれ、継続開催への足がかりとなった。



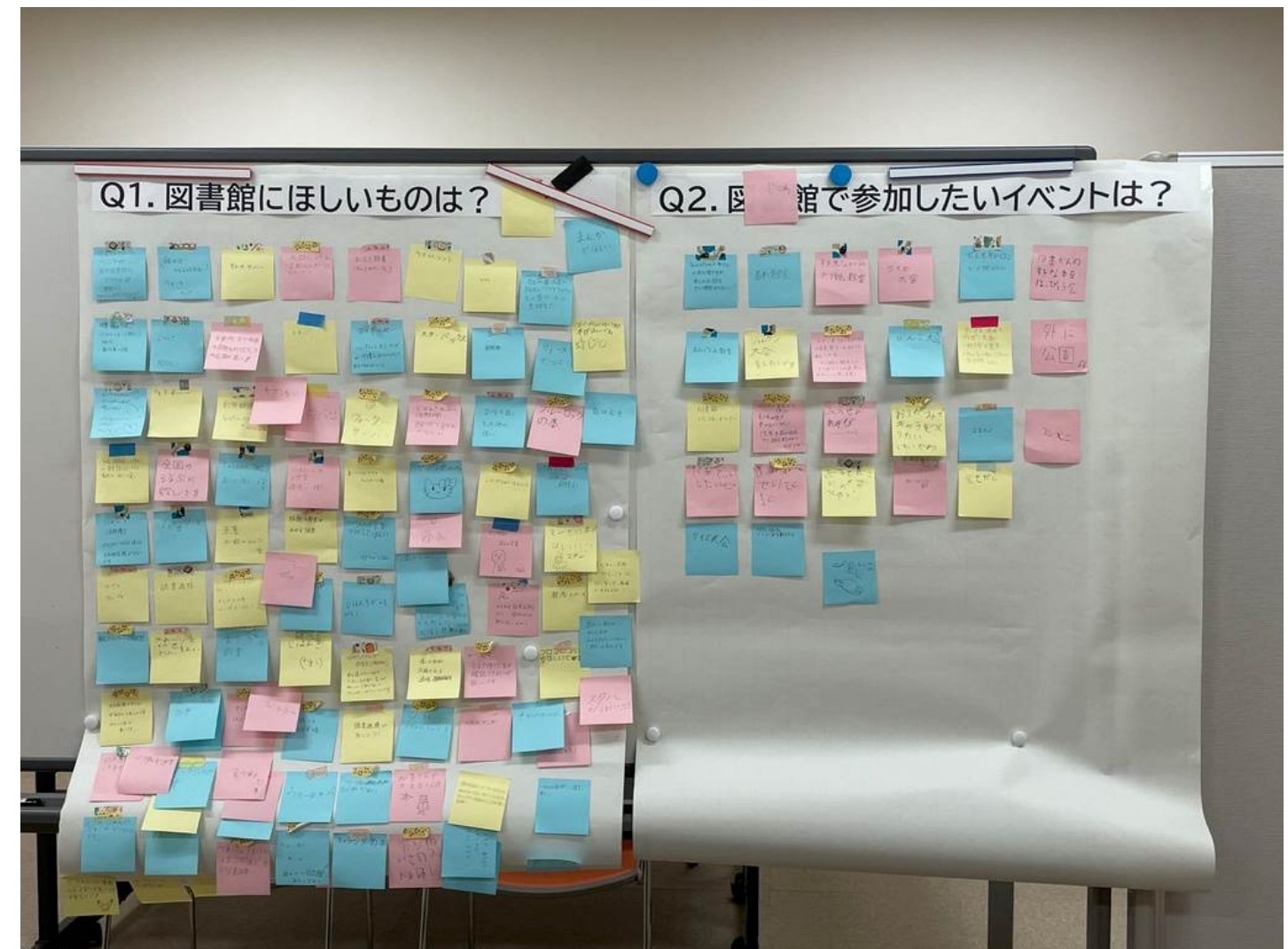
謎解きの様子

## 第二回現地活動

- ・ 図書館の司書の方々との意見交換
- ・ 学生との交流(相談会)
- ・ 目安箱の設置

主に既存の利用者の視点を取り入れることを目的として、図書館への意見を募るとともに、司書さんとの意見交換を通じて自治体側の要望も再確認した。

加えて、キャリアカフェに引き続き、中高生を対象とする相談会も行った。



目安箱でいただいた意見

# 施策の提案

# 潜在的利用者向け

提案	効果	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"><li>駅前ライブラリーのライトノベルを漫画に</li><li>自習室の拡充</li><li>若者向けイベントの定期開催 (謎解きイベントなど)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ライトノベルは中高年が読む傾向があるが、若年層向けに漫画を増やすことで若年層を取り込む。</li><li>図書館を勉強の場として使う傾向にある中高生の来館機会を増やす。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>保留</li><li>前向きに検討中</li><li>問題の作成が課題、継続的な実施に向け前向きに準備中</li></ul>

# 既存利用者向け

提案	効果	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"><li>• Wi-Fiの導入+QRコードを用いた本の紹介</li><li>• 借りた本の履歴を確認できるシステム（読書通帳など）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• QRコードにより本のジャンルやあらすじを一瞬で知ることができ、本を選ぶことが容易になる。</li><li>• この一ヶ月で自分が何冊の本を読んだかなどが数字として明確となり、その達成感が読書習慣の定着につながる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Wi-Fiについて、令和8年度予算に計上済、QRコードの案についても試験的に実施済み</li><li>• Wifi実装後、マイ本棚の機能を周知して対応する予定</li></ul>

## 本の帯に変わるQRコード案の試験的实施



# 今後の展望

# 今後の展望

---

- 岩出図書館の利用者数は自治体側の努力もあって、年々回復傾向にある。重要なのは、その傾向を持続的なものにできるかどうかである。
- 今回のイベントでは一定の成果も見られたが、人手不足の中でFS生が抜けた後も同様のイベントを定期的に行うことができるような環境整備が必要である。

# 活動を通じて

# 活動を通じて

---

- このプログラムを通じて、まず、自治体さんの熱量に驚かされた。この図書館をより良くしたい、もっと多くの市民の皆さんに使ってほしいという熱意をひしひしと感じ、その相乗効果も相俟って、色々なアイデアを生み出すことができた。
- 自治体の方々には普段の業務もあり、お忙しい中でイベント開催へのご協力やたくさんのおもてなしをしていただいた。この場をお借りして感謝を申し上げたい。

ご清聴ありがとうございました！

# 和歌山県那智勝浦町色川地区

東大FS - 発表報告

# 目次

1. 活動報告
    - a. 第一回活動
    - b. 第二回活動
  2. 課題の整理と特定
  3. 提案:色川地区×都市を巻き込んだ獣対策
-

# 活動報告

# 第1回:2025年8月9日～8月12日

## ■ 事前準備

- チーム内で複数回の打ち合わせ
- 調査方法の検討(定量→定性重視へ変更)
- 自治体とオンラインで日程・内容調整
- 住民(移住者中心)紹介の依頼

## ■ 現地で行ったこと

- 地域歓迎会への参加
- 移住者4名へのヒアリング
- 鹿狩り・解体の見学
- お寺の施餓鬼法要への参加

## ■ 現地後の整理

- ヒアリング内容の共有・分析
- 「関係人口」を今後の課題として設定
- 次回調査計画の立案



# 第2回:2025年12月5日~12月7日

## ■ 事前準備

- 自治体担当者とヒアリング調整
- 第一回活動の振り返り
- 世代間・男女間の役割差に着目
- 「誰がどのように地域に関わるか」

## ■ 現地で行ったこと

- 地元出身住民へのヒアリング  
→ 地域変遷・移住受け入れ調査
- 移住者農家家族へのヒアリング(餅つき体験)  
→ 移住後の現実・地域との協働の実態を把握
- 女性視点でのヒアリング  
(鹿皮クラフト体験)  
→ 女性の主体性・生活基盤構築の実態



# 課題の整理と特定

# 色川地域における課題の整理と特定

## 目指す地域の姿

移住者＋先住者双方を巻き込んだ  
地域コミュニティ

経済的価値を生む「稼ぐ力」

自然と共存する持続的な暮らし

色川らしさ、価値

## 現状の課題

コミュニティの担い手不足・負担  
集中

農業収益の不安定化

自然との関係が「共存」から「対  
立」へ

## 今回取り組むポイント

鹿・猪・猿による獣害が

- 農作物被害
- 労力増大
- 収入減少
- 担い手疲弊

背景にはコミュニティ機能低下

# 提案：色川地区×都市を巻き込んだ 獣対策

# 提案の全体概要

---

地域の持続性が「限界」を迎えている。

農家を苦しめる「獣害」をピンチからチャンスへ。

DAOの仕組みを用い、都市部のリソースを流し込む「循環システム」を提案する。

# 課されたテーマとマクロ課題

---

テーマ:「色川の魅力を再発見し、持続可能性を考える」

しかし、現実には厳しい。

## 関係人口の減少

観光客は一過性。地域運営に深くコミットする層が育たない。

## ブランド化不足

豊かな資源があるのに換金できず、町にリソースが落ちない。

# ターゲット農家の現状と苦悩



## 30-60代 移住・有機農家

「環境に良い暮らし・自給自足」を志して移住。

### 日々の苦悩

「杉林減少に伴い、猿や猪の獣害が激増。」

「せっかく作った作物が荒らされ、自給自足もままならない。防ぐ資金も時間もない。」

# なぜ「林業」ではなく「獣害」か

---

## ▲林業アプローチの限界

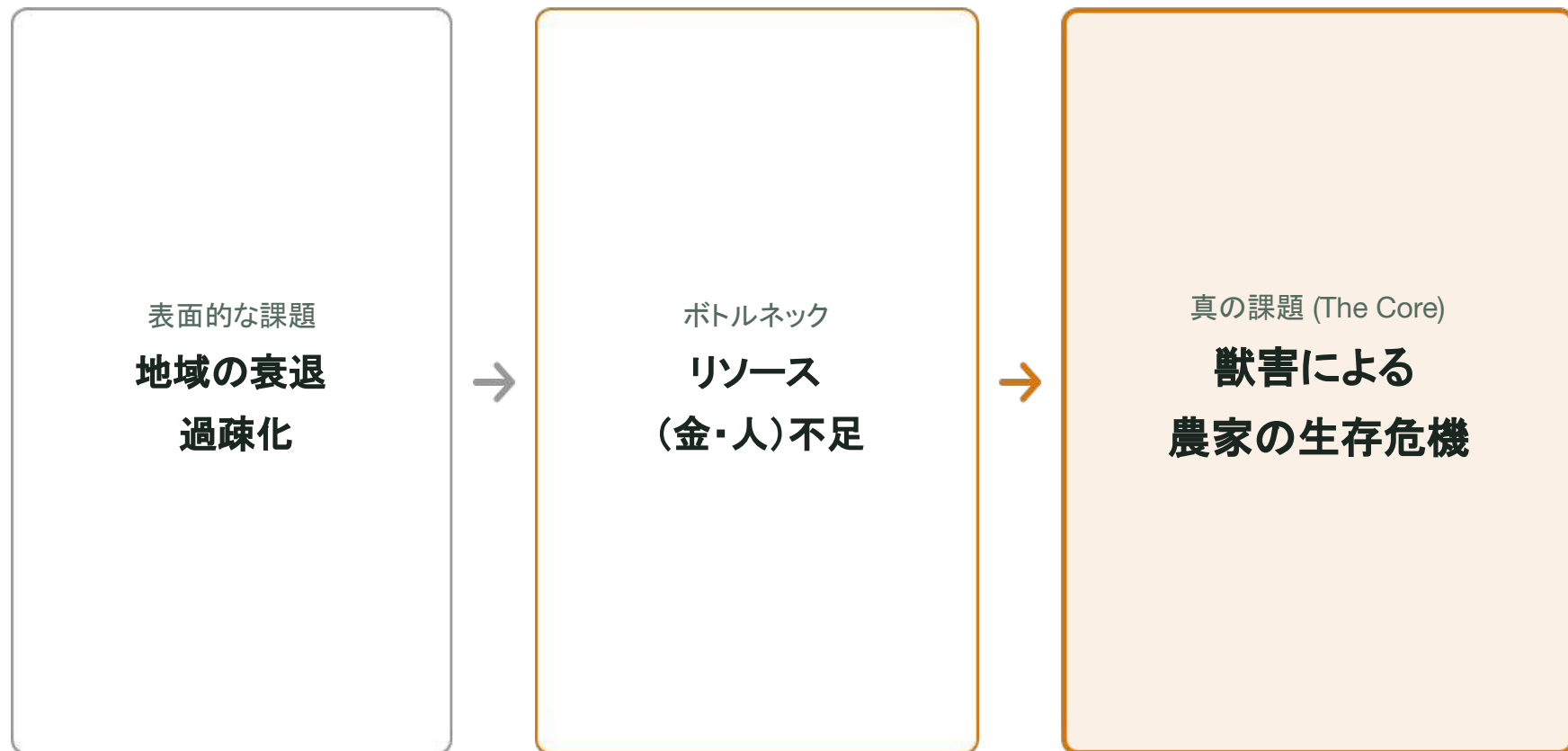
- **急峻な地形**: 重機が入らず道作りが困難。
- **価格低迷**: 苦勞して搬出しても二束三文。
- **コスト拡大**: 対処に莫大な初期投資が必要で、個人や学生レベルでは介入不可能。

## 🐾獣害アプローチの勝機

根本の林業課題はいったん置き、目の前の「獣害」にフォーカスする。

肉や皮を商品化することで、  
「損失(コスト)」を「利益」へ反転させやすい。

# 課題の構造化 (Issue Tree)



# 解決策

---

農家が抱えきれない資金調達と対策を、  
都市部の DAO が丸ごと代替する。



## 農家 (LOCAL)

本来の「生産」と「捕獲」に専念。



## DAO (CITY)

獲物を換金し、  
防護柵の資金と労働力を提供。

# そもそもDAOとは？

## 自律分散型組織

社長がいない、「共感」と「ルール」で動く組合。

- 資金と労働力を一箇所にプールする。
- 「どの畑に柵を立てるか」を透明な投票で決定。
- 貢献度に応じてリワード(報酬)が分配される。



# 相互のインセンティブ設計

自己犠牲のボランティアではなく、互いに利点がある構造。

役割	提供するもの (Give)	得るもの (Get / Incentive)
現地農家	捕獲個体、現場の課題提供、体験の場	獣害の減少、対策費ゼロ化、本業への集中
DAOメンバー (都市部の若者)	資金、防護柵設置の労働力、SNS発信力	ジビエ・鹿皮製品、宿泊権、社会貢献のやりがい

# DAOによる地域創生の先行事例

---

## 既に日本で動き出しているモデル

### 山古志DAO (新潟)

デジタル村民 800人超

限界集落が「錦鯉NFT」を発行。物理的な居住を超えたコミュニティを獲得し、予算用途を投票で決定。

### 松崎町DAO (静岡)

ふるさと納税 × DAO

返礼品としてDAO参加権を提供。電子地域通貨と連携し「関係人口」を強力に創出。

# 参入フェーズ (Roadmap)

## Phase 1

### DAOメンバー獲得

- 第一歩として五月祭に出店
- 課題の認知拡大
- Discordコミュニティ構築

## Phase 2

### 色川ブランド発信

- DAO主体での発信開始
- 鹿皮のなめし、皮製品展開
- ジビエ(鹿肉・猪肉)の販売

## Phase 3

### 資金の還流

- 得た資金を「獣害対策」へ
- 防護柵のインフラ整備
- 新たなブランド創出へ再投資

# 第一歩: 五月祭での展開 (Phase 1)

---

## 目的: 売上 < 初期DAOメンバー獲得

### ☞アクションプラン

- **ジビエ商品の提供:** 「食べることで農地が守られる」意義を伝える。
- **鹿皮製品の展示:** 廃棄される命を価値に変えるプロセスの提示。
- **コミュニティ誘導:** 購入者にQRを配布し、DAO(Discord)へ招待する。

# Appendix 1: 棚田オーナー制度

---

## 「所有」と「ブランド」によるパトロンモデル

### 対象: 富裕層・企業 (To B)

単なる商品購入を超え、特定区画の「棚田のパトロン」となる機会を提供。

### 仕組みとリターン

- 年会費に「棚田保全・獣害対策費用」を含む。
- 生産は現地農家に委託し、高品質な**独自ブランド米**を取得。

## Appendix 2: さとやまステイ

---

### 都市の渴望を満たすプレミアム農観光

都市部での試食体験から興味を持った層へ、  
現地での特別な体験を提供し、深い関係人口へ繋げる。

- **農作業体験:** 田植えや草取りの手作業を体験。
- **食・住環境:** 薪で炊くご飯などSeed-to-Tableの食事と、古民家での滞在。
- **目的:** 消費者から「DAOメンバー」への移行装置として機能させる。

# Appendix 3: 運営・インフラ疲弊の詳細

---

## 1. 物理的インフラの崩壊

- **生活道・農道の維持不能:**

コンクリート補修や猛烈な草刈りを担う現役世代が不足。道が通れず田畑が放棄される。

- **空き家の「負債」化:**

管理されない家が獣の住処となり、景観悪化と新規移住者の意欲を削ぐ。

## 2. コミュニティ機能マヒ

- **役職の固定化と疲弊:**

一人で複数役職を兼務。会議と事務作業で本業(農業等)に支障。

- **「守り」の思考停止:**

現状維持で手一杯になり、新たな収益源を作る「攻め」にリソースを割けない。



# 東大FS——鳥取県北栄町 ～報告資料～

FS鳥取県北栄町于一ム

稲葉佑太 植村真乃 小野川雅彩 李晶晶

# 目次

---

- 北栄町基本情報
- 課題
- 活動内容
- 知見
- 提案
- 学び



# 鳥取県の真ん中、ほどよいサイズの北栄町

## ● 鳥取県の東西の中心

鳥取市・米子市から1時間圏  
人口4万人の倉吉市に隣接  
鳥取空港から連絡バスがある

## ● 人口 13,984人

(2025年7月1日時点)

## ● 面積 約57km<sup>2</sup>

耕地率 県内1位

可住地面積割合 県内4位



# 農業と観光のまち 北栄町



## 農業のまち「北栄町」

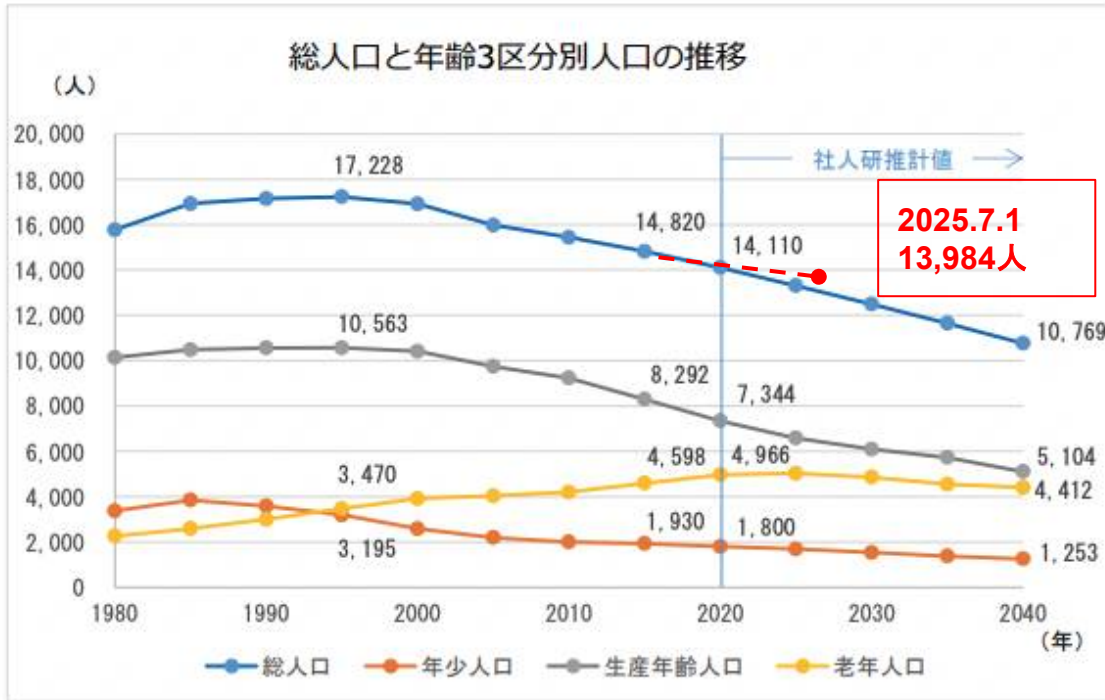
- 生産額 約90億円
- 大栄西瓜、ねばりっこなど、オンリーワンの農作物



## 観光のまち「北栄町」

- 国内外から毎年23万人以上のファンが訪れる「名探偵コナンに会える町」
- 20代・30代女性がコア層、リピーターが多い

# 人口減少と少子高齢化



【～2015年国勢調査、2020年～社人研推計】

## 〈人口減少の影響〉

- 生活関連サービス（小売・飲食・医療機関等）の縮小
- 公共交通の撤退・縮小
- 空き家、空き店舗、耕作放棄地等の増加
- 地域コミュニティの機能低下

# 観光が「コナンで完結」し、地域との接点が増えにくい

多くの来町者は「コナン目的」で来訪し、ふるさと館周辺で完結して帰りやすい



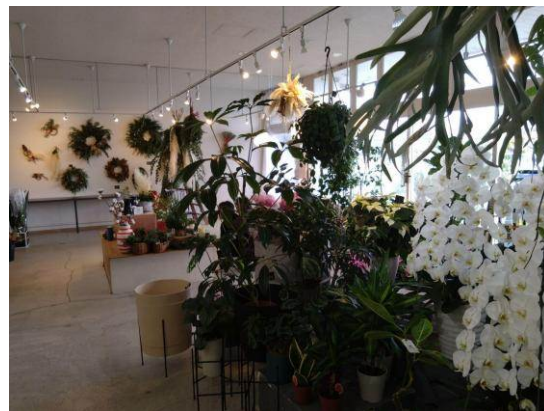
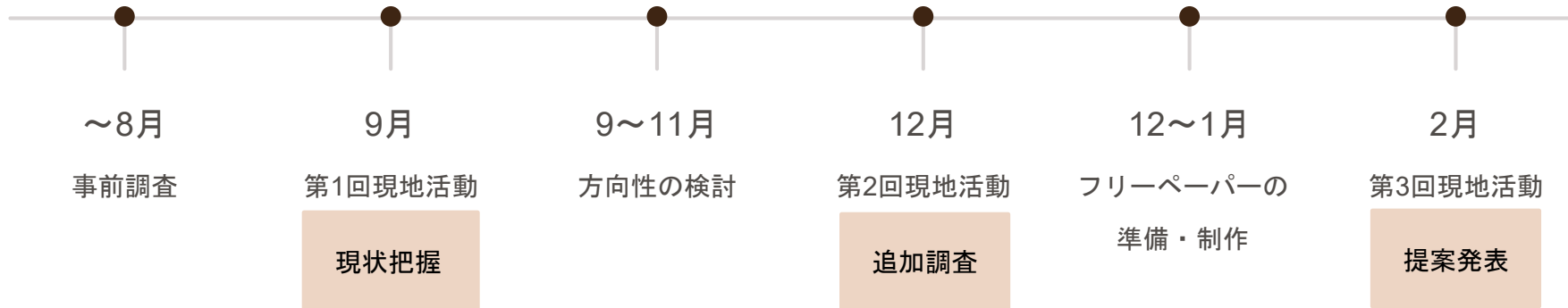
青山剛昌ふるさと館

- 町内の他の観光資源（飲食・体験・人など）の情報が事前に届きにくい
- 来町後に知っても、時間・交通の制約で当日のルートに追加しづらい
- 「次にどこへ行くか」がその場で分かる導線が不足し、地域の魅力が伝わりにくい

## 課題：

地域との接点につながりにくく、  
観光客から関係人口へ移行しにくい

# 活動内容



# 第1回現地活動



ドクダミ栽培事業所訪問



岡本副町長と懇談



交流会



鳥取県庁にて意見交換

## ミッション

関係者との対話を通じて北栄町の魅力と課題を整理し、関係人口拡大に向けた施策の方向性を定める。

## 第2回現地活動



レークサイド大栄視察



ふるさと館館長と懇談



観光客へのインタビュー調査



汽水空港視察（湯梨浜町）

### ミッション

北栄町や周辺地域での追加の調査・意見交換を通じて、漠然とした「フリーペーパー制作」のアイデアの詳細を詰める。

## 第3回現地活動



### 現地報告会

- ・ 北栄町図書館の一角で実施
- ・ 現地活動で知り合った方と、告知を見て来ていただいた方、あわせて10人ほど
- ・ 前半30分で発表、後半30分で意見交換



ゲストハウスDIYのお手伝い



恒例の交流会

# 私たちが発見する北栄町の魅力...



外国人観光客との交流



自然や環境に対する意識



移住してくる若い力



地域のさまざまな人のつながり



新たなチャレンジを始める人も

# 人口減少の中での持続と発展

## 現状

- 人口減少・高齢化が進行。地域の活性化や、移住／二地域居住につながる接点不足が課題。
- 観光が「コナン目的」で完結しやすく、回遊・再訪・関係の深化が生まれにくい。

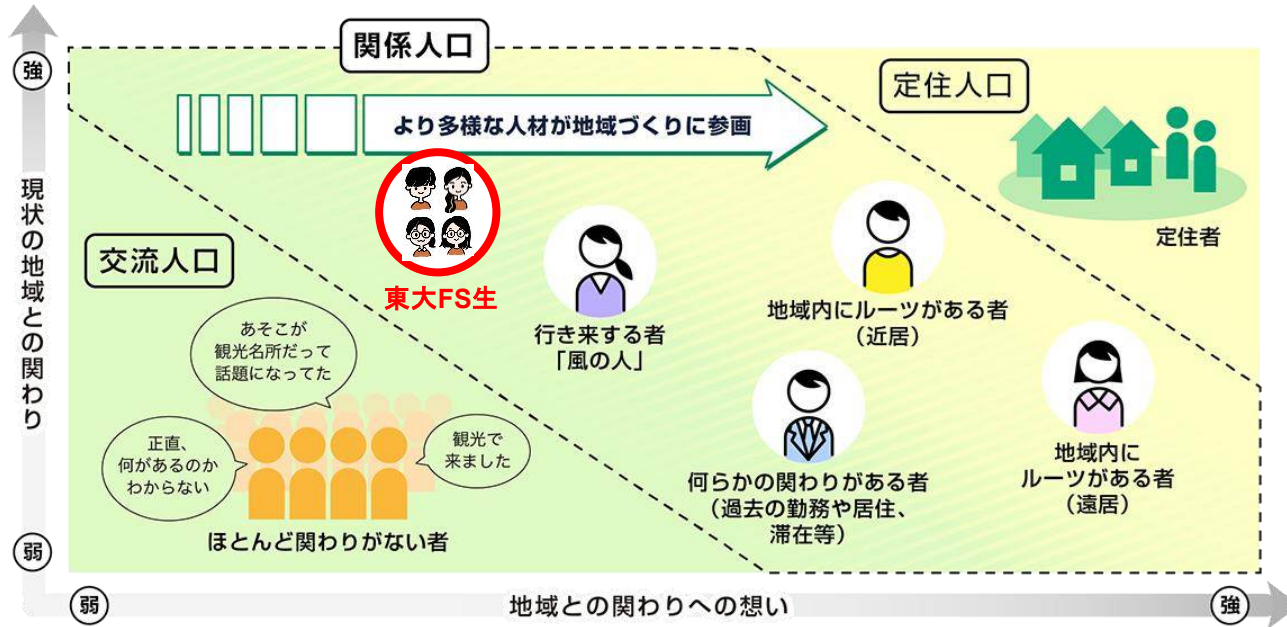
## 方針

「0→1」ではなく、「1→2→3」と、つながりを厚くすることに注力。

- 観光を入口に、地域との継続的な接点を増やし、北栄町の「関係人口」を増やす  
(移住・定住や二地域居住への導線としても、関係人口それ自体としても重要)

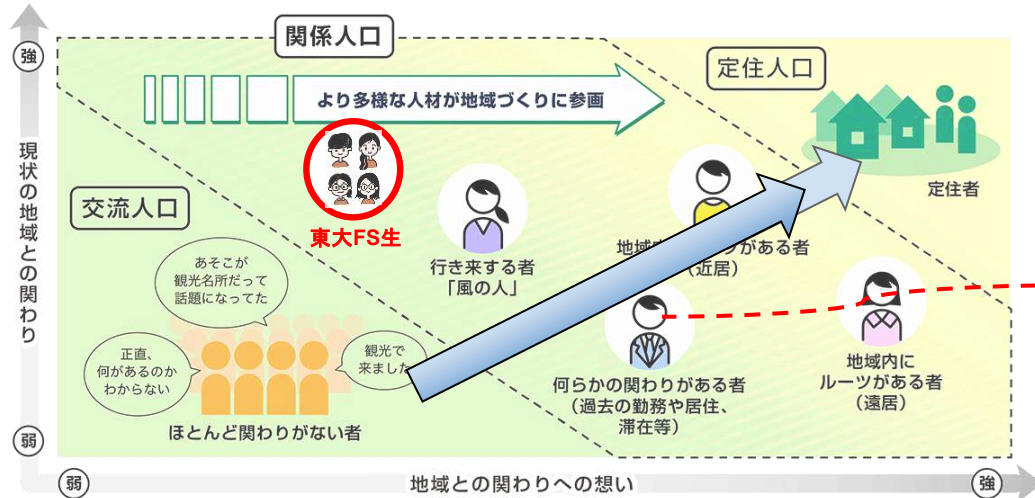
# 私たちの提案：関係人口を拡大するために

関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、  
地域と多様に関わる人々 (総務省 二地域居住・関係人口ポータルサイトにおける説明)



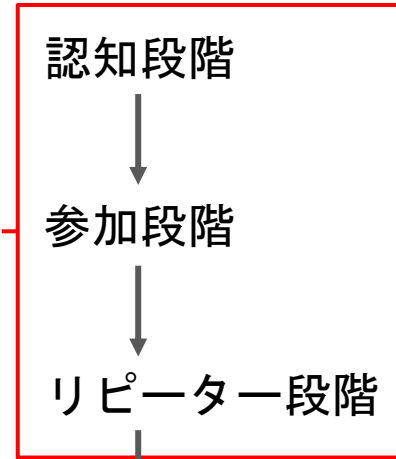
- 東大FS生も、この「関係人口」の一形態といえる
- 関係人口が定住人口になる場合もあるが、必ずしもその前段階というわけではない
- ふるさと館に1回訪れただけの観光客は「交流人口」であり、関係人口ではない

# 私たちの提案：関係人口を拡大するために



出典：総務省「二地域居住・関係人口ポータルサイト」に加筆

交流人口から関係人口へ・・・



接点を作る

フリーペーパーやSNSなど

コミュニティの一員になる段階

(関係人口、二地域居住、移住など)

# フリーペーパー企画

地域で生きる人の声で、ライト層の「関わりの入口」をつくる。

## 主ターゲット

- ・ 関西・中国地方からの来訪者(車移動)
- ・ 日帰り～1泊の家族連れ・カップル・夫婦
- ・ 旅先で「人」「暮らし」「地域の空気感」に惹かれるライト層

## 副ターゲット

- ・ 北栄町の住民・移住者・二地域居住者
- ・ 地域で活動する人・事業者
- ・ 地域の取り組みや関係人口に関心のある層

## コンセプト

観光で終わりがちなライト層に、地域で生きる人の等身大の声を通して「関わりの入口」を届け、北栄町への関心と継続的な接点を生み出す。

隣の琴浦町への視察から  
着想を得ました！→

「超ポジティブな街づくりフリーペーパー」  
HAZZY STAR MAGAZINE



# フリーペーパー企画

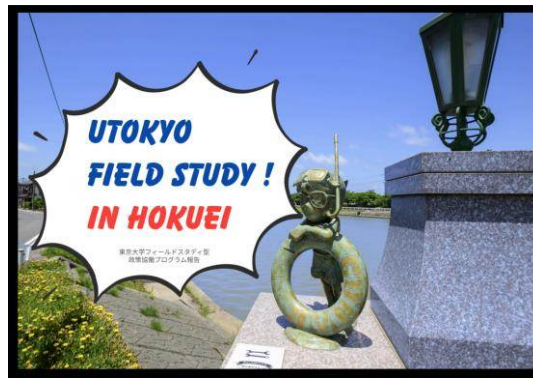
1 表紙(P1)

2 東大FS・北栄町紹介(P2-P3)

3 人物記事(P4-P5)

4 寄稿記事(P6-P7)

5 今後の展望・提案(P8)



町在住の本業の編集者の方（Uターン者）と共同で制作しました！

FS学生4人からみた北栄町の紹介。北栄町で感じたことなどを自由に執筆し、生活の妄想や学問的な話題との接続など、硬くしない構成に。

現地活動で知り合った移住者にインタビューを実施し、生活や仕事など、暮らすにあたって気になることや北栄町への思いなどを盛り込む。

地域で動いている方3名に寄稿を依頼。写真も多く用いながら、北栄町の人や場所の魅力を多面的・多角的に見せる。

北栄町の理想像や町への提案を学生4人が少しずつ提示。お堅い報告書風にはせず、裏表紙に載せることで読者の目にも留まりやすい。

# フリーペーパー企画

Interview

## 好きが、暮らしになった。

コナンファンが高じて、北栄町に移住した高友名さんに北栄町や移住に関してインタビューを行いました。コナンファンの方、北栄町に移住したいと考えている方のためになると幸いです！

—コナンファンというのですが、ファン歴はどれくらいですか？

もう出会いは覚えていないのですが、それくらい小さい頃からアニメを見ていました。高一の頃にちょうど映画が20作目でそれをコナン好きの友達と見たことをキッカケにどハマりしました。

—高友名さん、移住のきっかけは？

「移住したい」という思いがずっとあったんです。でも、どこかに行きたいという思いがずっとあったんです。でも、どこかに行きたいという思いがずっとあったんです。でも、どこかに行きたいという思いがずっとあったんです。

—移住後の生活は？

移住後は、移住後の生活は？




## 手間ひまかけて育む、日常と未来。

寺村由美さん | 株式会社 K&S Kages






私の人生は、由良宿で始まり由良宿で終わる。

藤原健爾さん | 藤原博一建築



FIELDWORK REPORT

## 東大生が見た、北栄町の可能性

若者向け拠点と滞在型リゾート

空き家を「公共リビング」化




由良駅前の空き地活用

自然を生かした取り組み




編集後記

本誌は、東京大学フィールドスタディの成果として制作したフリーペーパーです。

# フリーペーパー企画

## 配布・広報の方法

- 現地報告会にて配布を開始。今後はふるさと館をはじめとして、町内各所に設置予定。
- 学内報告会に持ち込んで配布する以外、東京や大阪など遠方での設置・配布は行わない方針。  
→実際に町に来た人に手に取ってもらい、土地の空気と一緒に人の魅力を感じてもらうため。
- 町の公式Xアカウントなどで告知し、全国のコナンファンにフリーペーパーの存在を知ってもらう。

## 今後の展開

- **FS終了後も**、観光客と北栄町の接点をつくれるようなフリーペーパーを発行する予定。  
(若者向けの移住定住ガイドブックを制作予定で、その関連として進められるとのこと)
- FSで制作した今回のフリーペーパーは、そのパイロット版(試作)の役割。
- 町内・周辺地域のお店や事業者の**広告掲載**によって運営していく方針。



**ご清聴ありがとうございました！**



# 東大FS——鳥取県北栄町

## ～報告資料～

FS鳥取県北栄町于一ム

稲葉佑太 植村真乃 小野川雅彩 李晶晶

# 目次

---

- 北栄町基本情報
- 課題
- 活動内容
- 知見
- 提案
- 学び



# 鳥取県の真ん中、ほどよいサイズの北栄町

## ● 鳥取県の東西の中心

鳥取市・米子市から1時間圏  
人口4万人の倉吉市に隣接  
鳥取空港から連絡バスがある

## ● 人口 13,984人

(2025年7月1日時点)

## ● 面積 約57km<sup>2</sup>

耕地率 県内1位

可住地面積割合 県内4位



# 農業と観光のまち 北栄町



## 農業のまち「北栄町」

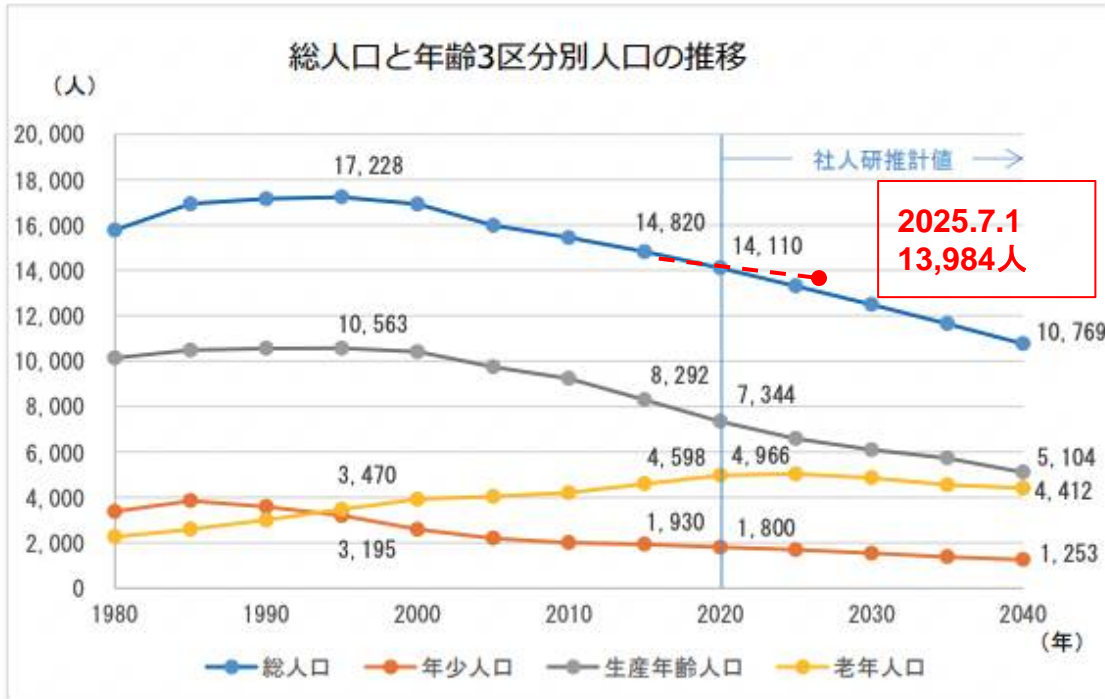
- 生産額 約90億円
- 大栄西瓜、ねばりっこなど、オンラインの農作物



## 観光のまち「北栄町」

- 国内外から毎年23万人以上のファンが訪れる「名探偵コナンに会えるまち」
- 20代・30代女性がコア層、リピーターが多い

# 人口減少と少子高齢化



【～2015年国勢調査、2020年～社人研推計】

## 〈人口減少の影響〉

- 生活関連サービス（小売・飲食・医療機関等）の縮小
- 公共交通の撤退・縮小
- 空き家、空き店舗、耕作放棄地等の増加
- 地域コミュニティの機能低下

# 観光が「コナンで完結」し、地域との接点が増えにくい

多くの来町者は「コナン目的」で来訪し、青山剛昌ふるさと館周辺で完結して帰りやすい



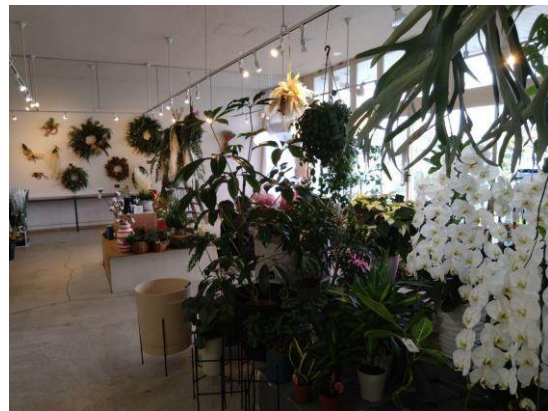
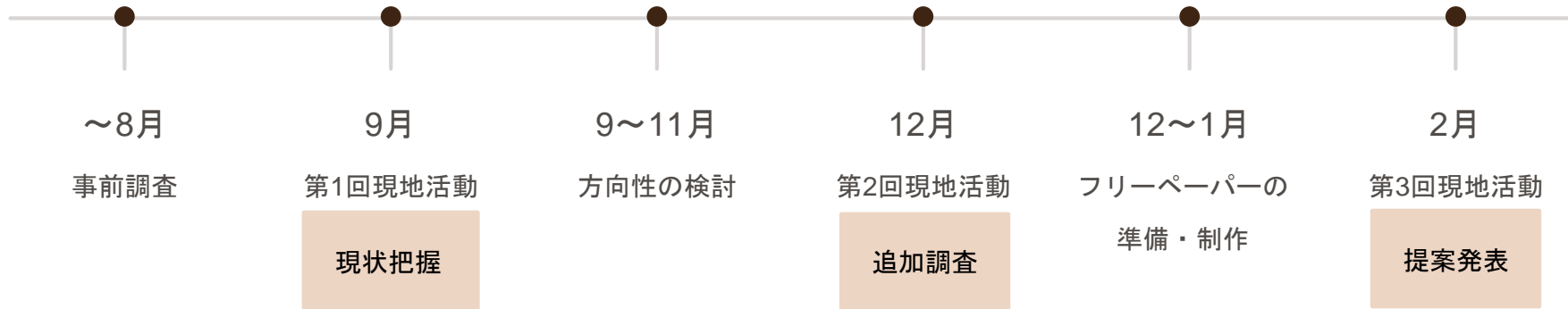
青山剛昌ふるさと館

- 町内の他の観光資源（飲食・体験・人など）の情報が事前に届きにくい
- 来町後に知っても、時間・交通の制約で当日のルートに追加しづらい
- 「次にどこへ行くか」がその場で分かる導線が不足し、地域の魅力が伝わりにくい

## 課題：

地域との接点につながりにくく、  
観光客から関係人口へ移行しにくい

# 活動内容



# 第1回現地活動



ドクダミ栽培事業所訪問



岡本副町長と懇談



交流会



鳥取県庁にて意見交換

## ミッション

関係者との対話を通じて北栄町の魅力と課題を整理し、関係人口拡大に向けた施策の方向性を定める。

## 第2回現地活動



レークサイド大栄視察



ふるさと館館長と懇談



観光客へのインタビュー調査



汽水空港視察（湯梨浜町）

### ミッション

北栄町や周辺地域での追加の調査・意見交換を通じて、漠然とした「フリーペーパー制作」のアイデアの詳細を詰める。

# 第3回現地活動



## 現地報告会

- ・ 北栄町図書館の一角で実施
- ・ 現地活動で知り合った方と、告知を見て来ていただいた方、あわせて10人ほど
- ・ 前半30分で発表、後半30分で意見交換



ゲストハウスDIYのお手伝い



恒例の交流会

# 私たちが発見する北栄町の魅力...



外国人観光客との交流



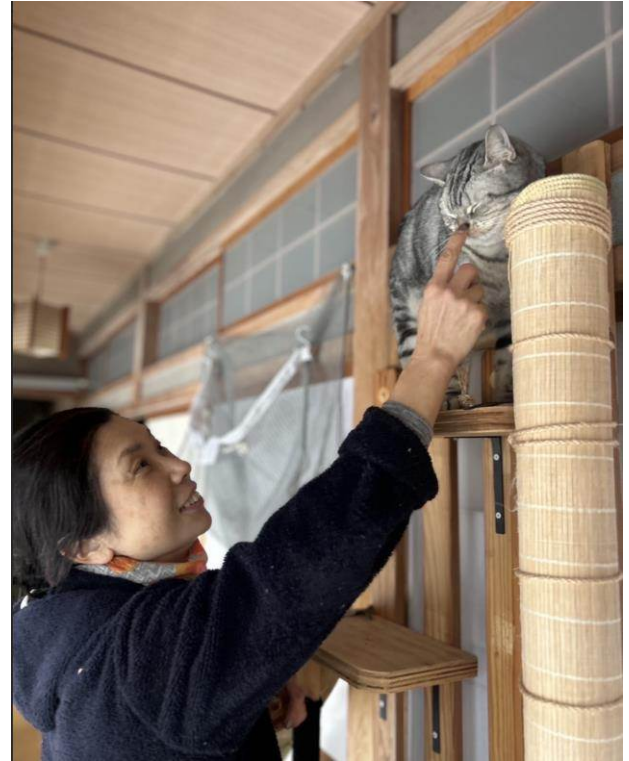
自然や環境に対する意識



移住してくる若い力



地域のさまざまな人のつながり



新たなチャレンジを始める人も

# 人口減少の中での持続と発展

## 現状

- 人口減少・高齢化が進行。地域の活性化や、移住／二地域居住につながる接点不足が課題。
- 観光が「コナン目的」で完結しやすく、回遊・再訪・関係の深化が生まれにくい。

## 方針

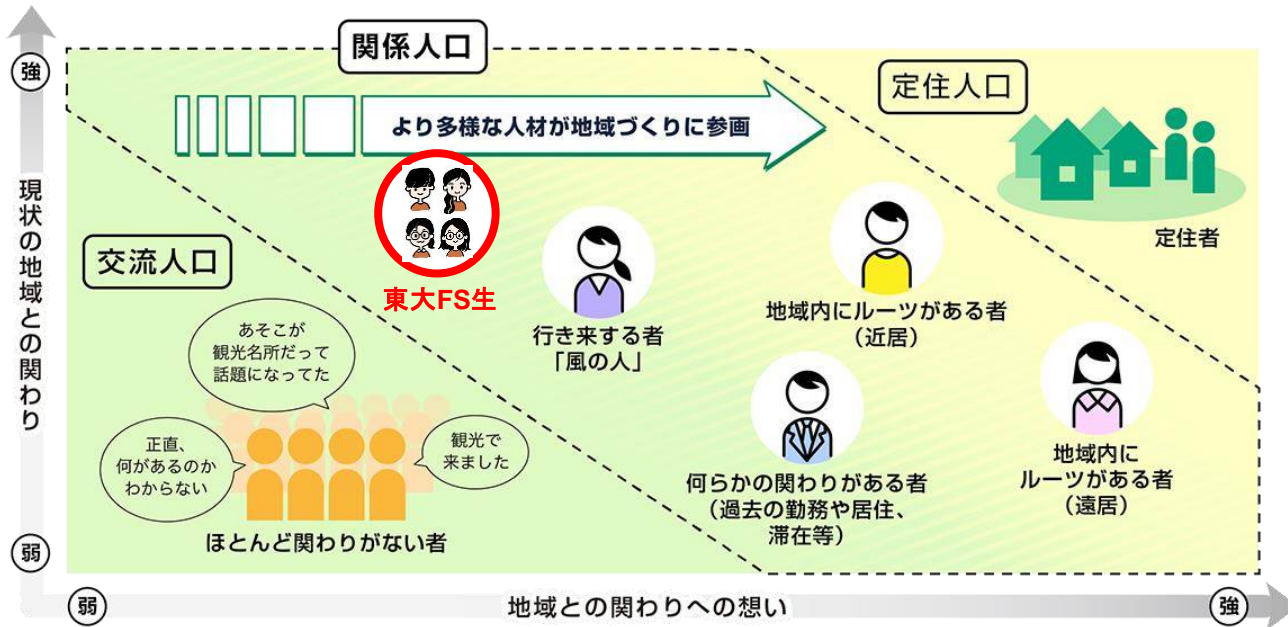
「0→1」ではなく、「1→2→3」と、つながりを厚くすることに注力。

→ 観光を入口に、地域との継続的な接点を増やし、北栄町の「関係人口」を増やす

（移住・定住や二地域居住への導線としても、関係人口それ自体としても重要）

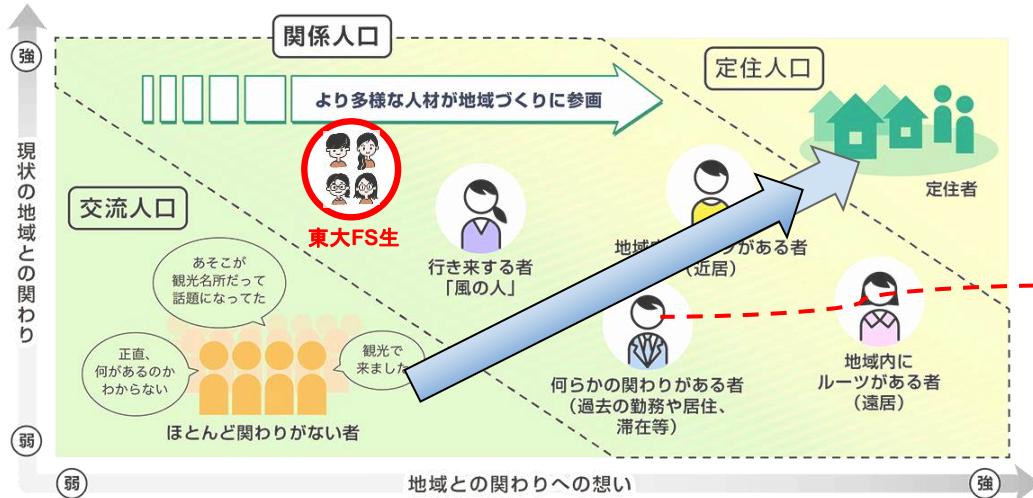
# 私たちの提案：関係人口を拡大するために

関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、  
地域と多様に関わる人々 (総務省 二地域居住・関係人口ポータルサイトにおける説明)

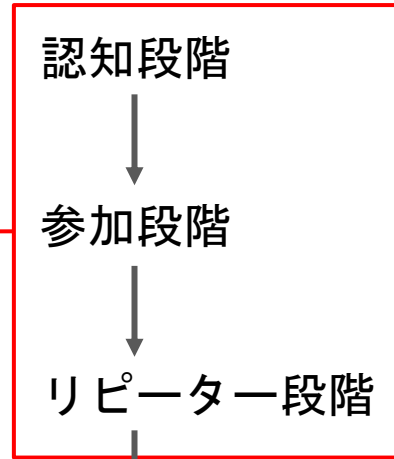


- 東大FS生も、この「関係人口」の一形態といえる
- 関係人口が定住人口になる場合もあるが、必ずしもその前段階というわけではない
- ふるさと館に1回訪れただけの観光客は「交流人口」であり、関係人口ではない

# 私たちの提案：関係人口を拡大するために



出典：総務省「二地域居住・関係人口ポータルサイト」に加筆



接点を作る

フリーペーパーやSNSなど

コミュニティの一員になる段階

(関係人口、二地域居住、移住など)

交流人口から関係人口へ・・・

# フリーペーパー企画

地域で生きる人の声で、ライト層の「関わりの入口」をつくる。

## 主ターゲット

- ・ 関西・中国地方からの来訪者(車移動)
- ・ 日帰り~1泊の家族連れ・カップル・夫婦
- ・ 旅先で「人」「暮らし」「地域の空気感」に惹かれるライト層

## 副ターゲット

- ・ 北栄町の住民・移住者・二地域居住者
- ・ 地域で活動する人・事業者
- ・ 地域の取り組みや関係人口に関心のある層

## コンセプト

観光で終わりがちなライト層に、地域で生きる人の等身大の声を通して「関わりの入口」を届け、北栄町への関心と継続的な接点を生み出す。

隣の琴浦町への視察から  
着想を得ました！→

「超ポジティブな街づくりフリーペーパー」  
HAZZY STAR MAGAZINE



# フリーペーパー企画

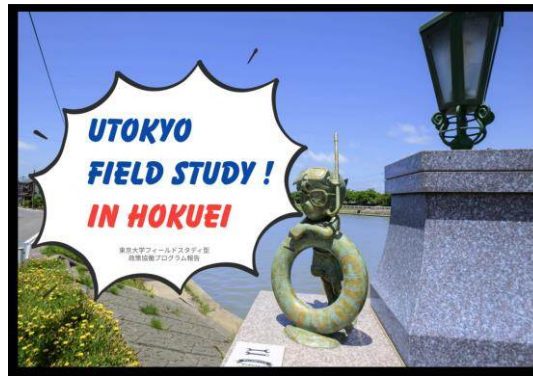
1 表紙(P1)

2 東大FS・北栄町紹介(P2-P3)

3 人物記事(P4-P5)

4 寄稿記事(P6-P7)

5 今後の展望・提案(P8)



町在住の本業の編集者の方（Uターン者）と共同で制作しました！

FS学生4人からみた北栄町の紹介。北栄町で感じたことなどを自由に執筆し、生活の妄想や学問的な話題との接続など、硬くしない構成に。

現地活動で知り合った移住者にインタビューを実施し、生活や仕事など、暮らすにあたって気になることや北栄町への思いなどを盛り込む。

地域で動いている方3名に寄稿を依頼。写真も多く用いながら、北栄町の人や場所の魅力を多面的・多角的に見せる。

北栄町の理想像や町への提案を学生4人が少しずつ提示。お堅い報告書風にはせず、裏表紙に載せることで読者の目にも留まりやすい。



# フリーペーパー企画

## 配布・広報の方法

- 現地報告会にて配布を開始。今後はふるさと館をはじめとして、町内各所に設置予定。
- 学内報告会に持ち込んで配布する以外、東京や大阪など遠方での設置・配布は行わない方針。  
→実際に町に来た人に手に取ってもらい、土地の空気と一緒に人の魅力を感じてもらうため。
- 町の公式Xアカウントなどで告知し、全国のコナンファンにフリーペーパーの存在を知ってもらう。

## 今後の展開

- **FS終了後も**、観光客と北栄町の接点をつくれるようなフリーペーパーを発行する予定。  
(若者向けの移住定住ガイドブックを制作予定で、その関連として進められるとのこと)
- FSで制作した今回のフリーペーパーは、そのパイロット版(試作)の役割。
- 町内・周辺地域のお店や事業者の**広告掲載**によって運営していく方針。



ご清聴ありがとうございました！



# 島根県江津市

猪原 皐良  
奥村 紘大  
増田 大夢  
山腰 柊真



# 江津市チームの目標と手段

最終目標は学校の統廃合を防ぎ、未来の子どもたちの生活・居場所を守る

江津市へのファミリー層の移住を促進し児童数を増加させる必要がある

東京での活動に加えて江津市内の若年層に働きかけ、将来のUターン需要を喚起

東京での魅力PRと江津市での高校生との協働イベントの2本柱で活動を展開



# 活動内容(1/6) 第一回現地活動

江津市の魅力を知る



江津市に移住・Uターンして活躍されている方と対談

やりたいことができる**余白**  
地域で**受け入れる体制**





# 活動内容(2/6) 地方創生コンソーシアム

- 第1回現地活動の報告
- 他地域・他団体で活動されている方々のお話を聞く



今後の活動の参考になる他団体の活動を知り、刺激を受けた





# 活動内容(3/6) ホームカミングデイ

目的：東京での江津市の認知度を高める

桑茶の試飲

特産品の販売

我々と地域活性部が制作のチラシ頒布



江津市に

興味が出てきました

の声も！





# 活動内容(4/6) 第二回現地活動

主に高校生とのミーティングを行った

江津市の**現状**と**理想**を整理

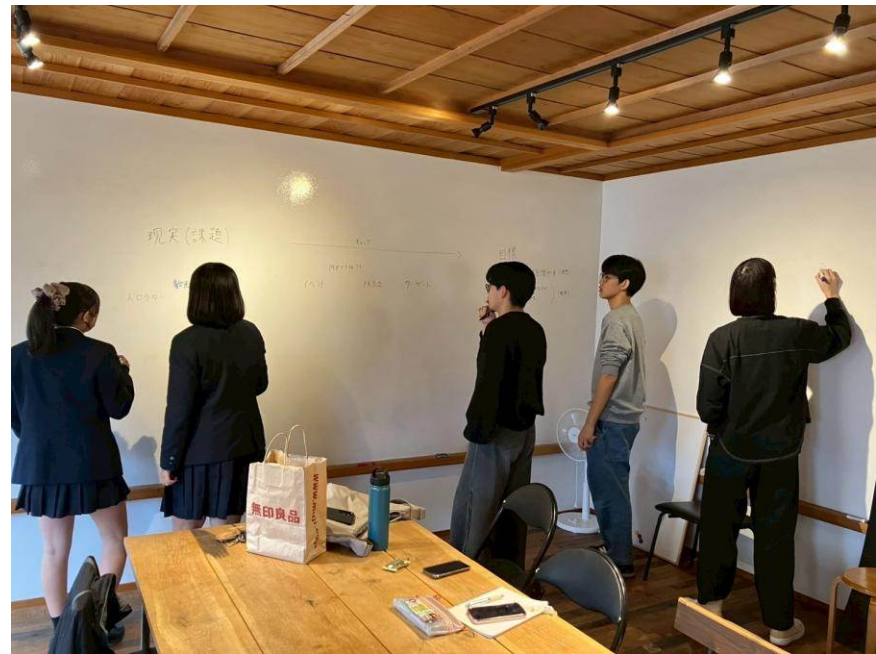


理想実現への手段を考える



第三回活動の**目的**を再確認

第三回現地活動へ本格始動





# 活動内容(5/6) 江津カルタ作成

## 江津カルタとは

内容：江津市の魅力

目的：江津市民が地域の魅力を再発見

## 作成方法

歌：大学生・一般公募

取り札写真：高校生

生の声を反映＝親しみ





# 活動内容(6/6) 第三回現地活動

カルタ大会：都野津会館での開催。

カルタ配布：100組のカルタを、市内の小中学校などへ配布。

現地報告会：3/2に実施。市長・副市長等に活動を説明。





## 来年度以降の活動

1. 東大FSプログラムとしての区切り
  - 「東大FS江津市チーム」としての活動は3月末で終了。
2. 有志（関係人口）としての継続的な関わり
  - 単年では取り組むことができなかった課題や今年度活動の改善を今後も行いたい。
  - 江津かるたの改良・第2回のかるたイベントなど来年度も江津市訪問を続けていきたい。

# メディア掲載



- ・ 山陰中央新報 8/16(土)朝刊 『東大生 移住者増の糸口探る』
- ・ 山陰中央新報 3/1(土)朝刊 『江津の魅力 カルタに』
- ・ 東京大学広報誌第1602号8頁 『1杯の桑茶から、江津を全国へ！』
- ・ 江津市公式HP 『2025年度 東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムについて』
- ・ 東京大学公式X
- ・ 東京大学公式Facebook

東大 学内広報 🔍  
で検索！



## おわりに



自治体の皆様をはじめ江津のみなさんの協力を頂き

私たち東大FSは充実した活動をすることができました。

改めて、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

来年度も江津市と関わらせていただくことを楽しみにしております。

また活動を支えてくださった東京大学体験活動推進チームの皆様にも  
感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

# 認知症の方や家族が安心して暮らせる 地域づくり

香川県坂出市チーム





## 目次

01

メンバー紹介

02

自治体紹介

03

今年度FSの課題の概観

04

現地活動報告

05

坂出市における認知症支援の課題

06

課題解決の指針

07

学生からの提案

08

学び・今後に向けた課題





# メンバー紹介



長内心之介  
薬学部  
3年

林陶然  
法学部  
4年



石戸菜々恵  
経済学部  
2年

藤川由衣  
法学部  
3年





## 自治体紹介

## 香川県坂出市

+

人口約5万人

高松市の西側に隣接

瀬戸大橋に繋がる「四国の玄関口」

!

近年高齢化が進む

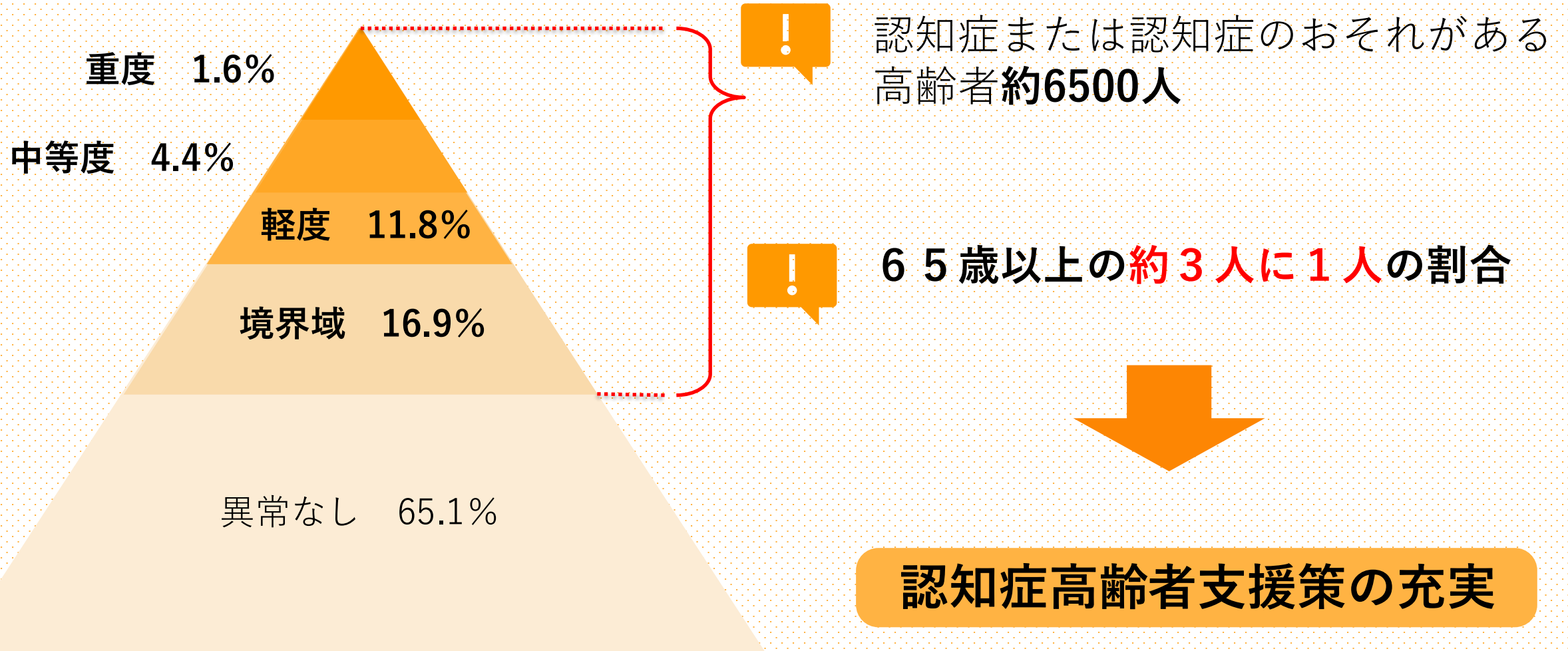
(高齢化率は約35%)

認知症高齢者数も増加





## 坂出市の認知症高齢者数の推定





チームオレンジとは？

# チームオレンジ

近隣の認知症サポーターがチームを組み、  
認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を行う取り組み。  
認知症の当事者もメンバーとして参加

+ 坂出市では去年からチームオレンジが始動  
昨年度東大FSのメンバーも立ち上げ期の活動に参加

+ 生活圏域5圏域でそれぞれ結成  
→ 講座を修了したサポーターを中心に各地域で月1回の活動が行われている



# 現地活動報告

第一回現地活動



第二回現地活動



事前準備

文献調査  
現地での目標設定



フォローアップ

都内でのチームオ  
レンジ視察・ヒア  
リング

目標設定

現地活動での準備





## 第一回現地活動報告

### 普及啓発イベントに参加

市立図書館にて認知症の普及啓発イベントにて、認知症に対しての理解向上を図った。地元の人との意見交流も行った。

### チームオレンジ全体会に参加

認知症サポーターの方の意見交換の場に参加した。社会福祉士の方からもお話を受け、課題が浮き彫りになった。

### 戸別訪問

市役所の方に同伴し、独居の女性2人を訪問。

### チームオレンジへの活動参加

西部圏域への活動に参加。活動後には意見交換会も実施





## 第二回現地活動報告

### チームオレンジ参加

異なる圏域でのチームオレンジ活動に参加し、幼稚園児との世代間交流を実施した。園児・高齢者双方から高い満足度が得られ、サポーターからも継続を望む声上がるなど、実装可能性を確認できた。

### 病院訪問

MIRAI病院および関連施設を訪問し、認知症当事者との交流と支援体制の視察を行った。医療・介護・地域が連携する多層的支援の実態と、行政に求められる多様なニーズを理解した。

### 教育委員会にて発表

教育委員長に対して段階的認知症教育プログラムの提言を行った。現行教育課程の時間的制約や、地域連携が災害時への備えとして重視されている点を踏まえ、実装に向けた課題を認識した。

### 高齢者訪問に同行

行政による高齢者訪問サービス「ほっとふれんず」に同行し、独居高齢者への生活支援や見守りの実態を視察した。制度が現場でどのように機能しているかを具体的に理解した。



# 坂出市における認知症支援の課題



介護が必要な人を含む高齢者（特に男性）が自発的に外に出たり介護を求めるケースは少ない  
→認知症になってから／認知症になる前から、積極的に外との関わりを持ってもらうようなコミュニティ作り

## 認知症＝病気、という認識の問題



現在：認知症に対する扶助が不足していることから住民がチームオレンジを結成し、コミュニティ作りなど共助の体制づくりに取り組んでいるが…

→参加してくれる住民に若年層がほとんどいない、持続性に問題



認知症当事者の方々が暮らしやすい坂出市にするためには？  
地域社会を支える若年層の担い手が十分とは言えない現状を踏まえ、認知症を支える若年層を着実に増やしていくことが不可欠。介護の担い手としてではなく、同じ市民として共に支え合う意識を全世代に広げる必要がある。

→昨年度実施した普及啓発活動は出発点に過ぎず、若年層の主体的な参画を生み出す仕組みづくりへと発展させなければならない！



## 課題解決の指針

+ 2024年度（FS受け入れ初年度）は「若年世代への継続的な普及啓発」に焦点。

その上で、継続的な普及啓発を行う体制の構築を中期目標としていた。

### 今年の見込みの方向性

①昨年度の見込みの継続：普及啓発に対してさらに包括的にアプローチ  
さらに新しい見込みとして、②チームオレンジの活動の持続化、活性化



## 提案①：認知症に関する若年層への普及啓発

教育プログラムを作成し、第二回現地活動で市教育委員会に提案した。

### ①幼稚園「心の土壌作り」

高齢者（チームオレンジ）との交流を通じた親近感の醸成

### ②小学生「正しい知識の習得」

養成講座や擬似体験を通じて「自分にできること」の発見

### ③中学生「当事者視点と共感」

直接話を書くことやドキュメンタリーを通じ、社会問題として捉える

### ④高校生「実践と発信」

SSHの活用や地域の活動に直接参加し、地域を支える実践者になる



## 提案②：チームオレンジ活動の持続化・活性化に向けて

チームオレンジは自主的な活動という性格から、活動の基盤は運営メンバーのモチベーション、創意工夫に依存していた。

→ **活動の持続性向上**のため、参加者を確保するとともに、認知症当事者を支える地域との結びつきを強めるためのイベントについていくつか提案。



### 具体的な提案内容

- ・若年層との交流（かるた、のど自慢、お絵描き、料理教室）
  - ・医療関係者との連携（東京都港区、文京区に対する調査から）
- 若年層との交流イベントを実際に第二回現地活動で実施





## 今後のロードマップ

(普及啓発：今年度の提案)  
若年層をターゲットとした啓発教育の  
ロードマップ作成・提案



(普及啓発：中長期のビジョン)  
**教育ロードマップを教育現場で実施**

(チームオレンジ：今年度の提案)  
チームオレンジの活動の持続化、活性化  
に向けた単発のイベント開催



(チームオレンジ：中長期のビジョン)  
**チームオレンジ活動の持続化、活性化の  
ための体系的なノウハウ蓄積**



## 学び・今後に向けた課題



チームオレンジ活動や幼稚園児との世代間交流を通じ、認知症支援において地域住民の関わりや世代間のつながりが重要な役割を果たしていることを学んだ。



医療機関や介護施設の視察、行政の訪問サービスへの同行を通じて、認知症支援は医療・介護・地域・行政が連携する多層的な体制によって成り立っていることを理解した。



教育委員会への提言を通じて、政策提案は理念だけでなく、教育課程の制約など現場の条件を踏まえて設計する必要があることを学んだ。



今後に向けた課題：

既存の授業や総合学習の枠組みの中で実施可能な認知症教育カリキュラムの具体化を検討する。チームオレンジなど地域団体との連携を継続し、若年層が地域課題に関わる機会を広げていく。また、教育プログラムの効果を測定する評価方法の整備を進める。

# 香川県土庄町

---

上田・田中・李・石川





## 目次

- 土庄町について
- 現状と課題
- 今年度の活動内容
- 今後について

# 土庄町

---

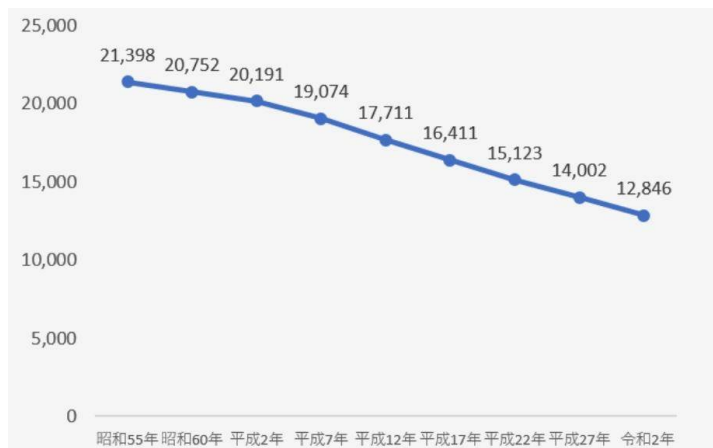


瀬戸内海に浮かぶ小豆島の西北部に位置  
小豆島の西にある豊島などのいくつかの島も  
町の一部となっている。

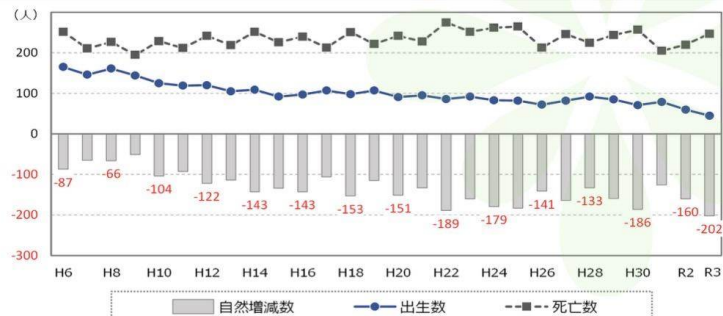
面積: 74.38平方キロメートル

人口: 12846人(令和2年国勢調査)

# 土庄町の現状



## 【自然増減の推移】



資料：総務省「住民基本台帳」

※H6～H24は各年4月1日～翌年3月31日、H25～は各年1月1日～12月31日

人口は30、40年で2万人→1.2万人に減少

近年は出生数の減少が著しく、自然減が大きくなってきている。(高齢化率 42.7%)

1ターンやUターン、移住者の増加により、社会減は抑えられている

# 土庄町の課題

---

＜小豆島中央高校の存続＞

高校、大学進学を機に若年層が島外へ

→多くの人々が帰ってこない

→子育て世代の減少

島留学の発信などに  
取り組み中

島内唯一の高校である小豆島中央高校がなくなると

若者の減少・流出が加速する恐れ

「高校は島のインフラ」

⇒①高校の魅力化

# 土庄町の課題

---

<人口減少への対策>

観光を通じて関係人口を増やし、さらに移住人口へと繋げていく

・観光に関する課題

土庄町の知名度の低さ

交通の不便さ(海路や島内での公共交通の不足)

日帰りが多い、リピーターが少ない

→観光客をどのように関係人口へと結びつけていくか

⇒②島外への魅力発信の新しいアプローチ

# 活動内容

---



## 小豆島中央高校 「しまのみらいプロジェクト」の学生とのワー クショップの開催

しまのみらいプロジェクト：  
高校生による自主的な課外活動プログラム  
観光、クリエイター、海洋などの様々なテーマ  
を通して地域課題と向き合う

# 五月祭出店企画

---

テーマ:

島の名産を発掘＋発信する

目的:

- ・関東圏中心に広く島外へ魅力発信
- ・高校生と地域の関わりを深める



オリーブオイルを使った試作会

島の名産や美味しいものを高校生から紹介してもらい、「小豆島をテーマに出店するとしたら？」についての話し合いを開催  
オリーブオイルの味比べを楽しむガーリックトーストの出店を計画中

# リール動画作成

テーマ:

しまのみらいプロジェクトの活動をより  
広く発信する

目的:

- ・ 高校生の活動の幅を広げる
- ・ 島と高校について広く発信
- ・ 観光における課題を考える

4

動画の基本的な操作



小豆島中央高校の高校生に編集の方法を教え、  
共に観光ルートを考えて、集めた写真と動画を編  
集→実際に土庄町のアカウントで投稿

# ポッドキャスト

テーマ:

島外の人々へ「島の生の声」を届ける

目的:

- ・島留学の宣伝に
- ・高校生の活動を新たに広げる
- ・高校生と地域の関わりを深める

初回のワークショップで「しまみら」の活動紹介やフリーペーパーの制作に関する話を収録

番組内容:

高校生活のリアル、権風ゼミの活動、島の大人インタビューなど



高校での収録の様子



・小豆島中央高校ラジオ・

近日配信予定!

# 今後の方針

---

- 自主的に楽しんで取り組める活動としての定着を目指して高校の先生方と連携して伴走  
(動画による発信やポッドキャストの作成)

様々なテーマの動画やラジオの発信に繋がるように

- 五月祭出店の実施

# 最終報告資料

日高村コミュニティバスを通じた  
「買い物難民」問題の解決案



## 発表の構成

1 現地活動の振り返り・村の現状

2 村の真の課題

3 提案した解決案

4 まとめ

日高村について知っていることはありますか？

日高村には「日本初」があります。



# 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～日高村について～

高知県日高村

## 概要

人口：約4700人

高齢化率：約43%

## 先進的な取組み

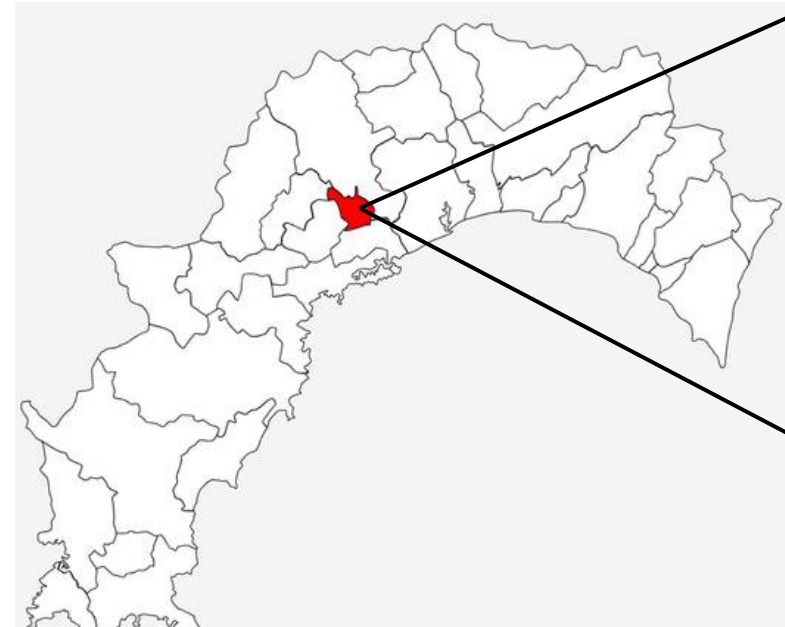
### 「村まるごとデジタル化事業」

- ・ **日本初**“スマホ普及率100%”を目指す(2023年9月時点 **92.7%**)
- ・ **日本初**デジタルサイネージの**バーチャルスーパー**を導入

## 提示課題

2024年9月、**村唯一のスーパーが閉店**

→村内で買い物をできていた人が村外に行かなくてはならなくなった  
可能であればデジタルを活用して村民の買い物支援をしたい



## 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～買い物手段についての調査～

### 第一回現地活動 聞き取り調査と買い物施設の視察

聞き取り調査 道端や街中にいた16人に声をかけ調査

#### 村民は実際どれほど困っているのか

- ・元々村内のスーパーを使っていない人がほとんど
- ・困っている人は、元々スーパーの近所に住んでいた人

→ほとんどの人は車が使えるので、「今は困っていない」と楽観的

#### 村民はデジタルをどの程度活用しているか

- ・高齢者はスマホを電話でしか使わない。不便に感じてガラケーに戻る人も
- ・バーチャルスーパーは利用が難しく、ほとんど利用されていない

→高齢者はデジタルに対応しきれず、結局アナログに頼る傾向



# 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～買い物手段についての調査～

## 第一回現地活動

### 現地視察

住民視点での各種買い物サービスの捉え方

#### 村外のスーパー



買い物の中心  
車で20~30分程度  
商品や施設が充実

#### コミュニティバス



車が使えない人が利用  
週に2回 1日・往復4便  
混雑率は30%程度  
住民のほとんどは  
存在を知っている程度

#### 移動スーパー



忙しい時に利用  
すぐに食べれる  
惣菜などが売れる

#### 村の駅や直売所



ご飯を食べに行く場所  
安いものなどは買う

#### ドラッグストア コンビニ



とっさに何か欲しい時  
足りない食材・用具  
などで利用

## 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～村の課題の再検討～

### 課題の再設定

#### 提示課題

2024年9月、**村唯一のスーパーが閉店**

→ 村内で買い物をできていた人が村外に行かなくてはならなくなった  
可能であればデジタルを活用して買い物支援をしたい

高齢化率43%

「今は大丈夫」

デジタルに消極的

#### 設定課題

10年、20年後、車が使えなくなった時にも  
住民が車なしでの対面での買い物にスムーズに移行できる仕組みを作る

# 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～解決策の検証～

## 第二回現地活動

### 設定課題

**10年、20年後、車が使えなくなった時にも  
住民が車なしでの対面での買い物にスムーズに移行できる仕組みを作る**

コミュニティバスの利用率の低さ

車なしで買い物できる便利なサービスだがあまり利用されていない

コミュニティバス普及のための  
スマホ教室

村内での買い物手段の不足

村内で満足できる買い物ができる  
場所がない

定期開催マルシェの検証のための  
餅つき大会での商品販売

# 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～買い物手段についての調査～

## 第二回現地活動

スマホ教室 10名が参加、スマホの使い方やコミュニティバスの使い方を解説

・参加者10名中9名が村と繋がりを持つ人  
→バスやデジタルの関心が低い

・コミュニティバスに対して、「バスが来るか不安」「バス停が遠い」「時間が不便」などの不満を挙げた

→変更するのに時間がかかるものが多い  
行政として1つ1つの意見に対応できていない



東大生も使う便利な機能を教えます！

スマホの基本を楽しくマスター！

### 東大生が教える！ スマホ教室

12/13(土)

10:00~11:00  
14:00~15:00

基本操作の説明  
電源の入れ方  
電話のかけ方など

アプリについて  
アプリのインストールと  
使い方

便利な裏ワザ  
東大生が活用している  
便利な機能を紹介

サポートタイム  
できるようになるまで  
東大生スタッフが  
サポートします！

場所 村の駅ひだか 〒781-2153 日高村本郷1478-9

日時 12/13(土) 午前の部 10:00~11:00  
午後の部 14:00~15:00  
※両部とも実施内容は同一です。

持ち物 スマートフォン  
(IphoneでもAndroidでもOK!)

参加費 無料

実施元 東大FS 日高村チーム

どなたでも大歓迎です！  
ぜひお越しください！

担当メンバー

# 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～買い物手段についての調査～

## 第二回現地活動

マルシェ

餅つき大会にて、食品を中心にさまざまな商品を販売

・ 来場者は積極的に利用したがアンケートではマルシェ自体には消極的  
→ **村内での販売は村外のスーパーに劣る**

・ 日高村指定のゴミ袋を来店者のほとんどが購入し、売上の約43%を占める  
→ **村民はゴミ袋にだけ関心が高い**



普段は村外のスーパーで買い物をするが、**村指定のゴミ袋**は村内でしか購入できない  
日常の買い物とは別に、ゴミ袋のためだけに村内の販売店に行く必要がある

# 1. 現地活動の振り返り・村の現状 ～現地活動を通じてとらえた全体像～

## 目指すべき将来像

住民が車を持たなくても、対面での買い物に困らないような村をつくる

- ① 住民がコミュニティバスの利用方法をわかっていない  
「バスが来るかわからない」「バス停の位置がわからない」など、いざ利用を検討したときに発生した疑問を抱えていた住民も
- ② 村(サービス)が住民の不満に対応しきれていない  
未利用者は「バス停が遠い」など、対処が難しい意見がある

ギャップ

## 現状

- ・ 「今は大丈夫」と車がない時の生活をイメージできていない
- ・ 住民はコミュニティバス(周遊バス/デマンドバス)には不満がある

### 3.提案した解決案

「買い物に困らない村」を目指す上での課題

#### 自分ごととして考えない

コミュニティバスは便利だが、車が運転できる間は自ら動いて情報を得ようとしないので、いざという時に買い物の仕方がわからなくなる



1

住民の行動変容を促進

コミュニティバスでのゴミ袋販売

#### 必要なデータが足りない

サービス向上にはバス停の位置やルートを改善する必要があるだが、そのための「利用者の住所」や「未利用者」などデータがない



2

サービス改善体制の構築

定期券を用いたデータ管理・活用

### 3.提案した解決案 ～①コミュニティバスでのゴミ袋販売～



1 住民の行動変容を促進

コミュニティバスでのゴミ袋販売

## ゴミ袋を利用して関心を高め、バス利用のハードルを下げる

ビラ・LINE  
によるPR

バスでの  
ゴミ袋販売

バスでの広告  
乗り方講座

ついでに乗車  
バスを活用

バス停の位置や時間を認知

バス停や車内で販売  
「ゴミ袋を買える場所」  
として関心を高める

バスの車体で広告  
使用方法・利便性を知る

## いつでも使える状態を作り、いざという時にもスムーズに利用できる

## 4.提案した解決案 ～②定期券を用いたデータ管理・活用～



### 2 サービス改善体制の構築

### 定期券を用いたデータ管理・活用

## 現在紙面で見せるのみの定期券をデータ管理に活用

既存の  
利用者

### 定期券と住民情報の連携

- ・個人の定期券に、ID/名前/住所/  
通常利用便を設定して管理

潜在的な  
利用者

### 短期間定期券の無料配布

- ・免許返納に近い75歳以上の住民  
にお試しで一ヶ月利用してもらおう  
→今後利用が見込まれる層の需要を  
データとして得る

多くの住民から  
データを収集

### 住民にとって最適な 輸送サービスの実現

- ・利用者数や、その住まいに合わせて、  
ルート/バス停を変更
- ・簡単に予約できるようになり、  
住民の手間が省ける
- ・新たにバスを使う層の動態も  
反映されたサービスになる  
→住民満足度の高いサービスを実現

1人の住民の意見ではなく、集団の需要として認識できるように

### 3.提案した解決案 ～解決策の拡張可能性～

#### 考えられるその後の展望

#### 村内での消費の再活性化にも活用可能

##### コミュニティバスでのゴミ袋販売

##### 定期券を用いたデータ収集・活用

##### ゴミ袋以外の商品販売（貨客混載）

- ・惣菜など移動スーパーで需要のある商品や村内の施設の商品を販売
- ・LINEなどを活用した予約配送という形で手間を省くことも可能

##### 定期券の電子化

- ・スマホ/LINEアプリと連携し、電子媒体で表示できれば紛失防止に
- ・データ連携により、高齢者の見守りなどにも活用可能

##### バスの台数増加や新型化

- ・多くの住民が利用することで、さらなるサービス規模の拡大や質の向上に繋がられる

## 5.まとめ

### 現状

車が運転できる人々は「今は」生活に困っていない  
だが、運転できなくなつてからの生活まで考えられている住民は少ない

### 将来像

住民が車を持たなくても、対面での買い物に困らないような村をつくる  
コミュニティバスなど公共交通で独力で買い物できる体制の整備が必要

### ギャップ と課題

- ①住民がバスの使い方を知らない→「自分ごと」になっていない
- ②村が住民の不満に対応しきれていない→改善に必要なデータが不足

### 解決策

- ①バス停・車内での指定ゴミ袋の販売  
... 「自分ごと」であるゴミ袋の販売を通じ、バス停の位置・バスの時刻を認知
- ②定期券を用いたサービス改善体制の構築  
... 定期券に住民の住所・よく使う便などを紐づけてデータを収集し、改善に活用



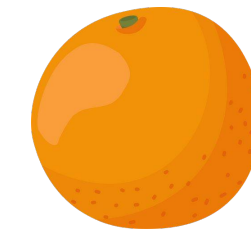
*Thank You!*

ご静聴ありがとうございました

Saga Kashima

佐賀県鹿島市

最終報告



## 目次

---

- 地域紹介
  - 活動内容
  - 提案
  - 今後の展望
  - まとめ
  - Appendix
-

# 佐賀県鹿島市



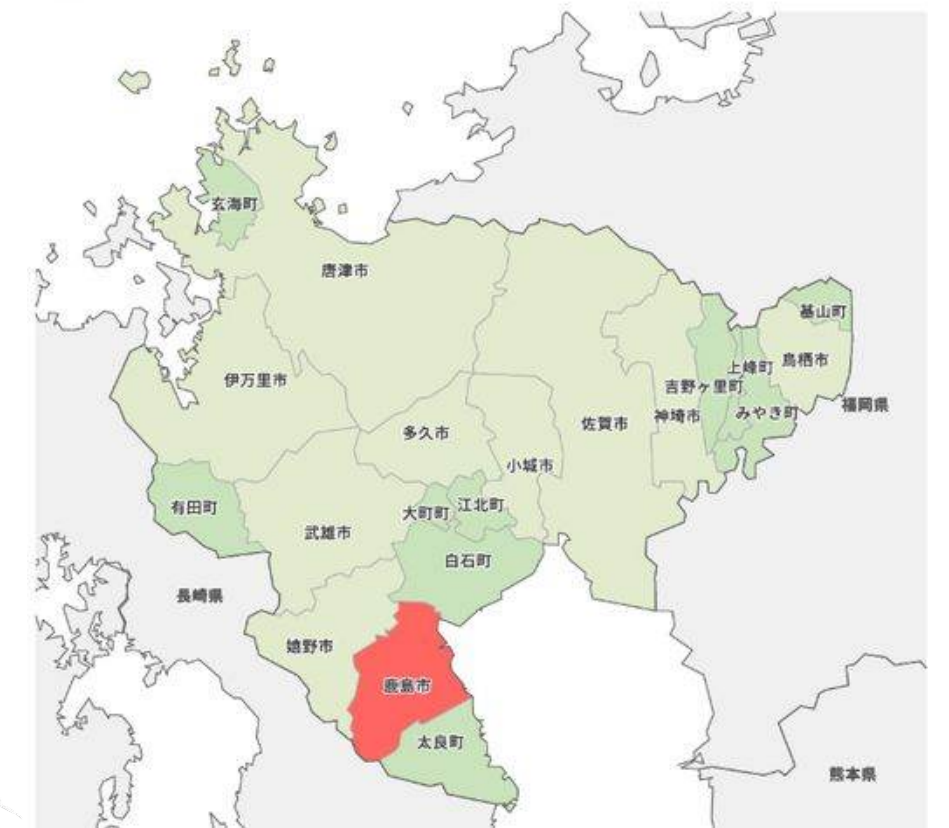
～東は有明海、南は多良山系に囲まれた自然豊かなまち～

人口:27410人(東京大学の学生数程)

面積:112.12km<sup>2</sup>(柏市と同程度)

特産品:海苔、日本酒、みかんetc

鹿島市 かしまし



祐徳稲荷神社



特産品のみかん



有明海とみかん



特産品の海苔

# 佐賀県鹿島市テーマ

## 自発の地域づくりを加速させる

※地域が自ら考え行動し、トライ&エラーを繰り返しながら、地域資源を磨き上げる取組

鹿島市にある地域資源を生かして行政に頼らずに持続可能な  
地域づくりを行っていくための施策やアイデアを考えました

# 現地活動から得られた学び

## 第一回現地活動



かかしまつりへの準備/市内の施設を訪問

### 【方針】

- ①移住者・関係人口の増加
- ②6次産業化の推進の2つを軸にする方向性

## 第二回現地活動



「稼ぐ手段」と「地域を知る手段」としての  
6次産業化にフォーカスする方針

- 6次化につながるような高収益化を実現
- 長期的には移住につながる好循環を生む

地域資源を教材化する

## 「鹿島のみかんの木オーナー制度」

学校教育を起点とした持続可能な6次産業化

単なる収穫体験にとどまらず、数年単位での学校主体の「みかんの木の所有」により

地域への愛着と継続的な関わりを醸成します。

## 施策を選んだ理由

オーナー制度を軸に六次産業化を行うことで、郷土愛の醸成にもつながり  
長期的には移住者を増やすことにつながるのではないか

(みかんの耕作放棄地問題解決と、みかんの木を持つことによる地域愛の醸成)

リサーチ内容①：みかんオーナー制度の事例調査、ふるさと納税の現状

リサーチ内容②：スタディツアー・探究学習の現状

①全国各地で、みかんの木オーナー制度はすでに実施されている。

例) 愛媛(松山・八幡浜)：強いブランド力と体験重視

和歌山・徳島・高知：自治体・地域単位での展開/高額寄付×大量オーナーといったユニークな事例も存在  
一方で鹿島市のふるさと納税では、海苔・佐賀牛・果物などはあるが、みかんの活用は限定的。

②学校教育では【問いを立てる → 調査・体験 → 発表】という探究学習が重視されている。

佐賀・福岡周辺では、自然体験・歴史体験を中心としたスタディツアーがすでに存在。鹿島市でも酒蔵ツーリズムや干潟体験などはあるが、学習テーマとして統合されたパッケージは少ない。

## みかんの木オーナー制度を用いた校外学習のフロー例

### テーマ設定

- ・SDGs(環境・食料問題)
- ・鹿島の近接性・課題の多様性を生かしたテーマ設定  
→そもそものニーズは？

### 情報収集・分析

- ・鹿島の現状・ニーズ
- ・(可能であれば)JAや漁協等の協力のもと、出前授業のような形で



### 調査・実験

- ・収穫/加工体験
- ・日常の手入れは農家さんが行う
- ・加工施設としてみちしるべの利用も  
→費用や訪問回数が課題点

### 発表・表現

- ・地元の方からのFB
- ・レポートを書く機会にも



### 利点

- ・長期的・継続的にできるからこそ…
- ・自分たちのものとして愛着をもてる
- ・行政からの視点では、郷土愛を誘う教育を民間に委託できるという意義がある
  - 長期的な視点では移住促進につながる可能性

## 九州地方の学校・教育委員会にアンケートを実施！

### 要素とプロセス

- ・ スクールミッション/グラデュエーション・ポリシーとの整合性
- ・ 前例踏襲、伝統
- ・ 学年や教員、保護者の意見
- ・ 予算/日数/人数的問題

### 懸念点・課題・改善点

いくつかの  
懸念点や課題  
それらを踏まえた案が  
見られた

### 導入可能性

現時点では  
検討の余地あり

## 「懸念点・課題・改善点」の回答結果

## 青雲高校（長崎）

## 費用対効果

「みかんの収穫体験以外のこともしなければ厳しい」

「九州以外から訪れるならば、体験活動の一つになりうる」

## 県立佐賀西高校（佐賀）

## 複数の学校や大学、地域との連携

「複数の学校での同時購入で、交流の機会にもつながる」

「教員育成系大学、附属学校での導入」

「地域やJA、みかん農家との連携」

## 県立小倉高校（福岡）

## 目的・教育的効果

「高校の体験活動としてならば、OBやNPO法人、大学教員など、関わりがあると良い」

「みかんの木を学校の木として育てていく目的を明確にすることが重要」

## 今後の展望

### 潜在顧客の発見

- 私立の学校法人や周辺地域の教育機関にアプローチ
- 学校のみならず他の業界・団体にアプローチも検討の余地あり？


### 地域間連携の模索

- 第1次産業～3次産業まで、ヨコのつながりを創出する
- 環境問題や自然の保全にかかわる他の地域の方との連携

### 学習事例の作成

- 先行事例を通して、鹿島で学ぶことの意義や重要性をアピールする
- 多角的な視点からの学習事例を提供し、目的に合うプランを模索

**地域や産業をまたいだ協力体制の構築が重要**



# 長崎県佐世保市チーム ～宇久島・宇久地域～

笠木日向多・志岐晃誠・下條円雅・八木優磨

## 宇久島とは

- 佐世保港から西方へ約60キロ離れた五島列島最北端（上五島と呼ばれる地域）に位置する
- 平成18（2006）年に旧宇久町と旧佐世保市が合併して、佐世保市宇久町となる。
- 人口は約1700人。すでに島民の2人に1人以上（58.3%）が65歳以上の高齢者。





## 今年度・FS長崎県佐世保市チームの活動テーマ

- **宇久高校離島留学の改善**
  - 2026年度から導入が開始予定である宇久高校の離島留学
  - 宇久島の受け入れ体制における改善
- **宇久高校の生徒の将来ビジョン醸成**
  - 大学のない宇久島において、高校卒業後に島を離れることも選択肢になりうる
  - だからこそ将来のビジョンを見据えた進路選択をする助けをしたい

## 2025年度佐世保市チームの活動概要

6月

顔合わせ



8月

第1回現地活動



9月

第2回現地活動



12月

第3回現地活動

3月

最終報告会

# 離島留学とは？

一 島外に暮らす学生が、離島に住み込んで生活を体験しながら地域の学校に通学すること



## \* 宇久島における離島留学

- ・ 長崎県立宇久高校が受け入れ  
→ 宇久高校：2025年度生徒数13人  
廃校ライン・存続の手段としての離島留学

- ・ 離島留学を行う主体  
→ 制度そのものやカリキュラム：県教育委員会  
しま親を含む受け入れ体制構築：行政

- ・ 初年度である2026年度は  
ホームステイ（しま親）制度を利用予定

## 島の人の声

何かあったときの  
責任の所在が曖昧じゃない？

しま「親」という  
名前が負担に感じる

家族旅行の際は  
どうすれば？

3食は大変。  
給食が欲しい

寮が欲しい

家が遠いし、  
送迎が大変

どう関われば良いか  
わからない

不安や疑問を  
共有できない

子供同士の関係は  
どうなるんだろう





## 島の現状と課題

離島留学制度に対して、島民は制度の重要性を理解し、協力的！

しかし、

- 「しま親」という役割の負担が重く、引き受けることへのハードルが大きい
- しま親の制度に対して不安・不明点があるけれども、相談できる相手・場がない
- 高校（県）・小中（市）・しま親・行政の立場間で、情報共有や協力が必要だが、話し合う場がない

など、しま親の負担、制度の運用に関する問題点を共有して解決する場がなく、問題点が宙に浮いてしまっている状況

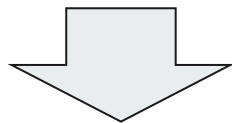
課題：離島留学制度に関わるアクターである県教委・行政・島親のコミュニケーションが取れていない

## 提案①

# 三者間の情報の非対称性の解消

県教委・宇久行政センター・離島留学関連住民の三者間での情報共有における透明性と迅速化が重要。特に離島留学制度の導入直後には、より多くの問題が顕在化する可能性がある。

- **三者間連絡協議会の設置**
  - 三者が学期毎（年3回）に対面またはオンラインで集まる場を公式に開催。
- **三者間での連絡システムの導入**
  - teams、Slack、LINE WORKS等のコミュニケーションツールを導入して、迅速に情報や予定の共有をできる環境を整える。



三者間の情報の非対称性が解消されることで、継続的に発生するであろう課題や改善点にも迅速に行動に移して取り組むことができる。

## 提案②

# しま親の送迎負担の軽減

## 宇久島でのしま親制度の現状

高校からの距離によってはしま親による送迎がないと通学できない恐れ→子供の行動に合わせて車を出す必要があり、負担

## 島内のバスを島内の通学にさらに活用できないか？

現状は午後のうちに予約が必要で、決まった時間に、決まったルートを走る→自由度を上げることで利用しやすくできないか？

他の自治体での取り組み例；岐阜県白川町・東白川村「おでかけしらかわ」 <https://www.odekake-shirakawa.com/>

かつては帰宅時間帯において、JRの列車が到着するタイミングで家族が迎えに来る→**交通弱者の移動に制限**

路線バスとタクシー事業者、住民のボランティアが協力して交通体型の確立を図る。定時バスに加えて、予約制バス、JRの列車と接続するバスを走らせる→**家族の送迎が不要に**

完全模倣は難しいが、**バスやボランティアの方の力を借りることで、しま親の負担軽減につながる可能性は十分にある**

### 提案③

## しま親の「レスパイト（休息）」制度の導入

### レスパイトケアとは？

育児や介護など普段誰かのケアを行なっている人が、日々の疲れや冠婚葬祭、帰省、旅行などの理由で在宅ケアが困難になる場合に、代替者がケアを担い、日頃ケアを行なっている家族などのリフレッシュや負担軽減を図る取り組み。

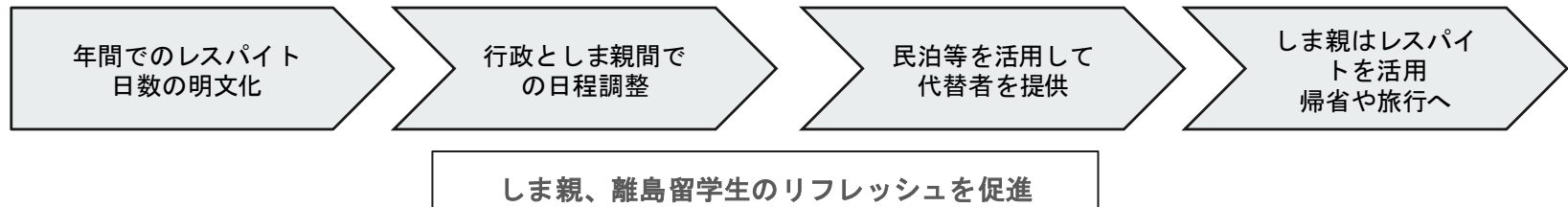
取り組み実施例：和歌山県における里親及びファミリー養育者に対するレスパイトケア

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/110400/d00218968.html>

### 宇久島のしま親制度の現状

家族で帰省や旅行に行く際の対応の未整備、離島留学生徒の帰省を除いて無休でのケア

### 民泊等を活用したレスパイト制度の導入



## 提案④

# 給食制度の導入

### 宇久島でのしま親制度の現状

家庭での朝食・夕食に加えて、高校ではお弁当を作る必要がある。

→学生がいない家庭にとって3食を毎日用意することは大きな負担

→既存の小学校・中学校用の給食設備を使って、高校生の給食も用意する可能性

- 小学校・中学校で現在運営されている給食設備をつかって高校生分の給食を作ることで、しま親の負担を軽減できる。
- 給食施設は市営・高校は県営のため、市と県が協力して運営を行う必要がある。

県からのしま親に対する補助金の一部を、給食費として充てても良い！との島民の声も！

## 提案⑤

# 将来的な離島留学生のための「寮」制度の構築

- ・ 多かった島の人声「持続的な離島留学制度構築のためには、寮が必要」
- ・ 宇久島で「寮」を作るためには？
  - ・ 資金集めが必要
  - ・ 土地や建物（いわゆるハコモノ）が必要
  - ・ 運営する人員・組織が必要
    - ・ 継続的な運営のためのルール作り



五島列島・奈留島の寮「しまなび舎」  
<https://narushimanabiya.wixsite.com/my-site/about-us>

## その他・今年度佐世保市チームが取り組んだ成果

- ・ 宇久高校生徒との交流会の実施



- ・ SNS（note・Instagram）を利用した情報発信





ご清聴ありがとうございました

2025年度フィールドスタディ型政策協働プログラム

# 長崎県五島市 活動報告

2026年2月23日(月)五島市立図書館  
東京大学FS五島市チーム



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 目次

---

- ①今年度の活動報告
- ②アンケート結果～花島での聞き取りから～
- ③活動での考察～花島での聞き取りから～
- ④提案のまとめ

# ①今年度の活動

# 今年度の五島市の課題設定 -2025年度（第3期）

## 島に残る伝統文化の担い手の在り方について ～栲島神社例祭を対象として～

- 福江港の北東約15キロに位置する二次離島
- 全島の85%が山地
- 昔から漁業が盛んで、昭和中期は人口3000人ほど
- 人口は約70人
- 高齢化が顕著



《定期船情報》

一日3往復 福江 ⇄ 本窟 ⇄ 伊福貴 (ソレイユ)

# 第一回現地活動

## 福江港まつりへの参加・現地での聞き取り

- 五島市の八幡神社の神輿巡業、ねぶた曳きに参加
- 椀島で住民に聞き取り、郷長に祭りのスケジュールや歴史などについて話を伺う
- 玉之浦地区の神楽保存会の方々に話を伺う



## 第1回現地活動で学んだこと

### 祭りの変化と玉之浦地区での移住者の関わり

島民の多くが「祭りは続けたい」と語る一方で、  
**人口減少、海上タクシーの廃業によって祭りの規模を縮小せざるを得ない（2日間→1日間）**

玉之浦地区の神楽保存会で移住者を含む多様な人々が神楽を支えている事例を通じて、**外からの関わりが伝統継承の新しい形となり得る**可能性を再確認

## 第2回現地活動

### 椀島神社例祭に実際に参加

10/17 日（金）

- 例大祭の準備
  - お料理の仕込み
  - 宝来丸組立 など



10/18 日（土）

- 例大祭本番
  - 神輿
  - 曳舟
  - 慰労会 など



10/19 日（日）

- 例大祭片付け



## 第2回現地活動で学んだこと

### 本窯地区の高齢化と人口減少により 祭りのあり方が問われている

- 島民の高齢化も進んでおり最年少が70代
- 階段の昇降を伴う作業では高齢の方々のみでは困難な場合もあった
- 曳舟歌を歌える人は島で漁師を唯一続けている方のみ

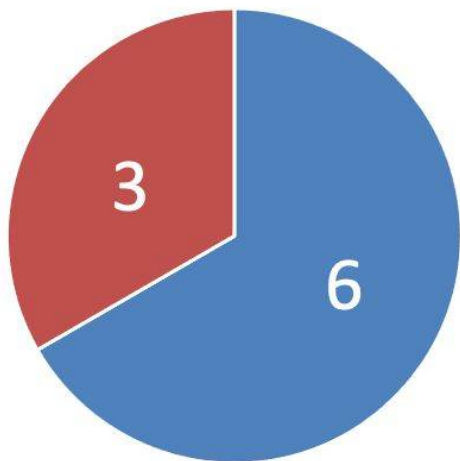
#### お祭りの現状

- 従来は2日間で開催していたが、瀬渡しが出なかったため1日に短縮
- 真興産業、戸田建設、手話サークルなど島外からの参加も多かった

## ②アンケート結果～花島での聞き取りから～

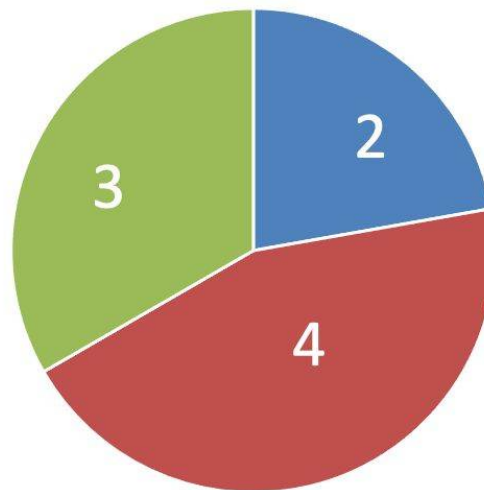
# 島民へのアンケート調査結果

祭りの形態について(人)



- 神事だけなど規模を小さくしてでも続けたい
- まだ決められない／わからない

集落消滅後も祭りを続ける意味(人)



- あると思う
- あまりないと思う
- わからない

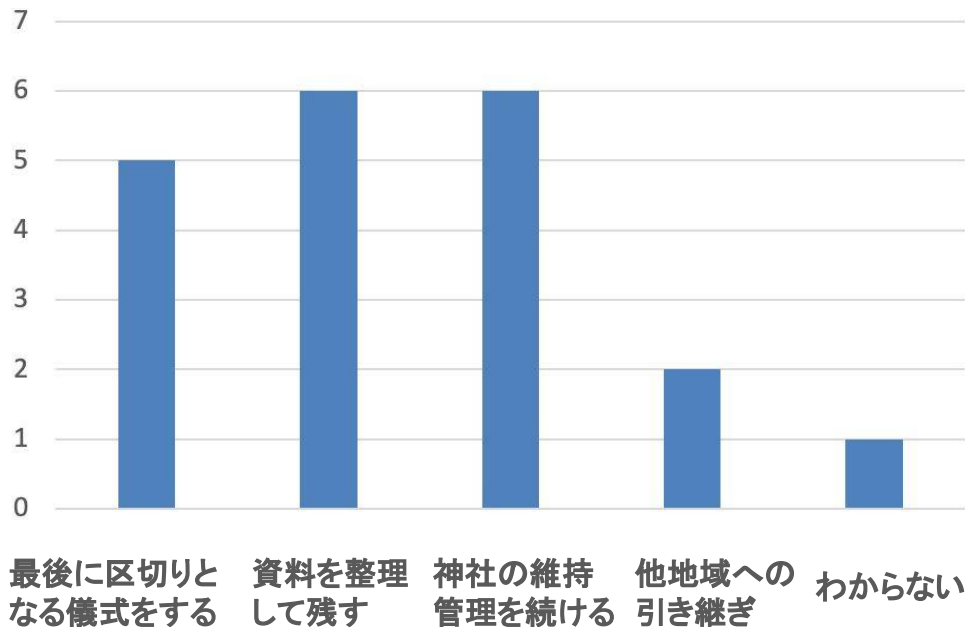
# 島民へのアンケート調査結果

祭りにかかわる人について(人)



- 本窯出身・縁のある人までならよい
- 紹介があれば、集落に縁のない人でもよい
- 誰でもよい(ボランティア等含む)

祭りの閉じ方(複数回答可)



## ③考察～花島での聞き取りから～

# 神事・神社の維持を担える縁のある人とは？

---

- **本窯出身者**

- メリット：**一番、本窯に縁がある人たち＝元住民である**
- 課題
  1. 本窯出身者へのアプローチが難しい
    - 島人会の衰退
    - 実家取り壊しにより祭りなどの際にも帰ってこない
    - 個人情報保護
  2. 集落消滅後の交通
  3. 世代を経るごとに本窯への愛着や縁は薄れていく

# 神事・神社の維持を担える縁のある人とは？

---

- 真興産業

- メリット：

1. 既に神輿の担ぎ手などとして祭りの一部を担っている  
= **現住民から担い手として認められている**
2. 事業を続ける限り縁は残り続ける
3. 事業に伴って本窯への交通手段を有している

# 神事・神社の維持を担える縁のある人とは？

## ● 真興産業



### 緑の再生と地域社会への還元と貢献

梶島に生活する人々とのおつきあいを大切に、地元のみなさまとの話し合いを重ね、地域活性につながるいろいろな方法を模索しています。そして、採石業への理解に感謝をこめて島の発展に貢献したいと考えています。昭和57年9月、島の本郷地区の港に「梶島神社」を建立し、島の繁栄を祈念しました。

また、平成12年6月には、梶島工場を見下ろす、西側の丘に、安全祈願の観音像を建立。島の人々の豊かな暮らしと安全な毎日を見つめています。

- 課題：営利企業としてのメリットはない
  - ・可能性1：ただ本郷郷との融和のために協賛
  - ・可能性2：会社の理念に基づく活動。
    - 会社の広報から裏付け
    - 事業の氏神的な位置づけも可能では？
      - →打診の価値はある
      - 集落消滅後に単独で神事や神社の維持管理を担う負担の大きさは無視できない

## 他にもアンケートからわかること

---

祭りの閉じ方として望まれたこと...

最後に区切りとなる儀式をする

道具・写真・資料などを  
整理して残す

その中で曳舟歌の継承について憂慮する声もあった

## 他にもアンケートからわかること

---

最後の区切りとなる儀式・イベントとしては、

大々的に最終回の告知を行なって盛大に記念した蘇民祭や長沼祭りの例があるが、「**できる限り最後の最後まで祭りを続けたい**」という思いとの折り返いが大切であり、必ずしも区切りをつけることが絶対ではない

ただし、**現在の運営体制（＝島の住民）が消滅する前に現在の祭りの形に区切り**をつけて新たな形へと移行を済ませることは、神社・神事などの維持には不可欠であり、どちらを取るかの決断が求められる

## ④提案のまとめ

# 提案のまとめ

---

本窯の皆さんには、

**最後の最後まで今の体制で走り切って祭りを続ける**

**余力のあるうちに集落消滅後の神社・神事の維持体制を新たな担い手とともに整えておき、区切りの行事を以て新たな体制に移行する**

2つの選択肢が残されている

# 提案のまとめ

---

区切りの行事のあり方としては、

- 各所の協力を得ながらかつての**本来の規模に近い形で盛大に**祭りを執り行う（蘇民祭の例）
- これまでの本窯集落や椀島神社・例大祭の歩みについて**写真や記録をもとに振り返る形**

など様々なものが考えられる

**住民のみなさんにとって大切なたった一度のもの**

**住民間でよく話し合っで決めるのが最善**

# 提案のまとめ

---

## 新たな形：

集落消滅後は現在の祭りの形態を維持する必要はない

神社・神事についての最低限の維持管理は継続

## 新たな担い手：

真興産業さんをお願いしたいが...（安定的）

本窯出身者やその子孫が関わることの意義は大きい

**長期的には新たな担い手で新たな体制へ繋げることが必要不可欠**

## 提案のまとめ

---

同時に、どちらの選択肢を選ぶにせよ、  
**道具や記録などを整理して残すこと**  
は欠かせません。

# 結び

---

- 見栄を捨てて核心を残す、ひとつのありかた
  - 目的の解像度を上げない惰性の規模維持は破綻する
  - 本窯の事例は、「祭りが消えていく悲しい事例」ではない
  - 避けられない現実を前に、本当に大切な核心だけを未来へ託そうとする決断

**これから存続の岐路に立つ全国のあらゆる地域にとって、  
選択を誤らないための重要な羅針盤となる**

2025年度FS最終報告会

熊本県あさぎり町チーム

『かちやあクエスト』

～あさぎり町の地域資源を活かした体験型ツアーの構築～

2026年3月16日(月)

# 01

## 自己紹介

乙川文隆  
(法4年)

塩谷稀一郎  
(工修士2年)



比嘉龍聖  
(農4年)

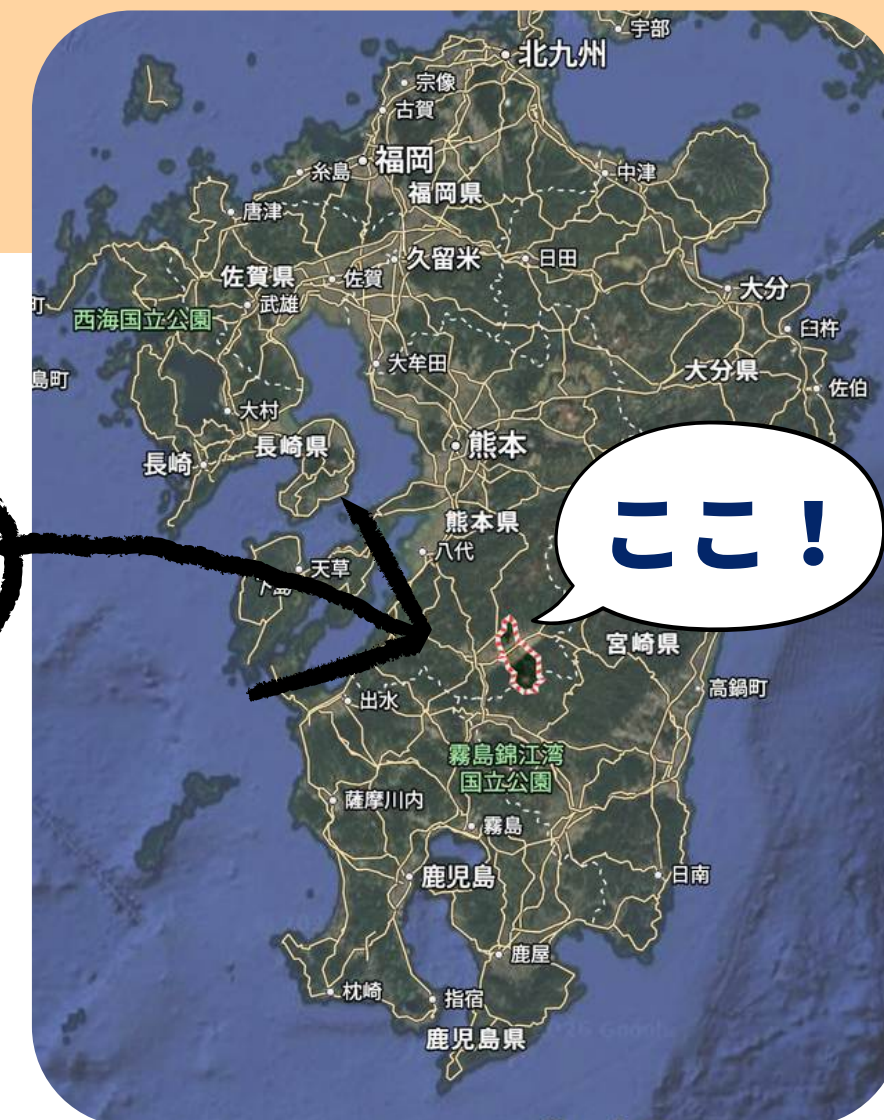
伊関佳純  
(工2年)

# 01

## あさぎり町について

- 熊本県南部、人吉球磨盆地の中央に位置する
- 日本で唯一、名前がひらがなの町
- 人口：13,714人
- 基幹産業：農業
- 名産品：球磨焼酎（米焼酎）
- 町の由来は朝に深い霧が出ること

（見られました！） →



# 02

## 私たちのミッション

『かちやあクエスト』  
～あさぎり町の地域資源を活かした体験型ツアーの構築～

かちやあ：「助け合い」の意味

学生と地域住民が助け合いながら、  
ツアーづくりを行う



# 02

## 私たちのミッション：背景

### 町の課題

町外からの移住促進のため、  
町をPRするツアー作りが検討されているが、  
町民は街の魅力を十分に認識できていない。

### 解決法

あさぎり町外からの視点を取り入れ、  
ツアーに盛り込める街の魅力を発見してもらう。

東大生が現地での活動を通して町の魅力を発掘し、  
移住促進につながる町のツアーを作成する

# 03

## 第1回現地活動：9月6日(土)～9日(火) テーマ：あさぎり町を知る

### 名所への訪問

- おかどめ幸福駅
- 各所温泉



### 地域の方々との交流

- BBQ交流会
- 役所の方との会食



### 自然の中での体験

- 自炊（釜炊き・鮎）
- 栗拾い



### その他

- 川遊び
- 流域治水勉強会

# 03

## 第2回現地活動：11月13日(木)～16日(日)

### テーマ：子育て環境を知る

#### 子育て関連施設への訪問

- 保育園訪問
- こども食堂での調査



#### 役場訪問・意見交換



#### 中学校訪問・調査



#### その他各所訪問

- 南陵高校文化祭
- 免田小学校文化祭

# 03

## 発見した魅力

### 自然

球磨川の「水の恵み」  
一次産業にも、レジャーにも



「流域治水」の考え方  
令和2年豪雨の記憶から  
自然と共に生きる、  
自然を学ぶ環境の蓄積



- しかし
- ・暮らしていると魅力が当たり前
  - ・自然環境だけでは移住の決め手たりえない

# 03

## 発見した魅力

### 子育て環境

幼稚園/保育園が**12か所**立地  
異年齢児保育などで  
子どもの自律性を育む



現地の子どもと友達に  
→子ども起点の  
「また来たい」「移住したい」  
を引き出す

# 03

## 発見した魅力

### 人間関係

地域おこし協力隊が**10名活動**  
→「あさぎり商社」で  
地域課題解決に取り組む



協力隊をきっかけとした移住者が  
**1年あたり1家族**生まれている  
→「移住の先輩」としてアドバイスも



# 04

## ツアー設計：基本コンセプト

### 「移住後の日常を体験する」

- あさぎり町の生活を具体的にイメージできる
- あさぎり町を好きになってもらう
- ただの田舎移住ではなく、「あさぎり町」に行きたいと思ってもらおう

# 04

## ツアー対象の決定

- **ツアー対象**：九州の都市部に居住する  
20～40代の親と未就学児・小学生の子を持つ家族

### 子育て世代

- 保育園・幼稚園の  
数・質が充実
- 自然や人の温かさに  
触れられる環境



### 九州の都市部（福岡など）

- 仕事を続ける上での  
通いやすさ
- あさぎり町や人吉球磨  
との地縁

# 04

## ツアー範囲の設定

- ツアー活動地域

- あさぎり町+人吉球磨地域全体

- なぜ人吉球磨全体に？

- 生活圏としての連続性→実際の生活を体験する
  - 思ったより不便な田舎ではない！
- 地域全体の魅力を伝え、「人吉球磨」を好きになってもらう



# 05

## ツアーの紹介

全体コンセプト：「移住後の日常を体験する」

### ツアー対象

九州の都市部に居住する  
20～40代の親と未就学児・小学生の子を持つ家族

### 実施時期

8月または12月-1月（学校の長期休みを理想とする）

### 実施期間

4泊5日が基本モデル、各日のコンセプトは以下のとおり  
①町の散策 ②レジャー体験 ③日常生活体験 ④各種相談  
⑤人吉球磨エリアの体験

# 05

## ツアーの紹介

### 全体コンセプト：「移住後の日常を体験する」

- **実施時期**：8月または12月-1月（学校の長期休みを理想とする）
- **実施期間**：4泊5日が基本モデル、各日のコンセプトは以下のとおり

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
<p>「あさぎりに 出会う」 ：町の散策など</p>	<p>「あさぎりを 遊び尽くす」 ：レジャー体験など</p>	<p>「あさぎりの日常を 体感する」 ：日常生活の体験</p>	<p>「あさぎりでの 具体的なライフ イメージを持つ」 ：各種相談(仕事・ 子育て含む)</p>	<p>「あさぎりから 人吉球磨に目線を 広げる」 ：人吉球磨地域の体 験・挨拶回りなど</p>

# 05

## ツアーの紹介

### 1日目のコンセプト：「あさぎりに出会う」

時間	内容
9:00	居住地出発
	自家用車/新幹線新八代駅からレンタカー/鹿児島空港からレンタカー
14:00	あさぎり町着
	町内を車で散策
	チェックイン・休憩
18:00	歓迎BBQ：移住者・地域の人も参加（子ども込み）
20:00	ヘルシーランド
21:00	自由時間



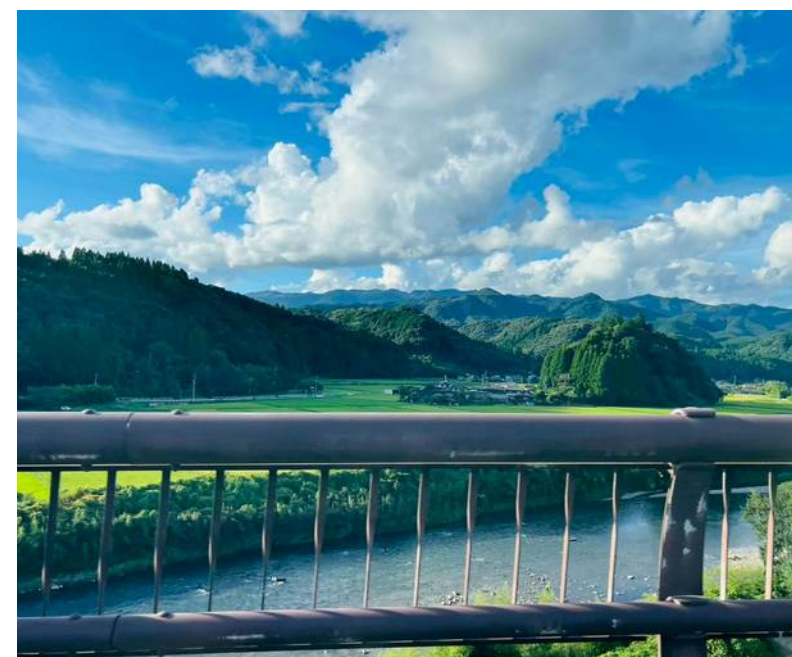
# 05

## ツアーの紹介

2日目のコンセプト：「あさぎりを遊び尽くす」

<夏>

時間	内容
8:00	農体験
12:00	昼食
14:00	屋内の遊び場(かえで館、MOZOKAなど)
16:00	水遊び(天子の水公園、川辺川、水上のプールなど)
18:00	自炊 or ホストと料理
19:00	食事
21:00	自由時間



# 05

## ツアーの紹介

2日目のコンセプト：「あさぎりを遊び尽くす」

<冬>

時間	内容
7:00	朝霧を見に千望台へ
10:00	猟の見学 or 竹炭体験→昼食
12:00	昼食
14:00	公園めぐり：森園、岡留公園、グリーンパレスなど
18:00	温泉めぐり（食事含む）：湯楽里、人吉温泉など
21:00	自由時間(可能であれば天体観測など)



# 05

## ツアーの紹介

### 3日目のコンセプト：「あさぎりの日常を体感する」

時間	内容
8:00	宿出発
8:30	保育園・学校の見学 ＊こども誰でも通園制度や一時預かり制度を利用
12:00	昼食
14:00	大人は先輩移住者に現地での仕事についての相談・4日目の内容について相談
17:00	保護者が子どもを迎えに行く
	親子揃ってスーパーで買い物
18:00	自炊 or ホストと料理
19:00	食事
21:00	自由時間



# 05

## ツアーの紹介

4日目のコンセプト：「あさぎりでの具体的なライフイメージを持つ」

### <オーダーメイドのツアー>

時間	内容
9:00	出発
	<ul style="list-style-type: none"><li>• 住まいのについての相談</li><li>• 就農や事業継承についての相談</li><li>• 先輩移住者や地域住民(子ども含む)との交流</li></ul> <p>*この間子どもをどこかに預けるのも可</p>
18:00	宿着

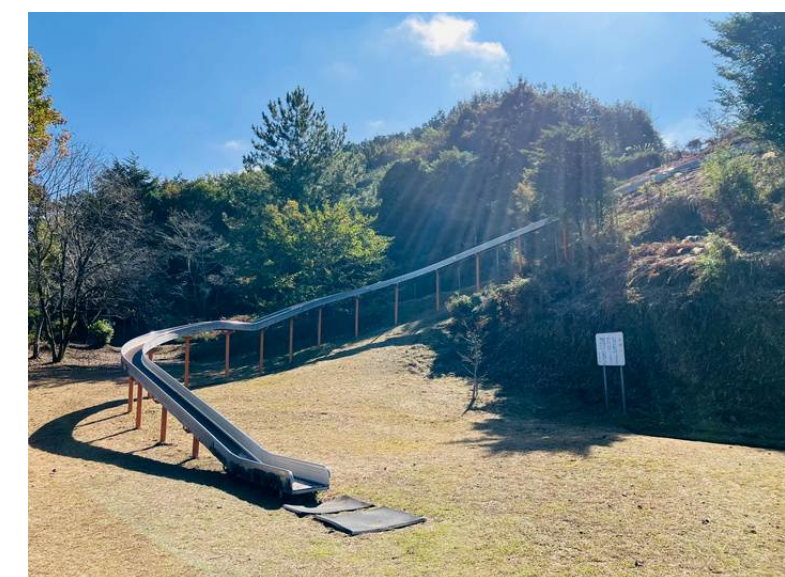


# 05

## ツアーの紹介

### 5日目のコンセプト：「あさぎりから人吉球磨に目線を広げる」

時間	内容
9:00	チェックアウト
午前	お世話になった人を訪問・あいさつ回り
13:00	<ul style="list-style-type: none"><li>人吉球磨地域の散策</li><li>錦町のイオンなどの買い物拠点や3日目に回り切れなかったレクリエーション施設を訪問</li></ul>
16:00	現地出発
21:00	居住地着



# 06

## お試しツアーの実施

- 参加者：東京在住のSさん夫婦と4歳のお子さん
- 実施時期：2026年1月22日～27日



### <参加後の感想>

#### 印象に残ったこと

- 豊かな自然環境
- 外の人も自然に受け入れられる雰囲気
- 宴会、焚き火などの団欒の時間

#### 暮らし・子育ての実感

- 問題なく暮らしていけそう
- 子どもは自然の中で特に楽しそうだった
- 保育園は魅力的
- 小中学校については今後もっと知りたい

#### ツアーの改善点

- 自由に動ける時間
- 地域の説明  
がもう少し欲しい

# 07

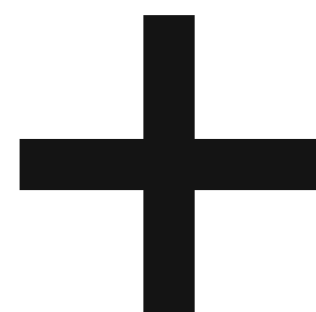
## 今後に向けて：来年度の事業イメージ

### 地域おこし協力隊

実働の主体  
ツアーのアテンド  
町外向け広報

### 卒隊者

卒隊後キャリア  
先輩移住者として



### 町役場

参加者への補助  
対外広報  
学校等との連携  
自治体間連携

### 学生

ツアー改善  
対外広報  
来年度以降の  
FSで継続参加

### 地域住民

アクティビティの提供・暮らし相談

# 08

## 今後に向けて：来年度の事業イメージ

### 基本は地域おこし協力隊が実施

- マネタイズできる形で移住ツアーを募集・実施する  
→地域おこし協力隊卒隊後のキャリア設計支援
- 年2シーズン（夏と冬）

KPI:受入数5組/年

本格的な移住相談につながった人1組/年

# 08

## 今後に向けて：町に期待すること

### 町に期待すること

- 移住ツアーに関わる補助金の交付  
→ ツアー参加者への宿泊費補助・活動費補助等
- 町外への広報の統括
- 保育園幼稚園に加えて小中学校の体験の統括
- 自治体間連携（人吉球磨地域・熊本県）

# 08

## 今後に向けて：地域外とのかかわり方について

### 企業とのかかわり方

- 移住・テレワークを前提とした企業誘致  
→cf.天草市の取り組み
- 町内関連企業（JTなど）の企業内移住ツアー
- CSR活動としての寄付/企業版ふる納の受け入れ

# 08

## 今後に向けて：学生とのかかわり方について

### 来年度のFS内容の提案

- 地域おこし協力隊と一緒にツアーを実施
- 自身も参加者としてフィードバックを与える
- 町外への広報を主導する
- 自治体間連携に踏み込む
- 事業化に向けて学生がいかに関われるか



**ご清聴ありがとうございました！**

# 熊本県山江村

宮下祐真・川口珠侑・堀之内悠也



山江村

Village Yamag Kumamoto



# 目次

- メンバーと山江村の紹介
- 活動と提案のサマリー
- 提案①: バイオマス発電
- 提案②: 林道アプリ
- 提案③: 商品開発
- 総括

# メンバーと山江村の紹介

# メンバー紹介

宮下祐真(総文・M2)、川口珠侑(農学部・B3)、堀之内悠也(工学部内定・B2)の3名で活動を行った



堀之内悠也・工学部内定・学部2年

宮下祐真・総合文化研究科・修士2年

川口珠侑・農学部・学部3年

# 熊本県山江村について

**山江村**は**熊本県南部**の人吉球磨地域を構成する1自治体。  
村の**8割以上を森林**が占めており、**やまえ栗**が特産品になっている



- ・地理: **熊本県南部**の**人吉球磨地域**の**1自治体**
- ・人口: 3128人(令和7年2月)
- ・村の**面積の8割以上が森林**

- ・基幹産業は栗や米などの農業
- ・「**やまえ栗**」というブランドの栗が特産品
  - 栗が村のアイデンティティになっている



# サマリー

# 活動のサマリー

2度の現地活動を通して山江村の課題を知り、課題解決に向けた施策の提案をチーム内で議論してきた

5月~9月現地活動①

山江村やバイオマス発電  
について学ぶ



栗畑の見学

10月~11月現地活動②

現地活動で学んだ  
ことから施策を  
練り直す



林道・山林の見学

11~2月

最終報告  
に向けた準備



手打ちうどんを打って  
食べながらミーティング

3月

現地 & 学内報告会

# 提案のサマリー

鎮山親水の理念実現に向け、森林に関わる担い手を創出するために  
バイオマス発電、林道アプリ、商品開発の提案を実施

## テーマの背景

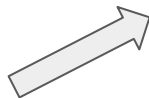
令和2年7月豪雨により被災



鎮山親水の理念に基づく復興  
が進む

自然との共生意識や畏敬の念を持ち、自然と親しむと同時に怖さを知り、自然との関わり方を見直す  
という考え

一方で



## 山江村の課題と提案

高齢化・人口減少による森林に関わる **担い手の減少**

原因

働く場がない



解決策

バイオマス発電など  
による**雇用創出**

山林に関わる  
機会が減少



林道アプリなどによる**森林  
との気軽な接点**の提供

外からの  
認知度の不足

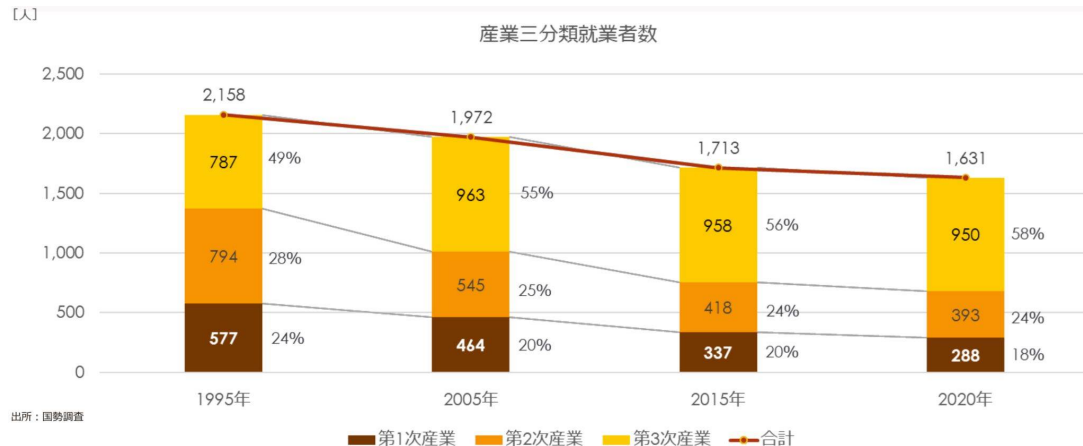


魅力的な商品開発や就労  
機会を通じた**知名度向上**

# バイオマス発電の提案と背景

# 山江村の課題①

山江村は**林業の従事者が減少**しており、山林を保全するための人材が不足している。山林に関わる**従事者の不足が山林の荒廃を招く**



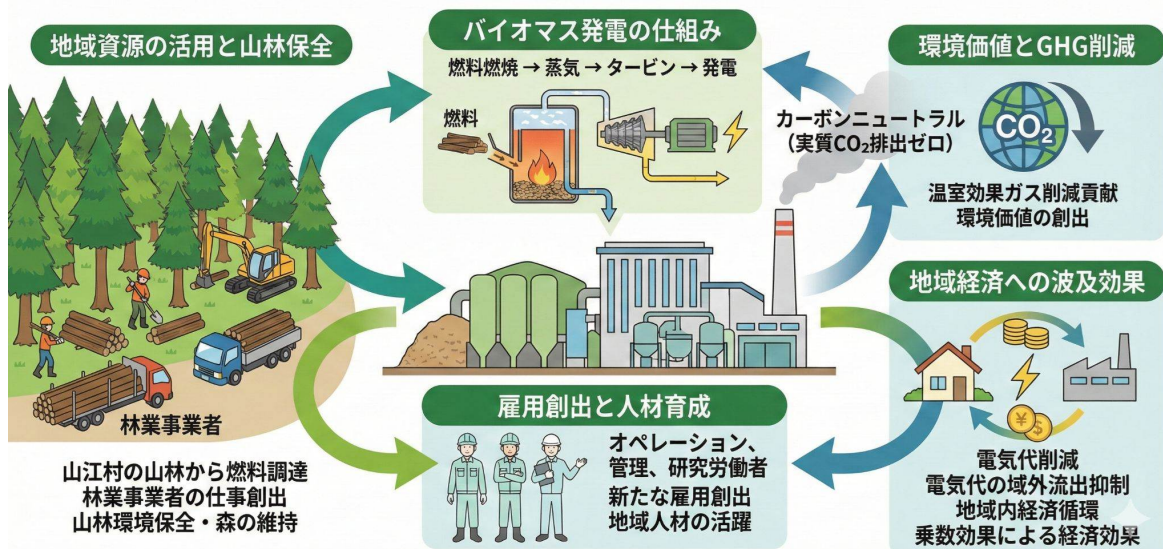
- ・山江村の第一次産業の従業者数は**20年前の半分近くに減少**
- ・**低賃金などを原因**に、新規就労者が減少し、高齢化と共に従事者は減少

- ・人工林の保全には人による適切な働きかけが必要
- ・**担い手不足**により、**森林の維持が困難**に

# 解決策としてのバイオマス発電

村内の木材を燃料とする**バイオマス発電**と削減されるGHG分の環境価値による**カーボンクレジット**によって**年5600万円以上の経済効果を創出**する

山江村バイオマス発電による未来創造サイクル：環境・経済・地域社会の好循環



\*1: 山江村「木質バイオマス資源の持続的活用に向けた設備導入計画書」

・村内の木材を燃料とする **バイオマス発電**を温泉施設に隣接 させる

・バイオマス発電による **CO<sub>2</sub>削減分**に対して**カーボンクレジット**として**認証**を受け、環境価値を企業に販売

・経済効果：**5600~9000万円**

- クレジット：年620~1050万円
- 発電によって生まれる熱による燃料代や電気代の削減：5000万円<sup>\*1</sup>
- 燃料調達によって生まれる経済効果：3000万円

# バイオマス発電の提案における工夫

バイオマス発電導入で**過去に村が頓挫した点を聞き取り**、**専門家へのヒアリング**を通じて新規性や収益性、実現可能性を高めた事業プランを提案

## 以前頓挫した点

### 議会の否決

理不尽な否決を受け、事業が否決<sup>\*1</sup>

### 採算性の懸念

採算が合わず、負債を負うリスク

### 急峻な山林

山江村の森林は急峻な山林が多い<sup>\*2</sup>

### 人材不足

運用/燃料調達を担う人材がいない

## 解決すべき点

もう一度議会を通すために**新規性**ある提案が必要

バイオマス発電の**収益性向上**が必要

急峻な場所から燃料を調達するための**設備投資**が必要

運用/燃料調達を担える人材の**外部からの採用**が必要

## 提案したこと

・**カーボンクレジット事業も合わせて実施** することで新規性を加える

- 年600~1000万円の収益向上にも寄与

・カーボンクレジットは、GAFA等の外資系企業からの強い要請やGHG排出量の開示義務化、炭素賦課金などの制度導入などにより、国内大手企業を中心に**需要が増加**<sup>\*3</sup>

- 同事業は近隣の人吉市で実施中

・まずは近隣の錦町のバイオマスから燃料を調達し、**運用面などの知見を蓄積**する

- **発電による収益を設備投資に**回す

- 大手企業も専門外は委託している<sup>\*3</sup>

・**都会の生活や大手企業での仕事に不満を抱える移住希望者をターゲットに**する

- 移住者の事例では、都市生活や仕事への不満が農村移住に繋がっている

\*1: 山江村自治体職員へのヒアリング \*2: 山江村内の林業事業者へのヒアリング \*3: 専門家へのヒアリング

# 林道アプリの提案と背景

# 山江村の課題②

山林に関わる機会が減少



**山林に関わる機会を増やし**て、村内の林業従事者の増加を図る

この課題に二方向からアプローチする

**林業に興味を持つ人全体を増やし**て林業の裾野を広げる

→政策① 市民参加型林道保全アプリの開発

林業への従事を考える人を呼び込む

→政策② **働きやすさ重視の林業経営の周知**

# 政策① 市民参加型林道保全アプリの開発

特に専門的な知識、資格のない近隣住民や観光客が林道保全の一助になり、**林業への関心を高めることを目的**としている。また、アプリ利用で得られる**特典をきっかけに村の魅力が広まる**ことも期待される。

## アプリの基本的な仕組み

管理者がタスクを発行

タスクの例) 林道の損傷確認、設備点検

ユーザーがタスクを実行

ユーザーは写真付きで報告する

タスク完了が承認されポイント獲得

ポイントは特典と交換できる  
特典の例) 村内で使える商品券、特産品

トレランなどのイベントも併せて普及を狙う方針

# 政策① 市民参加型林道保全アプリの開発

## アプリ画面モデル



マップ上にタスクを表示する



貯めたポイントを商品と交換 できる

## 政策② 働きやすさ重視の林業経営の周知

山江村の万恵林業では働きやすさ重視で、満足できる収入を得られる経営を実現していた。このような**経営形態を周知**し、**若い人材を呼び込んだり**、他の事業者で取り入れたたりする必要がある。

### 周知方法1: **認定事業所制度**

勤務形態や福利厚生で一定の条件を満たした事業所を行政が認定する。認定された事業所には支援金交付などの優遇を与えることで、経営改善を促す。また、求職者は就職先を選びやすくなる。

### 周知方法2: **中高生対象の職場体験**

学生に林業へ好印象を持ってもらい、林業への従事を将来の選択肢として考えてもらう狙いがある。

# 商品開発の提案と背景

# 山江村の課題③

人手不足などによる産業の衰退



やまえ栗を通して山江村の**知名度を向上**、雇用の創出

この課題に二方向からアプローチする

→施策①**やまえ栗を使った新商品栗シュークリーム** の開発

→施策②有機栽培による**やまえ栗の付加価値向上、販路拡大**

# 施策①やまえ栗のシュークリーム

地元の栗加工業者で、製菓も行うやまえ堂さんの協力の下、新商品(案)**栗シュークリーム**の試作を行う。試作、改善を終えた後、五月祭や駒場祭での出展により知名度向上を図る。



イメージ画像

シュー皮にはクッキー生地を使用。

中にカスタード・ホイップの混合クリームと、やまえ栗を使用したクリームを二層で注入。

やまえ堂さんの名物栗甘露煮を小さく砕いたものをクリームに混ぜ込む。

## 施策②有機栗の栽培、販路拡大

村役場では企画課の稲田さん主導で**有機栗**の栽培がおこなわれていた。  
有機栽培という付加価値をつけることで**海外などでの販売拡大**の見込みが高まる。

### 有機栗の栽培→加工、商品化→海外展開

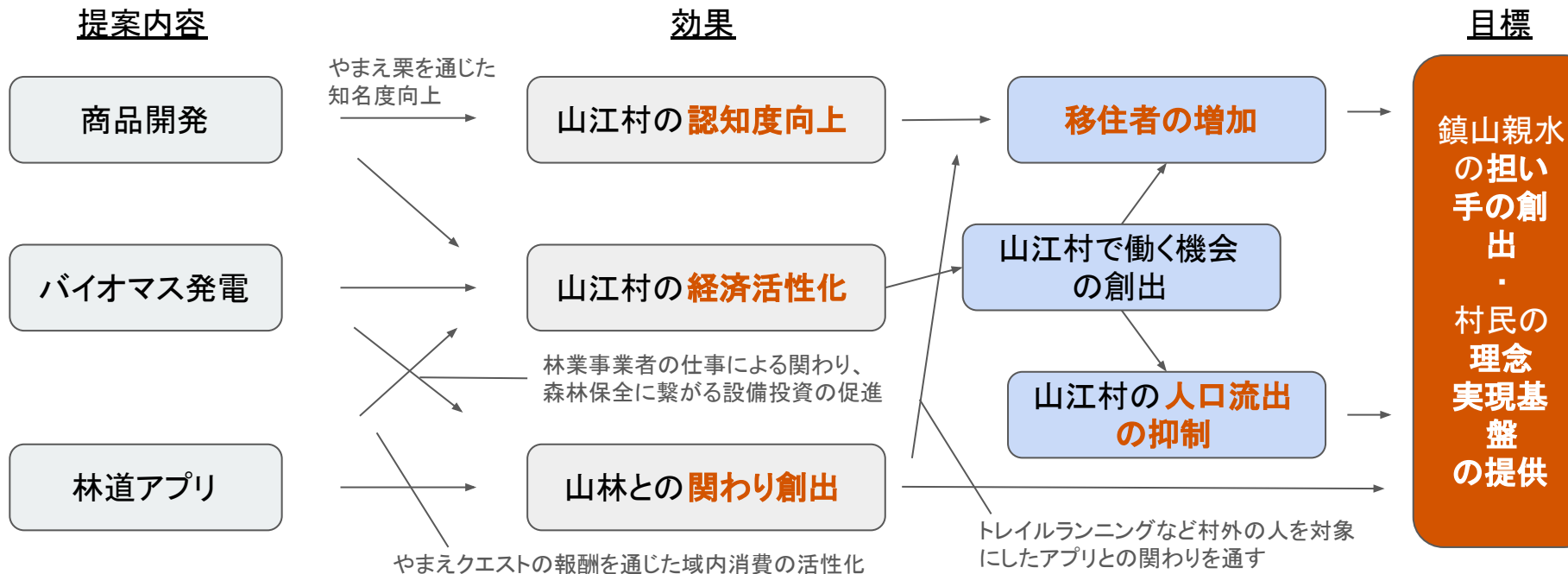
近年**有機栽培の農産物の需要は特に海外において高まっており**、中央アジアなどでは栗が多く食されているため、有機和栗の需要も高いだろうと考える。

有機栗の現在の生産量は安定的ではなく、商品としての供給の実現はまだ厳しいため、**今後の生産規模の拡大が必要**になる。

# 総括

# 提案の総括

バイオマス発電、林道アプリ、商品開発を通じて**移住者の増加や雇用の創出、山林との関わりを生み**、**鎮山親水の実現**を目指していく



# 学んだこと

山江村でのFSの活動を通して、xxxということを学んだ

経済効果の大きさを実感しながら、実現には高いハードルがあるバイオマスについて考えることを通し、**人手不足の中で新しい事業を始めることの難しさ**を感じたが、林道作りや商品開発など、コツコツと行動を続けて結果を出している村人の活動も知り、**愚直に継続することの大切さ**を知った

地域の活性化には経済効果が要ということを実感した。自伐型林業も、発電も商品開発も、結局**経済効果がなければ村全体で推進することが難しい**。一方で間伐の管理など利益以外のところで村を保っている人もおり、両者のバランスを取ることが大切だと感じた。

現地ではその土地に愛着を持って尽力している方々がいらっしやると強く実感できた。一方でそれだけでは足りないのも事実だ。もっと**村外の人が関わりやすくなることが重要**だと感じた。

東京大学  
フィールドスタディ型政策協働プログラム(FS)

# 宮崎県諸塚村 活動報告

伊神 裕人・李 怡然・真寿田 蓮

2026年2月13日 報告資料



# 目次

---

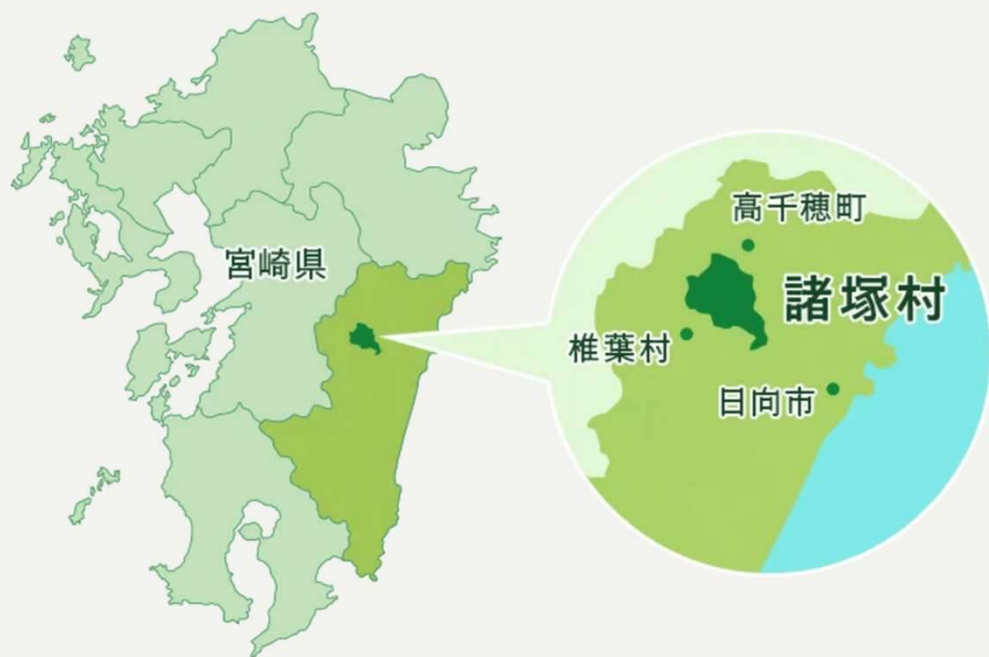
1. 基礎情報

2. 現地活動報告

3. 課題と政策提言

# 1. 基礎情報

# 諸塚村の概要



総人口 (R8.2.1) 世帯数

**1,242人** **561世帯**

男性: 621人 / 女性: 621人

日向市駅から車で約1時間。

## モザイク林相と世界農業遺産

面積の約95%が森林。多様な樹種が混ざり合う「モザイク林相」が特徴。  
。2015年に世界農業遺産に認定。

## 四大基幹産業とFSC®認証

日本初の自治体単位でのFSC認証取得。林業を中心とした複合経営が主体。

林業

椎茸

茶

肉用繁殖牛

## 課題について

前提:

課題は自治体から提示されず、自分たちで探す必要があった

1回目の現地活動で村の実情を知り、2回目の現地活動で取り組む課題を定めました

チームとして定めた課題:

情報発信力の不足

村の観光資源や魅力、移住希望者にとって有用な情報が潜在的な関係人口に届いていない現状があります

## 2. 現地活動報告

# 第1回訪問（9月12日～15日）

テーマ：村の産業や雰囲気を知る・感じる

## 1日目 導入と林業

村長表敬訪問、オリエンテーション  
伐採現場・木材加工工場見学

## 2日目 体験と祭り

「東大FS生の森」看板設置式・林内作業体験(伐採・舞茸植え体験)  
ぎやあな祭 運営補助・村民の方々と交流

## 3日目 ビジネスと交流

林間ビジネス（養鶏）視察  
敬老会への参加・運営補助  
土間焼酎@山本商店

## 4日目 農林業

園芸ハウス・牛舎・椎茸生産現場の見学



## 第1回訪問：印象に残ったこと

### 印象的なエピソード

- 住民一人ひとりが仕事だけでなく、コミュニティ内で複数の役割を同時に果たしている姿
- 敬老会や「土間焼酎」といった文化の中に根付く、人との強固なつながりと温かさ



### お聞きしたこと (抜粋)

- 林業、しいたけ、畜産、お茶という村の4大産業について、伝統的な手法が守られている一方で、現状維持の段階が続いており変革が難しいということ
- 村の9割を占める森林の手入れは行き届いているものの、伐採現場の高齢化が進み、工場の従業員数や取扱量が減少しているということ
- 神楽が行政主導ではなく、それぞれの「家」ごとに現在まで伝承されており、その文化が村外の人々をも惹きつける魅力になっているということ

### 活動を通じて感じたこと

美しい森林や伝統文化は自然に残っているのではなく、村民の方々の多大な労力によって守られていることを、作業体験や見学を通じて痛感しました。同時に、その担い手が確実に減っていることへの危機感も現場の空気として感じました。

## 第2回訪問（11月15日～18日）

テーマ：交流と暮らし、取り組む課題の深掘り



### 1日目 準備

村民文化祭 前日準備

### 2日目 運営と調査

村民文化祭 当日運営（本部・販売補助・誘導）  
各地区担当者・村民への聞き取り調査

### 3日目 村政・教育・観光

村長、包括支援センター長、観光協会事務局長との対談  
荒谷小学校訪問  
観光体験（竹伐採・舞茸採取・かっぽ鶏づくり）

### 4日目 福祉と総括

「じいばスクール」参加者との共同作業  
チームミーティング

## 第2回訪問：印象に残ったこと

### 印象的なエピソード

- 村民文化祭に参加し4,000人以上が来場する熱気の中で、地域の活力の中心であることを肌で感じると同時に、若者の参加不足などの課題も発見しました。
- 「じいばスクール」に参加し、村民の方々と共同作業を行いました。単なる作業支援ではなく、高齢者の孤立を防ぐ集まる場づくりの温かさを実感しました
- 荒谷小学校で児童と交流し、子供たちが村の自然や人の温かさを誇りに思っていることを知ることをできました。



### お聞きしたこと (抜粋)

- 様々な立場の方にお話を伺い、諸塚村を盛り上げたいという根底にある熱意と、そのための課題が「情報発信不足」であるという認識は全員に共通していました
- 村長や観光協会の方から、「生活文化に触れる体験型・少人数ツアー」や「ワーケーション誘致」を目指すという、村の方針と受入体制の現状について
- 高齢者支援の現状と、参加者の高齢化や人手不足といった地域福祉における切実な課題について

### 活動を通じて感じたこと

多くの方が活性化を願っていると確認でき、「情報発信力の強化」という課題解決に取り組む決意が固まりました

# 第3回訪問（2月7日～10日）

テーマ：神楽の見学と報告に向けた準備



**1・2日目** 神楽の見学  
南川神楽のお手伝い・見学

**3日目** 報告に向けた準備  
最終成果物作成のための素材集め  
諸塚中学校・iihi coffee・木材加工工場訪問

**4日目** 報告会



## 第3回訪問：印象に残ったこと

### 印象的なエピソード

- 南川神楽を見学し、伝統的な文化がどのように地域で継承されているのかを実際に見ることができました。
- 老若男女問わず厳しい寒さの中で神楽を舞い続ける姿や、2日に1回のペースで練習を重ねてきたこととお聞きし、伝統文化を担う村民としての矜持を感じることができました。



### お聞きしたこと (抜粋)

- 木材加工工場で新たに導入された機械とその背景について
- 実際に現場で働かれている人が考えている諸塚村の林業の強みやその将来像について
- 諸塚村のあり方や将来を考えて、自分の「好き」や仕事と村での生活のバランスを考えて生きるということ

### 活動を通じて感じたこと

来村するのは3回目ですが、来るたびに新たな魅力や人の温かさに触れることができ、また次来るのが楽しみです！

### 3. 課題と政策提言

## 課題と政策提言

課題:

### 情報発信力の不足

村の素晴らしい資源や魅力が、潜在的な関係人口に届ききっていない現状があります。

提言:

### 「入り口」としての情報発信強化

#### 情報発信の重要性

移住や観光、交流の第一歩は「知ること」から始まります。  
村への関心を惹きつけるための、視覚的・直感的な窓口の創出を提言します。

#### 具体的手段：ショート動画

SNS等で拡散されやすく、短時間で温度感を伝えられる「ショート動画」を活用。  
今回、我々でプロトタイプを自作しました。

# 諸塚村の一番の魅力

---



## 人間関係の あたたかさ

外から来た私たちを  
家族のように迎え入れてくれる  
深い包容力



## 多様な主体による 村づくり

住民、自治体、そして  
未来を担う子どもたちの  
真っ直ぐな声



## 肌で感じた 価値

現地体験だけで  
感じられる雰囲気

---

「この場所の魅力を、もっと多くの人に届けたい!」